

博士学位論文

日本語借用拘束形態素に関する認知言語学的研究

— フレーム意味論および構文形態論の観点から —

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

日本語文化専攻

HAMLITSCH Nathan Jesse

令和2年2月

**A Cognitive Linguistic study on borrowed bound  
morphemes in Japanese:  
A Frame Semantics and Construction Morphology approach**

**HAMLITSCH Nathan Jesse**

**A Thesis Submitted in Partial Fulfillment of  
the Requirements for the Degree of  
Doctor of Philosophy**

**Graduate School of  
Languages and Cultures,  
Nagoya University**

**February 2020**

## 目次

目次 .....	i
謝辞 .....	iv
図表一覧 .....	vi
第1章 序論 .....	1
第2章 先行研究 .....	7
2.1 借用語の意味としての文化的概念 .....	9
2.2 日本語における借用語を含む複合語の取り扱い .....	11
第3章 理論的枠組みと方法論 .....	14
3.1 動的用法基盤モデルにおける借用語 .....	14
3.2 構文形態論 .....	21
3.2.1 語基盤形態論 (Word-based morphology) .....	24
3.2.2 スキーマとサブスキーマ .....	26
3.2.3 範列的關係 (paradigmatic relations) .....	36
3.2.4 類推 .....	36
3.3 構文形態論と借用語 .....	38
3.3.1 中国語における借用語「吧」-bā (バー) .....	38
3.3.2 オランダ語における[x-gate]の借用 .....	40
3.3.3 日本語における新動詞 .....	41
3.4 フレーム意味論 .....	43
3.5 民族言語学 .....	51
3.6 方法論：データ収集の方法 .....	52
第4章 [x-jakku]の事例研究 .....	54
4.1 ハイジャックと[x-jakku]構文の起源 .....	55

4.2 [x-jakku]構文の初期分析.....	57
4.2.1 データ収集の方法.....	57
4.2.2 [x-jakku]の意味拡張の初期分析 .....	60
4.2.2.1 Hamlitsch and Horie (2017) で提案した[x-jakku]の意味拡張.....	63
4.2.2.2 Hamlitsch and Horie (2017) での[x-jakku]のパイロットスタディー の結論と問題点.....	70
4.3 [x-jakku]の構文ネットワークの拡張分析.....	72
4.3.1 データ収集の方法.....	72
4.3.2 [x-jakku]の構文ネットワークに関するデータ分析 .....	75
4.3.2.1 「電波ジャック」をめぐる調査と新しい仮説の提案 .....	79
4.3.2.2 [x-jakku]の誇張的拡張 .....	93
4.4 [x-jakku]の構文ネットワークの考察とフレーム意味論.....	102
4.5 結論 .....	107
第5章 [x-rosu]の事例研究.....	108
5.1 ペットロスと[x-rosu]構文の起源.....	109
5.2 [x-rosu] のデータ収集の方法.....	110
5.3 [x-rosu]の構文・ネットワークの分析.....	112
5.4 [x-rosu]の構文ネットワークの考察とフレーム意味論.....	132
5.5 結論 .....	135
第6章 [x-taimu]の事例研究 .....	136
6.1 [x-taimu]構文の起源.....	137
6.1.1 自由形態素としての「タイム」 .....	139
6.1.2 拘束形態素としての「〇〇タイム」 .....	141
6.2 [x-taimu] のデータ収集の方法 .....	144

6.3 [x-taimu]の構文・ネットワークの分析 .....	146
6.4 [x-taimu]の構文ネットワークの考察とフレーム意味論 .....	161
6.5 結論 .....	169
第7章 拘束形態素借用の動機付けに関する認知的考察 .....	170
7.1 リサーチクエスチョンに対する回答 .....	170
7.2 認知的な観点からの説明：「発話のための思考」 (thinking for speaking)、「フォアラー効果」 (the Forer effect)、「自己奉仕バイアス」 (self-serving bias) .....	180
7.2.1 「発話のための思考」 (thinking for speaking)：言語表現の使い分けに関する概念化 .....	180
7.2.2 フォアラー効果 (the Forer effect)：借用形態素構文（および借用語）が文化的概念を意味としてどのように獲得するか .....	183
7.2.3 自己奉仕バイアス (self-serving bias)：評価性の理由 .....	188
7.3 総合的考察 .....	190
第8章 結論および今後の展望 .....	193
参考文献 .....	196
付録1：BCCWJ コーパスから抽出した [x-jakku]の用例 .....	204
付録2：NLT コーパスから抽出した [x-jakku]の用例 .....	206
付録3：朝日菊蔵 II ビジュアルコーパス、中日・東京新聞データベースコーパスから抽出した [x-jakku] の用例 .....	213

## 謝辞

本博士論文の執筆にあたり、お世話になった方々に心から厚く感謝申し上げます。第一に、指導教員である堀江薫先生、杉村泰先生、秋田喜美先生に感謝申し上げます。堀江先生は私を絶え間なく励ましてくださり、研究について絶えず建設的なフィードバックをくださいました。堀江先生のアドバイスと専門知識に助けられ、「何もない」から「何か」を書くことができました。また、「創作上行き詰まった」とときには、常にベストを尽くすためにさらなる励ましを与えてくださいました。杉村先生はいつもユーモラスに、現状に挑戦するように勧めてくださり、また学生の意見は先生の意見と同じくらい有益だということを常に教えてくださいました。日本語で借用語に関する最初のプレゼンテーションをしたのは杉村先生の授業でした。先生のサポートもあり、私は自信を持ってそれを達成することができました。秋田先生からは数え切れないほどの助言をいただきました。豊富な専門知識から、私の論文をさらにブラッシュアップすべく、さまざまな知見や参考文献などを教えていただきました。秋田先生の親切さと無数の指導をしてくださったことは決して忘れません。

また、論文の完成に向けて励ましてくださり、特に学术论文の構造と論理の観点から論文の書き方を指導してくださった<sup>ライウエイリン</sup>頼偉寧先生にも感謝したいと思います。(I would also like to give thanks to Dr. Wai Ling (Paul) Lai for encouraging me to the finish line, and coaching me on my dissertation especially in terms of the structure and logic of academic writing.)

計りしえないほどの時間を費やして、日本語について章ごとに助けてくださり、また他の役立つコメントや鋭い指摘をしてくださった中畠浩貴氏にも厚く

感謝申し上げます。また、本論文の原稿に関する形式上のコメントやその他のさまざまな提案をくれた神原一帆氏にも厚く感謝申し上げます。

さらに、学会の場や、または個人的に建設的なコメントや提案をいただきました。決して網羅的ではありませんが、次の皆様に感謝いたします（敬称略・五十音／アルファベット順）：岩田彩志、戸田山和久、鍋島弘治朗、松本曜、靱山洋介、Colin Baker, Natalia Beliaeva, William Croft, Nick Enfield, Daniel Everett, Martin Hilpert, Istvan Kecskes, Suzanne Kemmer, Ryan Lopic, Gunter Senft, Elizabeth Traugott。

最後に、本論文を完成させるのに 6 年間を貸してくれた、妻のえりに感謝します。彼女のサポートと理解なしには本論文を成し遂げることはできませんでした。義理の母と義父の山田茂子と山田信夫にも、この期間に私の家族に関する必要な支援を提供して下さったことについて特に感謝を申し上げます。彼らの絶え間ない献身がなければ、本論文は完成しなかったでしょう。最後に、本論文は、こはる、すみれ、そしてもうすぐ生まれてくる息子 [名前はまだ秘密] に捧げます。私がこの道を進んでいける深いモチベーションを与えてくれてありがとう。

## 図表一覧

### 第3章

図 3.1 「犬」の語彙表示 (Booij 2010: 7 (Figure 1.2) に基づいている) .....	23
図 3.2 オランダ語の複合語[ <i>hoofd-y</i> ]のスキーマ的表示 (Booij 2010: 62 の (20) を微修正) .....	28
図 3.3 日本語における複合語の簡略的表示 (Booij 2010: 70 (39) から微修正) .	30
図 3.4 オランダ語における[x-er]構文のネットワーク (Booij (2010: 77-84) に基づき筆者が作成) .....	34
図 3.5 本論文の構文ネットワークの一例 .....	50

### 第4章

図 4.1 Hamlitsch and Horie (2017) で提案した<車両 (vehicle <sub>i</sub> ) を武器 (arms <sub>k</sub> ) で占領する>の意味の[x-jakku]構文.....	56
図 4.2 <車両 (vehicle <sub>i</sub> ) を武器 (arms <sub>k</sub> ) で占領する>および<空間 (space <sub>i</sub> ) を道具 (instrument <sub>k</sub> ) で占領する>の各子ノード (接点) とその抽象化された親ノード<何か (SEM <sub>k</sub> ) で何か (SEM <sub>i</sub> ) を占有する>からなる[x-jakku]の構文... 66	66
図 4.3 Hamlitsch and Horie (2017) で示した[x-jakku]の構文ネットワークと《日本の電車》フレーム (1 つ目の[x-jakku]の構文は黒で、2 つ目の構文は灰色で表されている) .....	68
図 4.4 <武器で SEM <sub>i</sub> を占有する>を意味する[x-jakku]の構文.....	77
図 4.5 「電波ジャック」の最初の拡張による[x-jakku]の構文 .....	80
図 4.6 「電波ジャック」の最初の意味拡張により生じた親ノードの[x-jakku] (<宣伝で電波 <sub>i</sub> を占有する>) の構文ネットワーク .....	84
図 4.7 親ノードの具体例として表されている《Japanese_politics》 (《日本の政治》) フレームの [x-jakku]構文と「電波」からのメタファー的意味拡張.....	87
図 4.8 [...] <sub>VN<sub>j</sub></sub> ↔ [occupying AN ADVERTISEMENT SPACE <sub>i</sub> w/ ads] <sub>j</sub> というサブノードを追加した[x-jakku]の構文のネットワーク .....	88



図 4.9 [...] <sub>VN<sub>j</sub></sub> ↔ [occupying AN ADVERTISEMENT SPACE <sub>i</sub> w/ ads] <sub>j</sub> というサブノードに電車関連の要素の追加した[x-jakku]の構文ネットワーク .....	90
図 4.10 範列的に交替する「広告」ノード（灰色で表された部分）を追加した[x-jakku]構文ネットワーク .....	90
図 4.11 代表的なフレーム要素を囲んでいる《Japanese_train》（《日本の電車》）フレーム（図中の円）と、点線の矢印で表される視覚化されたメトニミー的拡張を含めた[x-jakku]の構文ネットワーク .....	92
図 4.12 [occupying SEM <sub>i</sub> w/ salient property of occupier; humorous] <sub>j</sub> < 占領者の顕著な特性とともに SEM <sub>i</sub> （どこか）を誇張的に占有すること ; ユーモラス > というノードにおいて、[occupying SEM <sub>i</sub> w/ arms] <sub>j</sub> の元の意味から誇張の意味への拡張を含んだ[x-jakku]の構文ネットワーク .....	96
図 4.13 [x-jakku]の構文ネットワーク .....	99
表 4.1 BCCWJ コーパスから抽出した[x-jakku]の構文のパターン .....	58
表 4.2 NLT コーパスから抽出した[x-jakku]の構文のパターン .....	59
表 4.3 NLT コーパスから抽出した「電車」に関する[x-jakku]の構文のパターン .....	60
表 4.4 「Japanese Web 2011 corpus」 (jaTenTen11) から得た[x-jakku]構文のパターンは、延べ語数の順に並べられている。 .....	73
表 4.5 jaTenTen11 コーパスから抽出した[x-jakku]の構文の延べ語（100 個を超える延べ語）の上位 10 種類 .....	75

## 第 5 章

図 5.1 <死によって親しいヒトを失うこと <sub>i</sub> で感情的な苦痛を経験する>を意味する[x-rosu]構文 .....	115
図 5.2 [x-rosu]構文ネットワークにおける、<親しい人（一方的な感情も含む） <sub>i</sub> と死別しそれにより感情的苦痛を経験する> <sub>j</sub> ノード（図の左側）から<親しい人（一方的な感情も含む） <sub>i</sub> を心理的に失い、それにより感情的な苦痛を経験する> <sub>j</sub> ノード（図の右側）へのメタファー的意味拡張と、それらの親ノード<	

SEM (何か) を SEM (何か) で失い、それにより感情的な苦痛を経験する> .....	117
図 5.3 《Japanese_childrearing》 (《日本の子育て》) フレームと 《Japanese_marriage》 (《日本の結婚》) フレームの 2 つの文化的フレームの 表示を含む[x-rosu]構文のネットワーク .....	123
図 5.4 灰色のボックス内の構文 (<人生を変えるイベント <sub>k</sub> で親しい誰か (一 方的な感情も含む) を心理的に失い、それにより感情的な苦痛を経験する> との範列的な (パラダイム的な) 交替の表示 (図の右側) を含む[x-rosu]構文の ネットワーク .....	128
図 5.5 <人生の中で日常的な活動を行うこと <sub>i</sub> の終わりを感、それによって 感情的な苦痛を経験する> <sub>j</sub> ノードを追加した[x-rosu]構文のネットワーク ....	130
図 5.6 1 番目の[x-rosu]構文は黒で、2 番目の構文は灰色のボックス (フレーム 要素は灰色のノード) で表されるている[x-rosu]構文ネットワーク .....	131
表 5.1 「Japanese Web 2011 corpus」 (jaTenTen11) から取得した[x-rosu]構文のパ ターン (延べ語数順) .....	112
第 6 章	
図 6.1 BCCWJ から得た「タイム」を含む英語からの代表的な借用複合語.....	147
図 6.2 BCCWJ から得た「タイム」を含む英語からの代表的な借用複合語 (グル ープ別)。上から時計回りに①ビジネス・商売系用語、②[x-taimu]構文にいくら か意味の似た借用複合語、③表 6.1 の定義 2 (スポーツ)、④表 6.1 の定義 3 (ス ポーツ) .....	147
図 6.3 [an enjoyable time that involves SEM <sub>i</sub> ] <SEM (何か) が関わる楽しい時間 >という意味の構文 .....	148
図 6.4 英語からの借用複合語による[x-taimu]構文のスキーマ化とその他の関連 する用例 .....	150
図 6.5 《日本の家族・子供に関する活動》 (《Japanese_family/children_activity》) フレームと[x-taimu]構文 .....	151

図 6.6 《プライベートの時間》（《Japanese_me_time》）フレームと[x-taimu]構文 .....	153
図 6.7 一部の要素が《日本の家族・子供に関する活動》フレームと《プライベートの時間》フレームの両方に頻繁に参加することを示す[x-taimu]構文 .....	157
図 6.8 《日本の食事》フレームと、それが他の2つの文化的フレームとどのように重なるかを示す[x-taimu]構文ネットワーク .....	160
図 6.9 [x-taimu]の構文ネットワーク .....	166
表 6.1 「タイム」の定義 .....	137
表 6.2 BCCWJ コーパスから得た[x-taimu]構文のパターンは、延べ語数の順に並べられている .....	144
第7章	
図 7.1 類推に基づいている初期の意味拡張と、十分な例が生じた後のスキーマ化の図示 .....	172
図 7.2 [x-jakku]の誇張的意味拡張 .....	173
図 7.3 文化的フレーム内の具体例に基づく[x-rosu]のメタファー的拡張 .....	173
図 7.4 文化固有のフレームに関する[x-jakku]および[x-rosu]構文のメトニミー的拡張 .....	176
図 7.5 [x-jakku]構文のノードでの創造的なメトニミー的拡張 .....	176
図 7.6 [x-jakku]、[x-rosu]、[x-taimu]の意味拡張の概括 .....	179
図 7.7 借用語の意味解釈のプロセス .....	192
表 7.1 スケッチの項目のグループ容認 .....	186

## 第 1 章

### 序論

日本語には、世界の諸言語と同様に、他言語からの言語表現の借用が多くある。古来、中国語は日本語にとって最大の借用語の提供言語であり、日本語は中国語から多量の文字や語彙、さらに文法形式を借用して自らの語彙・文法体系を豊かなものにしてきた。その後 16 世紀以来、中国語からのものよりも範囲がはるかに限られていたものの、日本語はポルトガル語とオランダ語からも借用を行ってきた (Hoffer 1980: 2; Irwin 2011: 13)。他の欧州言語 (ドイツ語、フランス語、英語など) からの借用表現は、明治時代 (19 世紀後半) に日本語に取り入れられ始め、今日まで続いている (Loveday 1996: 47-48; Stanlaw 2004: 13 を参照)。そのうち、20 世紀半ば以降、日本語が引き続き多くの借用を続けている最大の借用もと言語は英語である (Hoffer 1980: 1-3; Loveday 1996: 64-71; Irwin 2011: 43)。

本論文でいう「借用語」とは、この明治時代以降<sup>1</sup>に取り入れられた英語由来のものを指すことにする。

日本語における借用語の大半は名詞、動詞、形容詞のいずれか<sup>2, 3</sup>であることはよく知られており (Irwin 2011: 1-2)、そして、この中で名詞の借用語彙の数は他の 2 つのカテゴリーを合わせた数をはるかに上回る (Stanlaw 2004: 12; Takashi 1990: 93-100; Shimada 2003 も参照)。英語由来の借用語のうち、その下位分類として、主に拘束形態素として使用される抽象語彙がある。抽象語彙とは、金 (2011) では国立国語研究所 (2004) が出版した『分類語彙表 増補改訂版』において「1.1 抽象的關係」(「ラベル」「データ」「タイプ」「スペース」など)「1.3 人間活動—精神および行為」(「イメージ」「コピー」など) というカテゴリーのいずれかに属するものに限定している (p. 25)。本論文では、これらの形態素は日本の文化に根差す「フレーム (frame)」を喚起すると主張する。本研究は、3 つの「形態的構文 (morphological construction)」、[x-jakku]、[x-rosu]、[x-taimu]を研究対象として議論する。本論文では Booij (2010) の構文表示を使用し、これらの構文をカタカナ (x-ジャック) ではなくローマ字で [x-jakku]として記述する (陳・松本 2018)。これらはそれぞれ (1) — (3)<sup>4</sup>に例示するような表現である。

---

<sup>1</sup> 開国に合わせて英語由来の借用語の導入が本格的となったとされている (Loveday 1996: 50; Irwin 2011: 54-55)。実際、本研究で扱う借用語のうち初出が最も古いと考えられる「ジャック」に関して、辞書に記載されている初出の年は 1976 年である。

<sup>2</sup> これはもともと何語でも名詞、動詞、形容詞が多いことから自然である。

<sup>3</sup> 日本語での英語由来の借用語について特徴的なところは、直接的言語接触が非常に限られていながらも借用も非常に多いところである (Irwin 2011: 1-2)。

<sup>4</sup> 本論文では、章ごとに (1)、(2)、(3) と例文番号を付けることにする。

- (1) 広告ジャック < (合法的に) 広告でどこか (電車や駅など) を占有すること >
- (2) 逃げ恥ロス < 「逃げるは恥だが役に立つ」というテレビドラマ (のシリーズ) が終了することにより、それを視聴することにより得ていた楽しみを失う (そして残念に感じる) >
- (3) 親子タイム < 親子が何か楽しい交流活動をすること >

また、本研究の主なりサーチャクエスチョンとして以下の2つを設定する。

- 1) 日本語に借用された (1) ~ (3) の拘束形態素は日本語でどのような構文ネットワークを示すか。
- 2) 文化的フレームは日本語における借用拘束形態素の構文ネットワークにどのように貢献しているのか。

最初の研究課題に対する答えは記述的なものであり、第4~6章を通して展開していく。本論文では、メタファー的およびメトニミー的拡張がどのように起こるかを示すために、[x-jakku]、[x-rosu]、[x-taimu]が持つ構文ネットワークを示す。そしてこれらの提案する3つの構文ネットワークが、この問いに答えるための洞察を提供することを示す。

2つ目の研究課題に関しては、借用された拘束形態素の構文ネットワークに対して日本の文化的フレームが寄与するだけでなく、これらの借用語が取りうる意味拡張のパターンを制約するということに関し、中心的な役割を果たすことを論じる。これらの借用形態素は、表面上は、日本語母語話者にはやや「外国語」

的な印象を与えることがあるが、実際にはこれらの借用形態素は日本社会に内在する文化現象に動機づけられたものであると論じる。

2つ目の研究の問いに対する答え、つまり、本研究の主な主張は、以下の I および II にあげるとおりである。

- I. 日本語における借用拘束形態素は、日本文化にルーツをもつフレームを喚起する。
- II. これらの文化的フレームは、借用語の意味拡張の制限において中心的な役割を果たしている。

本研究では[x-jakku]、[x-rosu]、[x-taimu]という3種の表現を対象とするが、その選定理由は以下の通りである。理想的には、コーパスにおける頻出の借用拘束形態素をリストし、そこから対象語を選定すべきところであるが、[x-jakku] (例：電車ジャック)、[x-chikku] (例：東京チック)、[x-kon] (例：マザコン)、[x-hara] (例：アルハラ) のように借用拘束形態素は、しばしば縮約を経ているため、コーパスで既存の外来語を検索していただくだけでは発見が難しい。そのため、本研究では探索的な手法を採用し、日本における日本語生活を通して実際に出会った例を出発点に、対象語を選定した。<sup>5</sup>

また、この3つの構文の選定には、本論文が採用する「構文形態論」に基づく理論的な根拠がある。Booij (2010: 88-93; 3.2.4 節を参照) では、スキーマ的表示において連続体を提案しており、一方の極が類推に基づいているもの (創造的なもの) で、もう片方の極がよりスキーマ的表示に基づいているもの (生産的なもの)

---

<sup>5</sup> そのプロセスにおいては、非母語話者である日本語学習者であり、かつ英語母語話者である筆者の言語経験・言語直観が有用であった。

の)である。フレームはそれ自体が重要な研究対象であるため、借用拘束形態素とフレームの結びつきに関して次の二つの場合が考えられる。一つは語が借用された後、ならびにスキーマ化を経た後の意味拡張が文化的フレームにもとづいている場合、そしてもう一つはそうではない場合である。そうすると 1) 類推 (フレームなし)、2) 類推 (フレームあり)、3) スキーマ (フレームなし)、4) スキーマ (フレームあり) の 4 タイプの論理的可能性がある。[x-jakku]は 1 つ目のタイプである (「ハイジャック」などに関する文化的フレームは明白でない)。これに対し[x-rosu]は 2 つ目のタイプである (《家庭用ペット》フレーム「ペットロス」「猫ロス」など)。そして、[x-taimu]は 3 つ目のタイプである (英語由来の複合語に基づいている「ティータイム」「バスタイム」など)。「フレームあり」でスキーマ化された 4 つ目のタイプは論理的には可能ではあるが、複数の借用複合語がメトニミー的な意味関係にあるという状況が自然言語で観察される可能性は低いと思われる。このことから、残りの論理上の 3 つのタイプの代表的なものとして[x-jakku]、[x-rosu]、[x-taimu]を取り上げることにする。

第 3 章で取り上げるように、これらの構文によって喚起される文化的フレームは、本来の日本語で語彙化<sup>6</sup>されていない文化固有の概念であり、このような概念は意味拡張を経て言語化される。Booij (2010) の構文形態論での構文ネットワークでは意味拡張は想定されておらず、これについての新たな知見を示すことが本研究の主たる意義である。

本論文の概要は次のとおりである。第 2 章では、本分析に関連する先行研究を概観する。第 3 章では、本研究で援用する理論的枠組みとデータ収集の方法について説明する。第 4 章では、[x-jakku]構文のネットワークとその文化的フレ

---

<sup>6</sup> 語彙化されている／されていない概念については 3.1 節を参照。



ームとの関係について詳しく考察する。同様の考察を、第 5 章と第 6 章でそれぞれ[x-rosu]構文と[x-taimu]構文について行う。第 7 章では、3 つの事例研究の結果を踏まえ、本章で設定した研究の問いと仮説について議論する。最後に、第 8 章では、本研究の結論、限界、および将来の展望を示す。

## 第2章

### 先行研究

日本語における借用抽象語彙（第1章（p.3）を参照）の意味に関する実証研究は必ずしも多くなく（cf. 金 2011）、抽象的な借用語の形態論についての研究はさらに少ない。ただし、英語由来の拘束形態素「ーチック」ならびに「ーライク」の分析が村中（2012, 2014）に見られる。借用語研究の中でも、注目すべき金（2011）では、抽象語彙の借用語の一部が徐々に、対応する意味をもつ既存の語にとってかわるといふ、通時的なプロセスを通じて「基本語」<sup>7</sup>になると主張されており<sup>8</sup>、その具体例として「トラブル」と「ケース」の2つが取り扱われている。簡単に説明すると、例えば、「トラブル」という単語は「もめごと」や

---

<sup>7</sup> 金（2011: 59）は『国語学大辞典』に従い、基本語を「語彙の中心部にあつて、『使用率が大きく、しかも対象とする言語作品あるいは言語体系の中に幾つかの層を設けて考えることができる場合（略）、できるだけ多くの層に出現する語の集合をいう』（『国語学大辞典』「語彙」の項、樺島忠夫による）」と定義している。本研究もこの定義に従う。

<sup>8</sup> 金（2011）は新聞記事を分析対象としており、この主張が他のデータにも適用可能か否かは議論の余地がある。

「いざこざ」などの日本語を置き換えるべく借用されたということである。「借用語が既存の語にとってかわる」という主張の妥当性については別途検討するとしても（以降の議論を参照のこと）、金（2011）の研究は日本語の借用語研究において非常に重要なものであり、この分野の重要な道しるべになると思われる。

一般的に言えば、金（2011）には少なくとも2つの非常に重要な点がある。第一に、筆者の知る限り、金（2011）の研究は日本語で抽象語彙の外来語の実証的研究を行った最初期の試みであり、その点において評価されるべきである。第二に、同研究は、借用語がそれ自体で体系的に研究できることを示唆している。

金（2011）の論文の注目すべき点は、一部の抽象語彙の借用語の使用が通時的に増加していることについての理由を提示している点にある。すなわち、これらの借用語を導入する目的が、（最終的に）これらを基本語化するためであるとす点である。金（2011）では、次のようにこのプロセスが説明されている。

日本語語彙における外来語の位置の〔中略〕変化は、3つの局面としてとられることができる。第一に、「外国語」から日本語としての「外来語」へと借用され、定着する局面、第二に、そのような外来語が日本語語彙の周辺に「非基本語」として存在し続ける局面、第三に、そのような非基本語としての外来語が語彙の中心部に移行して「基本語彙」の仲間入りをする（＝「基本語化」する）という局面である。

（金 2011: 1）

ただし、金の説が妥当であったとしても、その「基本語化」する背後には何らかの理由がなければならない。これらの単語は日本語母語話者にとって何らか

の有用性を持っているはずである。そうでなければ、基本語になる理由が見出しにくい。これに関連して、(一部の)借用語の通時的増加についての金(2011)の調査結果では、それらの借用語は和語・漢語が持たない意味を表すように特化したと解釈している(これについては2.1節で詳しく取り扱う)。

本研究では、借用語の研究に対して用法基盤モデルを用いる。Rohde et al. (2000: 9)によれば、用法基盤モデルでは、借用語とは既に語彙化されている概念を表す新しい語ではなく、独自の「意味極 (semantic pole)」を持つとされる。つまり、借用語は類似の意味をもつ既存の表現を置き換えるのではなく、併存すると考えるのである(Horie and Occhi 2001も参照)。本研究では意味の特殊化(詳細は3.1節を参照)を考慮し、用法基盤モデル(cf. Langacker 1987, 1988, 1991, 2000; Barlow and Kemmer 2000)の立場から、借用語と日本語の複合語<sup>9</sup>の相互関係を分析する。

## 2.1 借用語の意味としての文化的概念

本研究では、借用された拘束形態素が日本語の文化的概念と深く結びついていると論じる。管見の限り、本研究はこの問題を論じた最初の試みである。金(2011)では、「トラブル」と「ケース」という2つの事例を研究し、借用語が基本語になりつつあるという主張を検証している。ここで興味深いと思われるのは、これらの借用語が基本語化される理由にある。

「トラブル」については、1960年ごろから新聞に使われ始め、1980年ごろまでにはその意味・用法を3種6類にまで拡大させて、最終的に

---

<sup>9</sup> 3.2.3節で説明するように、本研究では、この種の複合語を指すために、Jackendoffの用語である「構文イディオム」(constructional idiom) (Jackendoff 1990: 221; Booij 2010: 13-14; 2013: 5-7)を利用する。

は、新聞で報道される機会の多い「深刻・決定的な危機的事態に至る可能性を持って顕在化した不正常的な事態」を「広く」「概略的に」表すことのできる、それまでの新聞語彙にはなかった「便利」な単語として成立したことを明らかにし、そうした基本語がそれまでの和語・漢語の類義語<sup>10</sup>とは別に必要とされた背景に、20 世紀後半における新聞文章の概略的な文体への変化があることを示した。

(金 2011: 121-122、ただし注は筆者による)

同様に、「ケース」についても、次のことを指摘している。

形式名詞的な「ケース」については、20 世紀末の新聞文章において、連体修飾節構造における客観的同格連体名詞という形式（用法）において最も多用されていること、より具体的には、「(すでに起こった) 良くないコトガラ (=ケース) が〈多い／有る〉」という表現に、類義語である「事例」「例」「場合」よりも明らかに多く用いられている、ということを見出した。この「(すでに起こった) 良くないコトガラ (=ケース) が〈多い／有る〉」という表現は、新聞において報道される機会がきわめて多いものであり、「ケース」が現在の新聞文章で基本語たりえているのは、こうした表現に用いられる語として、類義の 3 語よりも積極的に用いられているからだという見方を提示した。

(金 2011: 122)

---

<sup>10</sup> 例えば、金 (2011) では「いざこざ・こぜりあい・ごたごた・摩擦・もめごと」が取り上げられている。

つまり、これらは和語・漢語にとってかわるというよりも、借用の有用性についての文化的理由を述べているように思われる。というのも、「それまでの新聞語彙にはなかった『便利』な単語」（金 2011: 121）という指摘は、借用語が和語・漢語が持たない機能まで果たしていることを示唆しているからである。フレーム意味論を取り上げる 3.4 節では、これらに関連する「人間社会の慣習 (human institutions)」（Fillmore 1982）について考える。

## 2.2 日本語における借用語を含む複合語の取り扱い

日本語における借用語を含む複合語については、それほど注目されていない。Hamlitsch (2014) に記載されているように、借用語に関する 3 つの実証的研究 (Takashi 1990; Shimada 2003; 金 2011) では、実質的には複合語は取り扱われていない。というのも、例えば Takashi では、複合語は独立した形態素に分割され、分析されているからである (そのためか、実際の複合的用法についての記述は少ない) (Hamlitsch 2014: 18-20)。また、Shimada では実際にこのことを以下のようにより明示的に述べている。

外来語が複合用法であった場合、その複合語が [辞典] に記載されているかを確認した。記載されている場合は、使用が確立しているとみなし、そのまま取り上げた。そうでない場合は、別々の語とみなし<sup>11</sup>、別々に扱うことにした。

(Shimada 2003: 35; Hamlitsch (2014: 20) による翻訳、また注は筆者による)<sup>12</sup>

---

<sup>11</sup> ただし、Shimada (2003) では具体的に別々の語に分けられた表現が何であるかの例は挙げておらず、脚注 13 の複合語とみなした例のみを挙げている。

<sup>12</sup> “When a loanword(s) occurred as a compound, the dictionaries listed below in step 4 were consulted to see if the compound has an entry in them. If so, then the compound is listed as a

当然のことながら、辞書に記載されている複合借用語はあまり多くないため、この収集方法では 12 個の語形<sup>13</sup>しか残らない。最後に、金 (2011) は複合語 (金の用語では「結合用法」) を分類しようと試み、発見された多くの複合語を提示しているものの<sup>14</sup>、結果的に Shimada と同様の記述となっている。すなわち、金は「新聞記事に多くみられる『臨時一語』<sup>15</sup>は、『自立用法』 (林四郎 1982) に含めた」 (金 2011: 61) とされており、多くの本来複合語として扱われるべき語をそのように扱っていないのである。

借用語は興味深い新たな研究分野になる可能性が以前より注目されていたが、現状では、他の要素と結合し複合語を作る借用語のありようがはっきりとは理解されていない。たとえば、野村 (1982) は「新語辞典において、外来語と漢語がはりあっているようにみえるのは、正確には、つぎのようにとらえるべきである。二単位の複合語としての外来語⇔四字漢語」 (野村 1982 : 47) <sup>16</sup>と述べており、単なる (同義語的な) 対応関係の指摘にとどまっている。このような状況は、

---

compound because it is considered that the compound has an established meaning as itself. If not, the compound is divided into single words are listed separately.” (Shimada 2003: 35)

<sup>13</sup> 「コールガール／キャリアウーマン／ラブレター／ショーウィンドー／テニスコート／トイレットペーパー／ベスト版／電子レンジ／歯ブラシ／マルチ商法／スナップ写真／デラックスミートローフ」の 12 個。

<sup>14</sup> たとえば「トラブル」を含む複合語について、金 (2011) は次のようなものを取り上げている：【ヒトとヒトとのトラブル】〔デキゴトのトラブル〕 (「金銭トラブル」「駐車トラブル」「マンショントラブル」など)。〔関係のトラブル〕 (「金銭トラブル」「家庭内トラブル」など)。【モノのトラブル】〔機械のトラブル〕 (「車両トラブル」「原発トラブル」「コンピュータトラブル」など)。【モノゴトのトラブル】〔事故・事件のトラブル〕 (「医療トラブル」「食品トラブル」など) (金 2011: 63-66)。

<sup>15</sup> 林 (1982) では「臨時一語」とは「その時その時の必要によって生まれ、すぐに消えて行く単語である」と定義している (p. 15)。

<sup>16</sup> この両方向の矢印は意味的に対応関係にあることを表す (例：「ランチタイム」⇔「昼食時間」)。

借用語が周辺のなものとみなされてきたことと、借用語を含む複合語がさらに周辺のなものとして扱われてきたことに起因する。

したがって、借用語を含む複合語に対する分析については、まだ多くの疑問点が残されている。次章では、構文形態論を含め、本研究における借用複合語を中心とする方法論的枠組みとデータの収集方法について述べる。



## 第 3 章

### 理論的枠組みと方法論

本章では、本論文の理論的枠組みとデータ収集の方法を示す。まず、(動的)用法基盤モデル ((Dynamic) Usage-based Model) (Langacker 1987, 1988, 1991, 2000; Barlow and Kemmer 2000) を導入し、同モデルを援用した借用語に関する研究について概観する (Rohde et al. 2000)。そして、本研究の分析の枠組みである構文形態論 (Construction Morphology) (Booij 2010, 2018) とフレーム意味論 (Frame Semantics) (Fillmore 1982; Fillmore and Baker 2010) を概観する。その後、民族言語学 (Ethnosyntax) で論じられている文化と文法の相互関係に言及する (Enfield 2002)。最後に、データ収集の方法を説明する。

#### 3.1 動的用法基盤モデルにおける借用語

Langacker (2000) は、彼の提案する動的用法基盤モデルを、生成文法的アプローチとの 3 つの主要な相違点を指摘することにより簡潔に要約している。つまり、生成文法は「極小主義的」 (minimalist)、「還元主義的」 (reductive)、「ト

トップダウン的」(top-down)であるのに対し、動的用法基盤モデルは「最大主義的」(maximalist)、「非還元主義的」(non-reductive)、「ボトムアップ的」(bottom-up)なアプローチであるということである。最大主義的というのは、最少の一般的規則に基づいているのではなく、言語の学習には多くの実際のインプットが必要であり、非常に冗長である可能性があることを受け入れるということである。非還元主義的とは、ミニマリストプログラムの二分法とは対照的に、用例および(それに基づく)スキーマの両方がレキシコンにリストされているという立場である。最後に、ボトムアップ的とは、高レベルの抽象化(スキーマ)が用例に基づいており、サブスキーマ(制限のある一般化)が言語システムの一部として表示され、その存在は必ずしも(何かより一般的なものへと還元することなどにより)排除されないという見方である(Langacker 2000: 1-3)。

Langackerの動的用法基盤モデルに従って、Kemmer and Barlow(2000: viii-xxii)は、言語に対する用法基盤のアプローチ間で共有される9つの主要な仮定を概説している。これらの仮定のうち、次の4つは本研究に特に関連している。

- 1) 「言語構造と言語の使用例との密接な関係」(“The intimate relation between linguistic structures and instances of use of language”)

(Kemmer and Barlow 2000: viii)

これは、言語の一般化(スキーマなど(3.2.2節を参照))が用例から構築されるものであることを意味する。さらに、用例は個人の言語的経験(Lakoff 1987; Lakoff and Johnson 1999を参照)に基づいていると見なされている。

- 2) 「言語表現は固定したものとして蓄えられるのではなく、創発的である」  
 (“Linguistic representations as emergent, rather than stored as fixed entities”)

(Kemmer and Barlow 2000: xii)

このことは、Booij の構文形態論 (3.2 節) の出力指向的なアプローチ (output-oriented approach) でも同様であり、言語は規則が適用される単なる語彙単位の集合ではないことを意味する。

- 3) 「理論の構築と記述における、用法のデータの重要性」 (“Importance of usage data in theory construction and description”)

(Kemmer and Barlow 2000: xv)

つまり、言語分析は、作例だけでは不十分であり、実際の言語データを十分に反映させている必要がある。本研究では、可能な限りコーパスを使用して実際の言語データを収集する (3.6 節を参照)。

- 4) 「言語システムの運用における文脈の重要な役割」 (“The crucial role of context in the operation of the linguistic system”)

(Kemmer and Barlow 2000: xxi)

1) で述べたように、この側面は、文化的および社会的 (経験的) コンテキストが言語的発話の意味の解釈に関連しているという事実に関連している (3.4 節で詳しく説明する)。

以上の一般的な（動的）用法基盤モデルの基本的な概要を踏まえ、このモデルが借用語の研究でどのように援用されているか Rohde et al. (2000) を見てみよう。一般的に、ある言語から別の言語に単語が借用されるとどうなるだろうか。この問いは Rohde et al. (2000) の中心的な研究課題となっている。その論文では、借用のプロセスが一筋縄ではいかないものであることを指摘している。

ある言語コミュニティの（言語的および言語外の）共有知識が、別の言語コミュニティによって借用されるという言説は意味をなしえない。むしろ、借用語の意味は借用したコミュニティの共有知識に基づいて創造されなければならない。したがって、借用言語の話者は形式と意味の両方を再び創造する必要がある。

(Rohde et al. 2000: 2) <sup>17</sup>

以下に示すように、この洞察により、日本語ではほとんどの借用語が借入時に意味的縮小・特殊化を受けるという Shibatani (1990) の見解が説明される。さらに、それは意味拡張という意味変化を経ている、本論文の研究対象である借用語において、どのように意味拡張が生じたかという問いとも整合性がある。簡潔に言うと、この拡張は借用のかなり後に発生したということである。

Rohde et al. (2000) では用法基盤モデルに基づき、3種類の借用語を提示している。以下の1と2のタイプは語彙的借用である。3番目のタイプは意味的借用

---

<sup>17</sup> “The shared (linguistic and extra-linguistic) knowledge of one speech community cannot in any meaningful way be said to be imported by a different speech community. Rather, the meaning of a loanword must be constructed on the basis of the shared knowledge of the borrowing community. Thus, [...] both form and meaning have to be re-created by the speakers of the borrowing language.” (Rohde et al. 2000: 2)

である。また、それらが借用される際の目的として、以下のものが挙げられている。

1. 「新しい指示対象・概念を指すため」(“to refer to a new referent/concept”) (たとえば、英語に借用された *Zeppelin* < ドイツ語 *Zeppelin* (ツェッペリン) 由来)
2. 「既存の指示対象・概念を指すため。当該の既存の指示対象・概念はすでに語彙化されている可能性も、そうでない可能性もある」(“to refer to an existing referent/concept. This existing referent/concept may or may not already be lexicalized”) (例: 英語に借用された *Schadenfreude* (シャーデンフロイデ) (語彙化されていない)、*Kindergarten* (幼稚園) (語彙化されている。たとえば、‘preschool’、‘nursery’ といった英語の既存語に対応する。<ドイツ語由来))
3. 「借用先の言語にある既存の単語が借用元の言語の影響により新しい意味を担うようになる (つまり、既存の単語に対して別の言語から新しい意味を借入する)」(“an existing word of the borrowing language may take on a new meaning under the influence of the source language”) (たとえばドイツ語の *realisieren* は、英語の *to realize* に由来する <何かを完全に認識する> (‘to be fully aware of something’) という元はなかった意味をもつようになった)

(Rohde et al. 2000: 4, 7, 9, 12)

重要なのは、上記の1.-3.のタイプのいずれも、外国語での本来の意味をそのまま借用しているわけではないことである。その代わりに、このモデルでは、借用した言語の話者によって独自に意味が再創造されるとされている。本研究の対

象である[x-jakku]、[x-rosu]、[x-taimu]はタイプ2にあたる（すなわち、既存の指示対象・概念を指す）。つまり、基体語の借用の時点では、語彙化された概念はすでに日本語文化に存在していた（「ハイジャック」（cf. 乗っ取り）；「ロス」（cf. 喪失）；「タイム」（cf. 時間、とき、時刻））。本研究が注目する用法（拘束形態素）では、これらの借用要素は、日本の文化的概念を記号化（encode）するものである。この借用語に生じた拡張的意味は、日本語の語彙化されていない文化固有の概念から構成されたものと考えられる。

Shibatani (1990: 150-151) は、借用語が日本語に借用されたときの意味変化は次の4種類に分類できるとしている。

1. 意味の縮小または特殊化（narrowing and specialization）：「ストーブ」（stove）<sup>18</sup>：「ストーブ」とは＜部屋を暖めるためのストーブ＞のみを指し、「コンロ」などを指さない（英語では「コンロ」という意味もある）。「ライス」（rice）：「ライス」とは、通常、＜洋風レストランで（皿などに盛られて）出される米飯＞を指すが、「丼」に盛られた米飯などは指さない。「アルバイト」（Arbeit）：「アルバイト」とは、ドイツ語で「仕事」という意味をもつが、＜（通常は学生などがする）パートタイムの仕事＞のみを指す。
2. 意味拡張（semantic extension）：「ハンドル」（handle）は＜車のハンドル＞だけでなく、＜自転車のハンドル（のバー）＞も指す。

---

<sup>18</sup> これらの4つのタイプの意味変化の例は、Shibatani (1990: 150-151) によるものである。

3. 意味的遷移 (transfer or shift in meaning) : 「マンション」 (mansion) とは「集合住宅」 (コンドミニアム) のみを指し、もとの英語の意味の<立派な邸宅>を指すことはない。
4. 意味的格下げ・悪化 (semantic downgrading or pejoration) : 日本語で「ボス」 (boss) は<暴力団や政治家のグループの強力な長><sup>19</sup>を指すことができるが、英語ではただ単に<仕事での管理職にある上司>を意味する。

Shibatani (1990) では取り上げられているもの以外にも、借用語にはいくつかの種類の意味変化がある。たとえば、「借金」の代わりに「ローン」と言ったり、「便所」の代わりに「トイレ」と言ったりする例は、意味の良化 (amelioration) と呼ばれる (Shimada 2003を参照)。これらについては、本論文では詳しく取り扱わない。上記の4つの主要な意味変化のうち、Shibataniは、日本語におけるほとんどの借用語が意味的縮小または特殊化を経ていることを指摘している。これは借用時の「部分的知識ネットワーク」 (partial knowledge networks) によって説明できると思われる (Rohde et al. 2000: 1-2)。つまり、借用したコミュニティの話者 (この場合は日本語母語話者) が、多義的な単語のすべての意味を借用・借入することは期待できないということである。Rohde et al.は「ある言語コミュニティの (言語的および言語外の) 共有知識が、別の言語コミュニティによって借用されるという言説は意味をなしえない」と述べている (2000: 2)。この避けられない現実上の制約は、当然、意味的縮小または特殊化につながる。

---

<sup>19</sup> 「政界のボス」 (政治的ボス) や「暗黒街のボス」 (アンダーワールドのボス) などのような例がある (出典: <http://ejje.weblio.jp/content/ボス>)。

意味的縮小や特殊化とは対照的に、本研究は英語の単語に由来し、意味拡張を経た拘束形態素（「ハイジャック」（hijack）から派生した[x-jakku]など）を研究対象とする。特に、本研究では、Langacker（1987: 494）が「言語システムの実際の使用」（the actual use of the linguistic system）に「本質的な重要性」（substantial importance）を見出すアプローチとして定義する用法基盤モデルを大きな背景として、その中で研究対象の形態素における意味拡張がどのように生じたかについて、構文形態論およびフレーム意味論からそのメカニズムを説明する。加えて、可能な限り、本研究ではコーパスから収集した、実際の言語使用を反映する用例を用いる（3.6 節を参照）。

### 3.2 構文形態論

本論の研究対象である[x-jakku]、[x-rosu]、[x-taimu]のそれぞれの構文の意味拡張を説明するために中心となる理論的枠組みは、Booij（2010, 2018）による形態論の理論である「構文形態論」（Construction Morphology (CxM)）である。

Booij が説明するように、CxM のアプローチは、従来イディオム・句・文の分析を中心としてきた構文文法 (Construction Grammar (CxG)) から「構文」(construction)（形式と意味の結びつき）の概念を援用し、語の形態素分析に応用するという点で新しい (Booij 2010: 16)。本論文では「構文」<sup>20</sup>という概念について、Goldberg（2006）の定義を使用する。

---

<sup>20</sup>「構文」とは英語“construction”の訳であるが、構文文法における“construction”は文に限らず単語、イディオム、句など様々な言語表現を表すため、最適な用語ではない。ただし、この用語はすでに定着しているため、その良し悪しはさておき、本論文でも便宜的に用いることにする。



いかなる言語パターンも、形式あるいは機能のある側面が構成要素あるいは他の構文から厳密に予測できない場合、「構文」として認める。加えて、たとえ形式あるいは機能のある側面が、構成要素あるいは他の構文から完全に予測することができるとしても、そのパターンが高頻度で生起する場合には「構文」として認める。<sup>21</sup>

(Goldberg 2006: 5 ; 日本語訳 : 児玉・野澤 2009) <sup>22, 23</sup>

構文形態論では語形式と意味の結びつきを表すために、3つのラベル PHON、SYN、SEM が使用されている。SEM は、言語記号の意味的（および語用論的）構成要素を指し、本研究における主な研究対象である。言語記号の形式的な側面は、残りの2つの次元、すなわち音韻的形式（PHON）と形態統語論的特性（SYN）で扱われる（Booij 2010: 5）。

ここで紹介すべきもう一つの用語が「語彙的指標」（lexical index）である。言語的情報において関連し合う部分は、その語彙的要素の後に指標（添え字）を使用して相互に結び付けられている。この語彙的指標システムにより、構文の表示の中で

---

<sup>21</sup> 本研究では[x-jakku]、[x-rosu]、[x-taimu]の構文それぞれの異なり語の頻度を数えていない。これらの3つの構文はすべて、新しい語形を簡単に創造でき、明らかに生産性が高いためである。たとえば、「ラーメンジャック」<大量のラーメンでユーモラスにどこかを占有する>、「香取ロス」<香取慎吾（人気アイドル）を結婚によって失うこと>、「年越しそばタイム」<年越しそばを娯楽的活動の一つとして楽しく食べる時間>といった新規表現を、容易にいくらでも作ることができる。これは、Barðdal の生産性の連続体（productivity cline）において、最も生産性が低いとされる「類推」のレベルとは対極に位置することを示している（Barðdal 2008: 38）。

<sup>22</sup> “Any linguistic pattern is recognized as a construction as long as some aspect of its form or function is not strictly predictable from its component parts or from other constructions recognized to exist. In addition, patterns are stored as constructions even if they are fully predictable as long as they occur with sufficient frequency.” (Goldberg 2006: 5)

<sup>23</sup> Booij の理論枠組み（2010, 2018）は Goldberg の 2006 年の定義を採用している。本研究でも、Goldberg の最新の「構文」（2019）の定義を認識しているが、2006 年版を使う（2019 年版を使用しても、実質的に分析が変更されることはないと思われる）。

情報がどのように関連し合っているかを簡単に追跡できる。たとえば、単語「猫」の語彙指標を「i」とすると、その3つの特性は「PHON<sub>i</sub>」「SYN<sub>i</sub>」「SEM<sub>i</sub>」と表される (Booij 2010: 7)。

形態論は PHON、SYN、SEM のすべてに関連するため、これらの3つの成分すべてが必要である。たとえば、図 3.1 は、/inu/ (犬) という単語について、これら3つの成分を表している。

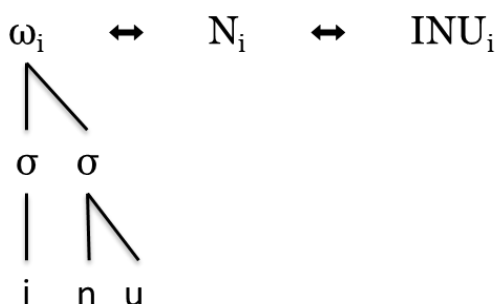


図 3.1 「犬」の語彙表示 (Booij 2010: 7 (Figure 1.2) に基づいている)

図 3.1 では、「犬」の PHON の形式 ( $\omega$ ) は二音節 ( $\sigma\sigma$ ) であり、/inu/として結合された3つの音で構成されている。この単語は名詞であるため、SYN の成分は N と表されている。最後に、SEM は「毛皮で覆われた4本足のイヌ科の哺乳類の一種」となる (図 3.1 では簡易的に INU として表されている)。これらの3つの成分は、指標「i」で結び付けられている。これに加え、双方向矢印「 $\leftrightarrow$ 」は「対応」(corespondence)を表し、これら3つの情報が互いに対応することを示す。Booij は Jackendoff の三部門並列言語構造<sup>24</sup> (tripartite parallel architecture) (Jackendoff 1997, 2002, 2010) の理論的立場に立脚している。ただし、Jackendoff の元々の提案に一部修正を加えている。具体的には、「ルール」(rules)の代わりに「スキーマ」(schemas)

<sup>24</sup> 大岩 (2006) による訳語。

を使用し、「インターフェイスルール」 (interface rules) の代わりに「対応」 (correspondences) という用語を使用している (Booij 2010: 5-7)。本研究では便宜的に、PHON と SYN という形式情報を一つに合わせた左辺と右辺のみからなる表示を用いる。これは、構文形態論で一般に用いられている表示法である。

### 3.2.1 語基盤形態論 (Word-based morphology)

CxM は、単語または語彙素が分析の出発点となる、語基盤 (word-based) (Aronoff 2007) (または語彙素基盤 (lexeme-based)) の形態論と共通点をもつアプローチとなっている (Booij 2010: 2; 2012)。これは、形態的プロセスを形態素の連結 (concatenations of morphemes) とみなす形態素基盤のアプローチ (morpheme-based approaches) (または入力指向理論 (input-oriented theories)) と対照的な関係にある。連結的なアプローチは (1) のような統辞論的つながり (syntagmatic strings) を処理できる。

- (1)            [tranquil]<sub>A</sub>  
                 [[tranquill]<sub>A</sub> [ize]<sub>V-aff</sub>]<sub>V</sub>  
                 [[[tranquill]<sub>A</sub> [ize]<sub>V-aff</sub>]<sub>V</sub> [er]<sub>N-aff</sub>]<sub>N</sub>

(Booij 2012: 9-10 の議論に基づく)

つまり、形態素基盤のアプローチは、形態素が語幹に付加される (連結する) という形態的プロセスを想定する。ただし、このアプローチは他のタイプの非連結形態的操作 (non-concatenative morphological operations) を処理するには不十分である。たとえば、(2) にあるンギティ語 (Ngitit) (コンゴ民主共和国で使用されているナイル・サハラ語族の言語) の複数名詞の形成を見てみよう。

(2) <i>singular</i>	<i>plural</i>
àba ‘father’	abá
abhu ‘grandfather’	abhú
adhà ‘co-wife’	adhá

(Booij 2010: 4)

ンギティ語は声調を使用して、特定の親族に関係する名詞を複数形に変換する（中間声調は無標、低い声調は「̀」、高い声調は「´」で表示されている）。(2)の例では、単母音の声調に関係なく、複数形は常に中高パターンで表される。このパターンは、(3)のようにスキーマとして表すことができる。

(3) [Mid High]<sub>N<sub>i</sub></sub> ‘plural N<sub>i</sub>’ (「分離不可能な N<sub>i</sub> の場合」)

(Booij 2010: 5)

(3)のスキーマは「語幹」(base)を参照せずに複数名詞の規則性が説明できる。このように、スキーマは出力側から始めるため、このアプローチは「出力指向理論」とも呼ばれる。一方、形態素基盤のアプローチ（または「入力指向理論」）は、名詞の単数形から始まり、規則を適用していくことによって説明を行う（(1)の連結例に類似）。

構文形態論は母音交替 (vowel alternation) などの他の非連結現象も説明できる。たとえば、ドイツ語の複数形のウムラウト (umlaut) (*Mutter* ‘mother.SG’ vs. *Mütter* ‘mother.PL’)、古典ギリシャ語でのアブラウト (ablaut) (*leip-o* ‘I leave’ *le-loip-a* ‘I have left’, *e-lipon* ‘I left’ (Booij 2012: 37))、セム語族の貫通接辞 (transfixes) (Booij

2012: 37-39) など) などが、この枠組みで論じられている。構文形態論では、出力 (スキーマ) が新しい言語形式のベースとなると考える。したがって、各用例で毎回規則を呼び出す必要はない。

### 3.2.2 スキーマとサブスキーマ

構文形態論では、屈折形態と派生形態がスキーマで表される。本研究で特に重要なのは、派生プロセス、特に複合である。Booij (2010: 17) では、ゲルマン語族の複合名詞を (4) のスキーマで表している。

(4)  $[[a]_{xk} [b]_{Ni}Nj] \leftrightarrow [SEM_i \text{ with relation } R \text{ to } SEM_k]_j$

構文形態論では、以下の (5) のような記号が用いられる (Booij 2010: 17)。

(5) 変数「x」 = 主要な語彙カテゴリ (N (名詞)、V (動詞)、A (形容詞)、P (前置詞))

小文字の変数「a」「b」 = 恣意的な音連鎖 (PHON 用)

小文字の変数「i」「j」「k」 = PHON、SYN、SEM の語彙的指標

変数「R」 = 複合成分によって決定される関係

英語の複合名詞の場合は、後部要素は常に名詞 (N) である。したがって、(4) の「b」は名詞<sub>i</sub>になり、複合語全体が名詞<sub>j</sub>である。一方、英語では、(6) のように「a」を名詞、動詞、形容詞、または前置詞にすることができる。

- (6) NN    book shelf, desk top, towel rack
- VN    drawbridge, pull tab
- AN    hard disk, blackbird, blackboard
- PN    afterthought, overdoes, inland

(Booij 2010: 17)

これらの下位レベル (NN、VN、AN、PN など) の抽象化は、ある程度の一般化されたレベルも存在するという事実をとらえるためにサブスキーマの形で表されるが、このようなサブスキーマにより、過剰な一般化に陥らずにノード上の共通性をとらえることができる。この点を説明するために、Booij は複合名詞 (NN)、特に前部要素が「*hoofd*」(頭) という N の指定を持つ複合名詞 (NN) を検討している。オランダ語では、複合要素として「*hoofd*」を使用すると、3 つの意味がある。「*hoofd*」の 3 つの意味用法は (7) にあげるとおりであり、それぞれの例が表示されている (Booij 2010: 61-62)。

- (7) (a) (肉体的な意味) 体の頭、例えば「*hoofd-pijn*」 ‘headache’ (頭痛)
- (b) (抽象的な (メタファー的な) 意味) 「*hoofd-kwartier*」 ‘headquarters’ (本部) のように階層を指す「最上位」
- (c) (抽象的な (メタファー的な) 意味) 「*hoofd-ingang*」 ‘main entrance’ (正面玄関) のように「最も重要な、主な」

サブスキーマを使用すると、1 つの (スーパー) スキーマ (または親ノード) に含んだまま、それぞれの意味を異なるノードとして処理できる。Booij は、(7) の各タイプについて 3 つないし 4 つの例を挙げ、それらを (スーパー) スキーマ ([[x]<sub>N</sub>

[y]<sub>N</sub> (複合名詞 (NN) のスキーマ (“schema for NN compounds”) ; 「x」と「y」は、構文内の2つの名詞を指す) ) および漸進的に具体的になるサブスキーマも含めた階層的表示 (p. 62) を取り、図 3.2 のように表している。

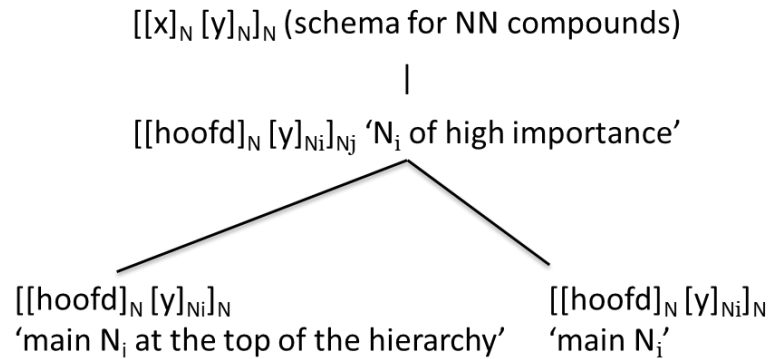


図 3.2 オランダ語の複合語[*hoofd-y*]のスキーマ的表示 (Booij 2010: 62 の (20) を微修正)

(7b) (「*hoofd-kwartier*」 (本部) など) の複合語は左下のノードに表示されており ([[hoofd]<sub>N</sub> [y]<sub>Ni</sub>]<sub>N</sub> 'main N<sub>i</sub> at the top of the hierarchy' ( (本部) のように階層を指す「最上位」) )、(7c) (「*hoofd-ingang*」 (正面玄関) など) は右下に表示されている ([[hoofd]<sub>N</sub> [y]<sub>Ni</sub>]<sub>N</sub> 'main N<sub>i</sub>' (「最も重要な、主な」) )。ただし、(7a) の用例 (「*hoofd-pijn*」 (頭痛) など) はここには表示されていない。(7b) および (7c) の意味は、その上のノードから意味が継承される。これは「デフォルト指定(継承)」と呼ばれる。「デフォルト指定」は「特定のプロパティの単語の指定は、実際の語彙記載項にそのプロパティの別の指定がない限り、支配するノードから継承される」 (“the specification of a word for a particular property is inherited from the dominating node, unless the actual lexical entry has another specification for that property”) (Booij 2010: 27) と定義されている。(7b) および (7c) の例が、支配ノード上の「重要度の高い N<sub>i</sub> (“N<sub>i</sub> of high importance”)」に関連するものに関係しているということは、「継承」

という考えを用いて表されている。つまり、意味は子ノード（(7b) および (7c)）に継承されているということである。(7a) の例は、「頭」という本来の意味を持ち、自由形態素の用法でも使用でき (Booij は、特に (7c) の例はそうではないことに注意)、したがって、図 3.2 の上部にあるより一般化されたノード ([[x]<sub>N</sub> [y]<sub>N</sub>]<sub>N</sub> (schema for NN compounds) ) によって表すことができる。

スキーマとサブスキーマという考えを「デフォルト指定」の概念とともに用いると、日本語は複合語に関しては通常右側主要部 (right-headed) であるが、一部存在する左側主要部 (left-headed) の用例も説明できる (Kageyama 1982, 2009 を参照)。

(8) a. soo-kin

send-money

‘remit’

b. ki-koku

return-country

‘return to one’s country’

c. syuk-ka

go.out-fire

‘a fire breaking out’

(Kageyama 1982, 2009 (Booij 2010: 69, (34) から引用) )

たとえば、(8a) の動名詞「送金」(soo-kin) は、(9) のスキーマで表すことができる。



(9)  $[[soo]_{VN} [x]_N]_{VN}$  ‘sending N’ ((VN=動名詞、N=漢語名詞)) “where VN = verbal noun, and N is a Sino-Japanese noun”

(Booij 2010: 70 (36) )

このような例は他にも多く存在し、たとえば、(10)のように「脱-」(*datu-* ‘escape’) は借用語とさえ複合することができる。

(10) *datu-sarariiman* ‘quit the job of an office worker’ (会社員の仕事をやめる)

*datu-sutoresu* ‘to get rid of stress’ (ストレスを解消するため)

(Booij 2010: 70 (38 の一部分) )

これについて Booij は、図 3.3 のような日本語の複合スキーマの階層を提案している。

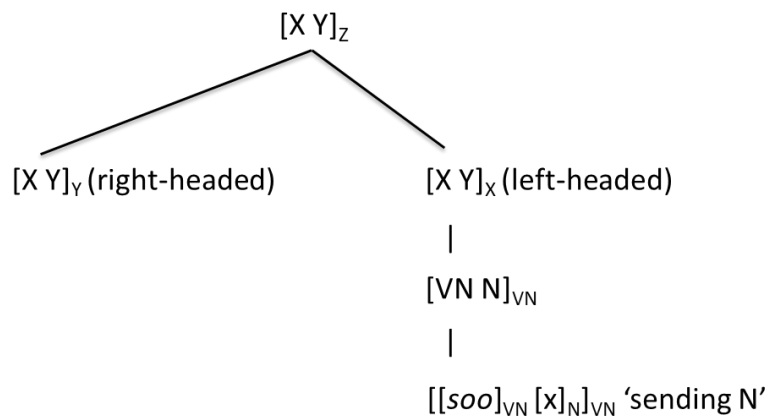


図 3.3 日本語における複合語の簡略的表示 (Booij 2010: 70 (39) から微修正)

図 3.3 は、右側主要部の複合語（この研究で扱うタイプ）と左側主要部の複合語の両方を説明するものである。これらの複合語は、異なる語形間の共時的関係をとらえるスキーマにより説明される。

これに加えて、構文形態論はスキーマとサブスキーマを用いることで多義性を説明することができる。たとえば、Booij (2010) は *-er* で終わるオランダ語の動詞由来名詞を取り上げ、(11) のような複数の意味タイプを示している。

(11)	<i>animate agent</i>	bakk-er ‘baker’ < bak- ‘to bake’
	<i>non-animate agent</i>	houd-er ‘container’ < houd- ‘contain’
	<i>instrument</i>	maai-er ‘mower’ < maai- ‘to mow’
	<i>object</i>	voor-lader ‘front-loader’ < voor-laad- ‘to front-load’
	<i>event</i>	miss-er ‘failure’ < mis- ‘to fail’
	<i>causer</i>	af-knapp-er ‘what makes you break down’ < af-knapp- ‘to break down’

(Booij 2010: 77 (47 の一部分) )

重要なのは、一部の *-er* の例には複数の意味があることである（動作主 (*agent*) や道具 (*instrument*) を指示できるオランダ語の *tell-er* など ; Booij 2010: 77) 。このような例を説明するために、Booij は他の意味の拡張もととなる「プロトタイプの意味」（この場合は有生の動作主 (*animate agent*) ）を想定する「規則的多義性」 (“regular polysemy”) (Apresjan 1974; Lehrer 1978) のアプローチを提案している。これらの意味拡張は、通常、メタファー的およびメトニミー的なプロセスを経る。Booij は、オランダ語の例では、動作主の役割は典型的には人間が担うと指摘している。ただし、「容器」 (*container*) などの人間以外が動作主であるような用法も

存在し（非有生動作主（non-animate agent）、その例として *computer*（コンピューター）や *printer*（プリンター）などの道具の例は、「コンピューターが何かを計算し、プリンターが何かを印刷するため、擬人化された動作主である」（“personified agent[s] because a computer computes something, and a printer prints something”）と解釈されるとしている（p. 78）。このようなものがメタファー的拡張である。つまり、「特定の動作を動作主として実行できる装置として解釈できる」（“we can conceive of devices that are able to perform certain actions as agents”）（p. 78）。その後これらのメタファー的拡張は慣習化され、このメタファーに基づいた新しい意味へとつながる。言い換えると、Booij は、ネットワーク内のこれらの特定の単語の語彙的多義性をその構文の他の意味の「源泉と見なすことができる」と示している（p. 78）。これに加えて、「物体」（object）、「イベント」（event）、原因（causer）のカテゴリーのものはメトニミー的拡張に関するものと見ることができる。Booij はこの多義性について、 $[V_i\text{-er}]_{N_j} \leftrightarrow [\text{entity involved in SEM}_i]_j$  を上位スキーマとする、継承階層を提示する（図 3.4 の左端のノードとして表されている）。

サブスキーマのさまざまなカテゴリー（動作主（agent）、道具（instrument）、「物体」（object））は *-er* 構文のさまざまな意味の説明を可能とする。個々の単語は複数のサブスキーマにつながっている場合もある（たとえば、オランダ語の *in-ruil-er* ‘in-trad-er’（（車を）下取りに出す人）は動作主または物体（下取りに出された物）になる；Booij 2010: 80）。

この多義性ネットワークに加えて、他の「形式と意味」の結びつきは、(12) および図 3.4 のオランダ語の動詞由来 *-er* 名詞のより包括的な継承ネットワークに表されている。

- (12) (a)  $[[x]_{N_i} \text{ er}]_{N_j} \leftrightarrow [\text{person with some relation to SEM}_i]_j$  (e.g., [Amsterdamm]-er ‘person who plays for the soccer club of Amsterdam’, etc.)
- (b)  $[[x]_{N_i} \text{ er}]_{N_j} \leftrightarrow [\text{inhabitative of SEM}_i]_j$  (e.g., [Amsterdamm]-er ‘inhabitant of Amsterdam’)
- (c)  $[[QN]_{N_i} \text{ er}]_{N_j} \leftrightarrow [\text{object with property SEM}_i]_j$  (e.g., [tien-pond]-er ‘ten-pound-er’)
- (d)  $[[x]_{\text{Num},i} \text{ er}]_{N_j} \leftrightarrow [\text{entity with some relation to SEM}_i]_j$  (e.g., [twintig]-er ‘person in his twenties’)

(Booij 2010: 80-83)

(11) の例は 2 段目左端のサブスキーマに示されている。例 (12) の (a-b) は 2 段目の 2 番目のサブスキーマで表されている ( (12b) はさらに (12a) のサブスキーマである) 。 (12) の (c-d) はそれぞれ 2 段目の 3 番目と 4 番目のノードである。

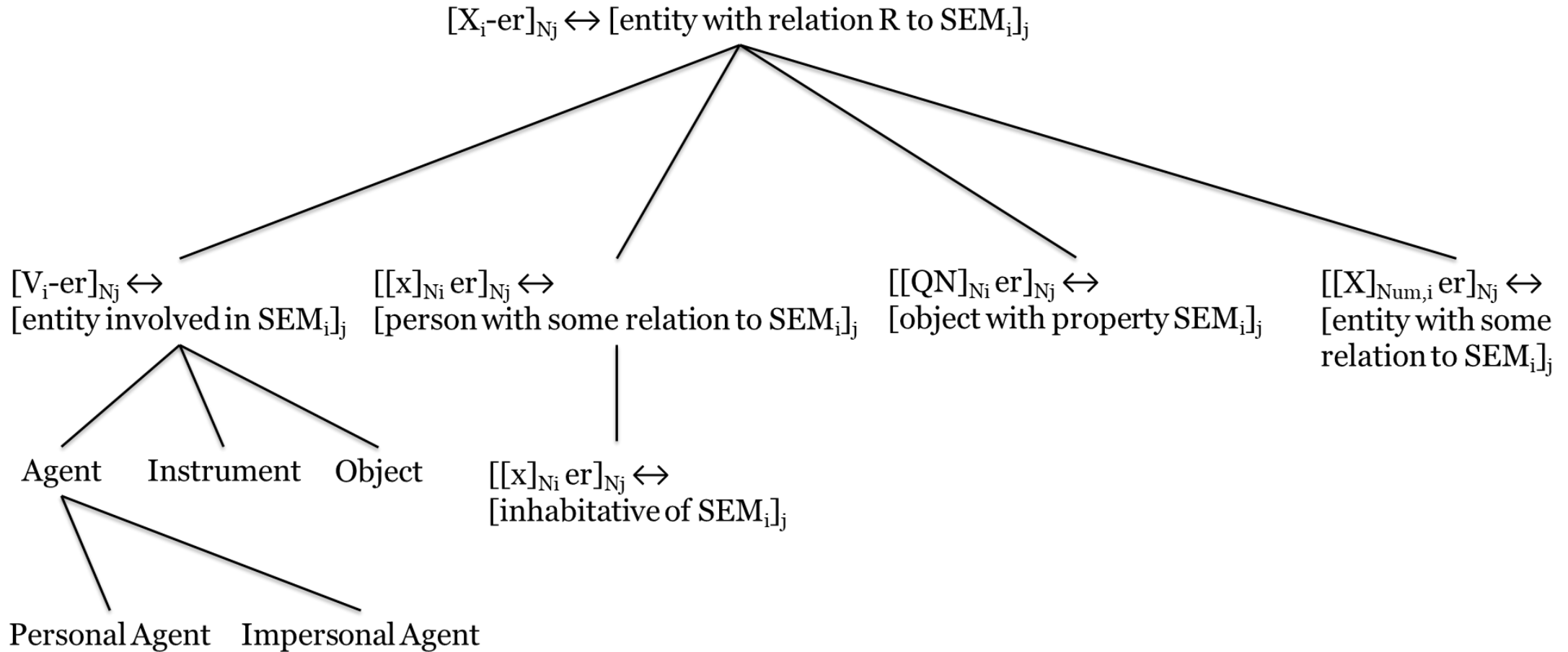


図 3.4 オランダ語における[x-er]構文のネットワーク (Booij (2010: 77-84) に基づき筆者が作成)

Booij (2010) は、継承階層の多義性ネットワークの詳細には立ち入らないとしている。その理由として、メタファー的およびメトニミー的拡張の方向性が通時的に必ずしも得られないことが挙げられる。たとえば、スペイン語の *-dor* ‘*-er*’ は、もともと道具を表す接尾辞であったが、後に動作主も表すようになった。つまり、動作主義から道具義へという一般的なメタファー拡張に逆行する意味変化といえる。また、カタルーニャ語の *-dor* は、ラテン語の場所辞 *-torioium* および動作主辞 *-torem* という別個の形態素に由来するが、共時的には単一の形態素と見なされているため、同一の継承階層の中で捉えることができる。同様に、オランダ語の *-er* は、ゲルマン語 *-warja* およびラテン語 *-arius* に由来するが、共時的には単一の接尾辞として扱うことができる。したがって、意味拡張や語源といった情報をあえて排除することによって、今現在の話者のメンタルレキシコンの状態を反映させられると Booij は考える。これは用法基盤モデルに根差した妥当な考え方である。

この点に関して本研究では、意味拡張の詳細を考慮に入れることによって明らかになる現象があるということを示す。本研究で提示する構文ネットワークでは、サブスキーマ間におけるメタファー的およびメトニミー的拡張を積極的に論じる (3.4 節を参照)。さらに、文化的フレームがこれらのネットワークの意味拡張において重要な役割を果たしていることも明らかにする。Booij はメタファーやメトニミーについて詳しく説明していない。したがって、本研究により、これらの意味拡張が構文のネットワーク内でどのように生じるのかについて、より明確な全体像が捉えられることが期待される。

### 3.2.3 範列的關係 (paradigmatic relations)

本研究では、範列的關係 (パラダイムの關係) の概念 (例: <[x-ism] ↔ [ideology, etc.] > ≈ <[x-ist] ↔ [person with ideology, etc.] > (イデオロギーなど) ↔ (イデオロギーを持つ人など)) を Booij から援用する (2010: 29-36)。半等号記号「≈」は2つのスキーマ間の範列的な關係を示す。2つのスキーマは、それぞれ「<」および「>」括弧で囲まれている。この2つのスキーマの結びつき (pairing) は、関連する形態素間にある關係を表し、2つの関連する語形間の關係をとらえるものである (これらの關係は第4章と第5章の借用した拘束形態素の例において、構文上の交替という形で存在すると主張する)。たとえば、*fasc-ism* (ファシズム)、*human-ism* (人文主義)、または *femin-ism* (フェミニズム) のイデオロギーまたは世界観は、その考え方をとっている人、すなわち、*fasc-ist* (ファシスト)、*human-ist* (人文主義者)、または *femin-ist* (フェミニスト) に対応している。そして、1つが会話などに導入されると、もう片方も連想される。つまり、人文主義者について話す場合、そのような人が人文主義のイデオロギーを持っているということをあえて言葉にして言及しなくても理解される。

### 3.2.4 類推

本節は本研究での借用語の起源について述べる。Booij は、類推に基づく新しい語形は、やがてスキーマに発展しうると述べている (2010: 88-91)。たとえば、*Watergate* <ウォーターゲート (事件) > という言葉は、<x に関連する政治スキャンダル> (“political scandal involving x”) を意味する多くの新しい語が作られる際のモデルとして機能した (例: *Bushgate* (ブッシュゲート) <ブッシュ大統領に関わるスキャンダル>)。ただし、この *-gate* という語形の生産性はいまだに高く、*Watergate* がこれらの新しい語形の派生元の語形としてまだ機能しているかどうか

は不明である。むしろ、英語母語話者は、これらの語形の共通性を認識して、(13)のような心的なスキーマを確立しているように思われる。

(13)  $[[x]_{Ni} [gate]_{N}]_{Nj} \leftrightarrow [political\ scandal\ pertaining\ to\ SEM]_j$

本研究では、類推および（単語境界の再解釈を含む）再分析後の類推のどちらもが、スキーマによる語生成という点で同じように機能していると考えられる。英語には多くの再分析された「結合辞」(combining form)がある(例:*alcoholic* → *shopaholic* (アルコール中毒→買い物中毒; *-burger, -tainment, -zine* など) ; 結合辞の説明については Warren (1990)、Booij (2010: 90-91)を参照)。本研究では、 $[x-jakku]$ は(単語の境界が「ハイジャック」から「ハイ-ジャック」へと再解釈されたという点で)従来の意味での再分析と関連しており、 $[x-rosu]$ は、 $[x-jakku]$ と似てはいるが、元の借用された単語「ペットロス」が2つの単語(自由形態素)から成っているという違いがある(「ペットロス」から「ペット-ロス」)。最後に、「タイム」は、少なくとも共時的には、英語の借用複合語の集まり(ティータイム、バスタime、など)に基づいて一般化されているようである。これらについては、それぞれ事例研究の章(4~6章)で詳しく取り扱う。本研究では $[x-jakku]$ 、 $[x-rosu]$ 、 $[x-taimu]$ について、結合辞ではなく、「構文イディオム」(constructional idiom)という用語(Jackendoff 1990: 221; Booij 2013: 5-7)を使用する。構文イディオムは「すべての(前・後部)要素が語彙的に固定されてはおらず、一部の要素が変項であるイディオムのタイプ」(“a type of idiom in which not all positions are lexically fixed, and hence some are variable”)と定義されている(Booij 2010: 13)。

*Watergate*の例と同様に、 $[x-jakku]$ 、 $[x-rosu]$ 、 $[x-taimu]$ の構文は生産性が高いため、類推の元となった例がまだ新しい語形の派生元として機能しているかどうか



かは不明である。同じようなケースとして、[x-活]が挙げられる。元々「就活」(「就職活動」)からの類推であったと考えられる「婚活」、「終活」、「妊活」のような例は、現在ではかなり生産的である(cf. 浅尾 2013)。例えば、「タピ活」<タピオカジュースを飲む活動>、「朝活」<朝に行う活動>など、次々に新たな表現が作られ続けている。日本語母語話者は、これらの語形の共通性を認識して、心的なスキーマを確立しているようである(Barðdal 2008)。以上述べていた構文形態論が本研究の理論的枠組みとなる。次節ではこの枠組みを借用語に当てはめた研究を概観する。

### 3.3 構文形態論と借用語

本節では、本研究でも援用する構文形態論を借用語研究に導入したいいくつかの研究を概観する。まず、Arcodia (2011)における、英語由来の中国語の借用語「吧」-bā (バー)を取り上げる。次に、Booij (2010)によるオランダ語に借用された英語由来の[x-gate]の分析を見る。そして、Tsujiura and Davis (2018)の新動詞(innovative verbs)の語形成の議論について触れる。特に同研究には「スタバる」のような借用語を基にした語形が含まれているため、本研究への示唆も大きい。

#### 3.3.1 中国語における借用語「吧」-bā (バー)

Arcodia (2011: 121)では、中国語の借用拘束形態素「吧」bā(「アルコールバー」‘alcohol-bar’)について論じている。この形態素は非常に生産的であり、(14)のように他の多くの要素と結合することができるようである。

- (14) (a) 烤吧 kǎoba roast-bar (A restaurant specializing in barbecue food)  
「ローストバー」(バーベキュー料理専門のレストラン)
- (b) 球吧 qiúba ball-bar (A site offering information on football and other ball games (?))  
「ボールバー」(サッカーやその他の球技に関する情報を提供するサイト(?))
- (c) 陶吧 táoba pottery-bar (A pottery workshop where customers may create their own products)  
「陶器バー」(顧客が自分の製品を作成できる陶器のワークショップ)
- (d) 贴吧 tiēba paste-bar (Online ‘bar’ to publish fans’ posts related to their idols)  
「貼り付けバー」(アイドルに関連するファンの投稿を公開するためのオンラインの「バー」)

(Arcodia 2011: 121-123)

Arcodia はこれらの例を説明するために、(15) のスキーマ的な抽象化を仮定している。

- (15)[[X]<sub>N</sub> [bā]<sub>N</sub> ]<sub>N</sub> ‘premises selling drinks or food belonging to category [X]<sub>N</sub>’ > ‘place (actual or virtual) where a service related to [X]<sub>N</sub> is offered or where information related to [X]<sub>N</sub> may be exchanged’ (＜カテゴリー[X]<sub>N</sub>に属する飲料または食品を販売する施設＞ > <[X]<sub>N</sub>に関するサービスが提供される場所(現実または仮想の場所)、または[X]<sub>N</sub>に関する情報が交換される場所>)

(Arcodia 2011: 126)

Arcodia は、この形態素の意味拡張が、元の借用語(酒吧 jiǔbā 「バー」)からの類推(3.2.4 節で取り扱う)から始まり、(15) が示すように任意の場所を意

味するように拡張したとしている。このプロセスでいくつかの単語が作られた後、一般化（スキーマ化）され、すべての例の共通点が抜き出される。また Arcodia はこの意味拡張においてメタファーが機能していると論じている。つまり、「『バー』の適切な意味は、バーの典型的な特徴に関連付けられる任意の場所（現実または仮想の場所）を含むように拡張している」（2011: 126）<sup>25</sup>。最後に、Arcodia では、「吧」には「現代的」な印象が感じられ、伝統的な場所（茶館 *cháguǎn* 対茶吧 *chába*）とは対照的に、「西洋」や「ファッショナブル」といった意味合いを表現するために使用されることを指摘している。

### 3.3.2 オランダ語における[x-gate]の借用

Booij (2010) では、オランダ語母語話者（そのほとんどが英語に堪能）が (16) のように英語の[x-gate]構文がオランダ語に借入された事例を紹介している。

#### (16)(a) kippen-gate ‘chicken-gate, scandal concerning chickens’

「鶏ゲート」＜鶏に関するスキャンダル＞

#### (b) Stadion-gate ‘financial problems concerning renovation of the Olympic Stadium’

「スタジアムゲート」＜オリンピックスタジアムの改修に関する財政問題＞

#### (c) Zuid-Holland-gate ‘financial scandal concerning the province of Zuid-Holland’

「南ホラント州ゲート」＜南ホラント州に関する金融スキャンダル＞

(Booij 2010: 90-91)

---

<sup>25</sup> “the proper meaning of ‘bar’ is extended to include any place (actual or virtual) which can be associated with the defining features of a bar” (Arcodia 2011: 126).

(16) のような用例は、オランダ語で[x-gate]構文が生産的になる上で類推の基礎となったようである。3.3.1 節で概説した中国語の「吧」bā と同様に、最初に類推に基づく意味拡張（例えば kippen-gate 「鶏ゲート」＜鶏に関するスキャンダル＞）があり、次にパターンがスキーマ化されている。本論文での3つの事例研究でも、これと同様のプロセスが見出されることになる。

### 3.3.3 日本語における新動詞

Tsujimura and Davis (2018) は、新動詞 (innovative verbs) として知られる (17) のような日本語の動詞の語形成について論じている。

(17) <i>innovative verb</i>	<i>base noun</i>	<i>meaning</i>
jikoru	jiko ‘accident’	have a traffic accident
memoru	memo ‘memo’	take notes
guguru	guuguru ‘Google’	conduct a Google search
makuru	makudonarudo ‘McDonald’s’	go to McDonald’s
sutabaru	sutaabakkusu ‘Starbucks’	go to Starbucks

(Tsujimura and Davis 2018: 375)

Tsujimura and Davis は、例えば、「スタバる」は、話し手・聞き手がスターバックスに行くことに関連した、さまざまな意味を持つ可能性に注目している。(話し手・聞き手の意図に応じて、潜在的に無限の状況の中で) たとえば、ある人にとっては、この動詞が＜スターバックスに行ってコーヒーを飲む＞ことを意味する場合もあれば、＜リラックスするためにスターバックスに行く＞ことを意

味する場合もある（その人はコーヒーを飲むことを中心的な目的としているわけではない）（p. 378）。Tsujimura and Davis では、この動詞の意味特性を「動詞の意味は、対話者が持っている相互知識に基づいて文脈的に決定される」としてしている（p. 375）<sup>26</sup>。彼らは（18）のような構文スキーマ（3.2.2 節を参照）で新動詞を捉える（範列的關係で結びついている（3.2.3 を参照））。（18）では新動詞が、〈SEM（何か）が関与する文脈的に決定されたイベント・状態〉という意味を表し、さらに〈カジュアルな文体・口調、遊び心がある〉という語用論的指定を持つことを表している。左側の[...]というのは省略記号であり、親ノードと同じ形式であることを示す。

$$(18) \langle \dots [ (C) V (C) V ]_{k \dots} ]_{Ni} \leftrightarrow [SEM]_i \rangle \approx$$

$$\langle \dots [ (C) V (C) V' ]_{k-r} ]_{v_{root-l}} \leftrightarrow [contextually determined event/state in which SEM_i is involved; casual style, playful]_{SEM_i} \rangle$$

(Tsujimura and Davis 2018: 380)

この構文スキーマの表示についての詳細は 3.2.2 節で取り扱う。ここで重要なのは、これらの非合成的（non-compositional）な意味をもつ新動詞の理解には、文脈の理解が必須であるという点である。

以上の研究から、借用拘束形態素と語形成の分析には構文形態論の枠組みが有効であることが示唆される。

---

<sup>26</sup> “The meaning of the verb is contextually determined based on mutual knowledge that the interlocutors have” (Tsujimura & Davis 2018: 375)

### 3.4 フレーム意味論

本研究ではFillmoreのフレーム意味論の枠組みを援用して借用語の意味記述を行う。フレームとは「百科事典的知識」を構成する概念の単位である。百科事典的知識とは、言語記号の必要十分条件である「辞書的意味」とどまらない、「記号の指示物に関して母語話者が持つ知識」の総体である（辻 2013: 300）。Fillmore（1982）は次のように述べている。

「フレーム」という用語は、あらゆる体系化された概念群を意味する。それらの概念の1つを理解するには、それが適合する知識構造の全体を理解する必要がある。このような構造の構成要素が1つテキストまたは会話に導入されると、他のすべての構成要素が自動的に使用可能になる。

(Fillmore 1982: 111) <sup>27</sup>

たとえば、Fillmore は英語の単語 *ground* と *land* が異なるフレームに基づいて理解されていることを指摘している。*ground* は *sky*（空）と対照的に理解され、*land* は *sea*（海）と対照的に理解される。つまり、この2つの単語は、同じ地面がむき出しの乾いた大地を指すものの、それを異なる背景に照らして表しているのである。さらに Fillmore and Baker（2010）はこれらのフレームをいかに導入するかについて次のように議論している。

人間として、私たちはまさに地球上で生活しているがために次のようなフレームのいくつかにアクセスすることができるわけであるが、いわば

---

<sup>27</sup> “By the term ‘frame’ I have in mind any system of concepts related in such a way that to understand any one of them you have to understand the whole structure in which it fits; when one of the things in such a structure is introduced into a text, or into a conversation, all of the others are automatically made available.” (Fillmore 1982: 111)

それらは、日々、年月のサイクルや私たちが知覚する物事に影響を受けているようなフレームであることもある。また、単に私たちが人間であるということによるフレームもある。つまり、重力そして生物学的および感情的な要求に応える身体を有した身体の持つ知覚能力を備えていることによるフレームもある。さらにはまた、他のフレームとして、我々はひとつの文化のなかでその組織、象徴、人工物、価値（観）に意識的または無意識的に反応するわけであるが、そのような文化のうちの特定の1つのメンバーであるということによるようなフレームもあり、他にも、これも重要なのであるが、別のフレームとして、文化を支えそしてそれによって自らも支えられているような特定の言語コミュニティがあり、私たちがその一部であることによるようなフレームもある。

(Fillmore and Baker 2010: 314 ; 太字は筆者による) <sup>28</sup>

たとえば、結婚、政治、宗教、などがどういうものであるかは文化によって異なる。Fillmore はまた、これらの「意味を担う要素[...]」は、人間の経験と人間の慣習に根差しているというこの理由によってのみ存在している」 (“meaning-bearing elements [...] come into being only for a reason, that reason being anchored in human

---

<sup>28</sup> “As humans we have access to some of these frames by virtue of living on the earth, subject to its daily and annual cycles and the entities that we perceive; other frames we owe to just being human, with bodies that respond to gravity and to our biological and emotional needs, and with the perceptual faculties that our bodies possess; **others we have by being members of a particular culture, where we consciously or unconsciously respond to its institutions, symbols, artifacts, and values**; and, importantly, still others we have by virtue of being a part of the specific speech community that supports and is supported by the culture.” (Fillmore & Baker 2010: 314)

experiences and human institutions”)ことを強調している (Fillmore 1982: 135)。この観察は本研究にとって特に重要なものである。

2.1 節で述べたように、金 (2011) の「トラブル」と「ケース」に関する事例研究は次のように再解釈できる。金の「トラブル」に関する記述では、1950年代の新聞記事から2人の恋人間の暴力犯罪について非常に記述的に書かれ、「もつれ」という用語を使用して記者が状況を説明している例を紹介していた。「もつれ」などの言葉にとってかわる「トラブル」の分析は次のとおりである。

半世紀前の、とくに社会面記事の文章は、このように「描写的 (物語の) 」な色彩の強い文章であった。これに対して、現在の新聞記事は、事実を淡々と「概略的 (要約的) 」に報道する文章で書かれることが普通である。描写的な文体では、よく似た《事態》であってもその意味やニュアンスの細かい違いを表し分けるために多くの類義語が必要になるが、概略的な文体では、そうした《事態》を概略的に表わす抽象的な基本語があれば間に合うものと考えられる。

(金 2011: 72)

金 (2011) は分析にフレーム意味論 (またはほかの特定の意味論的枠組み) を使用してはいないが、新聞記者のニュースを報告する方法におけるこのような変化は文化的変化を示し、「トラブル」という借用語はその変化に対応するという役割を担う表現であったと思われる。しかし、意味論的な分析手法を用いた借用語のより精度の高い研究はなされていない。

本研究では、Fillmoreによるフレームの概念を導入し、構文に統合された、相互に結び付いた概念システムを説明する。より詳しく言うと、各スキーマで指定され



る意味的定義自体がフレーム（の内容）に相当すると考える。本研究では、以下の3種類のフレームを提案する（表示については図3.5を参照）。

- (1) 一般フレーム（Generalized frames）（スキーマ/親ノードに関連）：これらは、構文ネットワークの最上位レベルである。これらのフレームの名（ラベル）は最も上位の抽象スキーマ（フレームの定義）に矢印でつながっており、灰色の四角いボックスで表示される。
- (2) 中間フレーム（Intermediate frames）（サブスキーマ/子ノードに伴う）：これらのフレームは（1）を特殊化したノードを表し、文化固有のものではない。
- (3) 文化的フレーム（Cultural frames）（特定の用例に伴う）。これらのフレームは、本研究の図では、下にフレーム名が付いた円として表される。図内のスペースが限られているため、これらのフレームの定義は文章で示している。これらのフレームは「中間フレーム」の日本文化に依存する特殊例であるため、「文化的フレーム」というラベルを使用する。

（1）は（2）の抽象化のものである一方、（3）は（2）の文化に固有の例である。たとえば、第5章で紹介するように（図5.6を参照）、[x-rosu]の1つの中間フレーム（ノード）は《親しい人（一方的な感情も含む）<sub>i</sub>を心理的に失い、それにより感情的な苦痛を経験する》<sub>j</sub>である。これは、普遍的な愛情・愛着を表すもの、つまり、一般化された《（誰か・何かに対しての）愛情・愛着》フレームの具体例である。しかし、これをさらに具体化した日本・日本語固有の文化的フレームの1つとして、「香取ロス」〈香取慎吾（人気アイドル）を結婚によって失うこと〉のように、《アイドルや有名人の結婚から愛情・愛着の喪失を感じる》を指す。

フレームの階層性という考え自体は新しいものではない。たとえば Boas (2008: 40) は、移動様態動詞の統語パターンを説明するためには、一般に「様態」(manner) と呼ばれるものよりも具体的な意味フレームの区別が必要であると指摘する。たとえば *wander* と *totter* は動きが一定に制御 (steady movement および controlled body movement) されているかいなかで区別され、その意味フレームの違いのため、*She wandered/tottered around the park* (彼女は公園を歩き回った／よろめきながら歩いた) は容認されるが、*She wandered/\*tottered the park* (彼女は公園中を歩き回った／よろめきながら歩いた) は容認されないという違いが生じるという。本研究の新しさはフレームの階層性に文化固有性と普遍性という概念を取り込む点である。また、文化固有のフレームは普遍的なフレームの一種であることを示す。

本研究では、3種類すべてのフレームが借用形態素の分析に重要であると論じる。ただし、(3) の文化的フレーム (本論文では日本文化に依存するもの) には特に注意を払う必要がある。定義上、借用語は、借用言語の文化に関連付けられていないはずであるため、借用形態素における文化的フレームの関与は特に興味深いものである。

フレームに関連する重要な概念としてメタファー (metaphor) とメトニミー (metonymy) が挙げられる (Lakoff and Johnson 1980; Lakoff 1999)。本論文では、Croft (1993) によるフレーム (Croft は「領域」(domain) という用語を用いる) に基づくメタファー・メトニミーの定義を採用する。Croft はメタファーを (「同一の領域マトリックスに属さない2つの領域の間の写像」 (a mapping between two domains that are not part of the same matrix) (p. 348) と定義する。(19) と (20) が *in* の多義の例として挙げられている。

(19) She's in the living room. (彼女は居間にいる)

(20) She's in a good mood. (彼女は機嫌がいい)

(Croft 1993: 345)

(19) の起点領域 (source domain) は空間関係に関するものである一方、目標領域 (target domain) つまり拡張義は感情に関わるものである。一方、メトニミーは、「単一の領域マトリックス内における写像」(a [...] mapping [that] occurs within a single domain matrix) (p. 348) と定義される。*Proust* の多義の例として次のものが挙げられており、(21) が字義通りの意味の例であり、(22) がメトニミーの例である。

(21) Proust spent most of his time in bed. (プルーストは人生のほとんどをベッドで過ごした)

(22) Proust is tough to read. (プルーストは読みにくい)

(Croft 1993: 348)

(21) において *Proust* は特定の人物を指すが、(22) ではその人物による著作を指す。プルーストの著作はプルースト領域の一部を構成するフレーム要素<sup>29</sup>である。したがって、(22) におけるメトニミー拡張は、単一の領域内における意味拡張といえる。

---

<sup>29</sup> フレーム要素 (frame element) とは FrameNet の用語集によると「フレームを構成する基本単位となる、フレームに固有の形で定義された意味役割」“frame-specific defined semantic role that is the basic unit of a frame”とされている (Fillmore and Petrucci 2003)。

メタファーとメトニミーについては一つ注意すべき点がある。ある言語表現がメタファーないしメトニミーを含む場合、それには必ずしもメタファーやメトニミーに基づく意味拡張が伴うわけではない。たとえば、**He eats like a pig**（彼は豚のように食べる）という表現には人を豚に喩えるというメタファーが含まれているが、この文を構成するどの語も意味拡張を起こしていない。メトニミーに関する同様の現象を第6章の[x-taimu]構文について指摘することになる。

次に、本研究がフレームをどのように表示するかを示す（図3.5）。（上位のスキーマ（親ノード）は、矢印付きの灰色のボックスにつながっている。この灰色のボックスには、「一般フレーム」（Generalized frames）のラベルが含まれている。次に、親ノードから派生する枝がサブスキーマにつながる。これらは、最上位スキーマのより具体化されたものである。これらを「中間フレーム」（Intermediate frames）と呼ぶ。最後に、用例のレベルでは、「文化的フレーム」（Cultural frames）を円として表示し、各フレームの下にフレームのラベル名を付ける。これらの文化的フレームは、中間フレームのうち文化固有の（関連する）ものとして定義される。最後に、メタファー的およびメトニミー的拡張は点線矢印で表される。図3.5は、これらすべてがどのように組み合わせられるかを示している。以上のすべての理論枠組みがどのように統合されるかを示し、本研究の独自の枠組みを提示する。

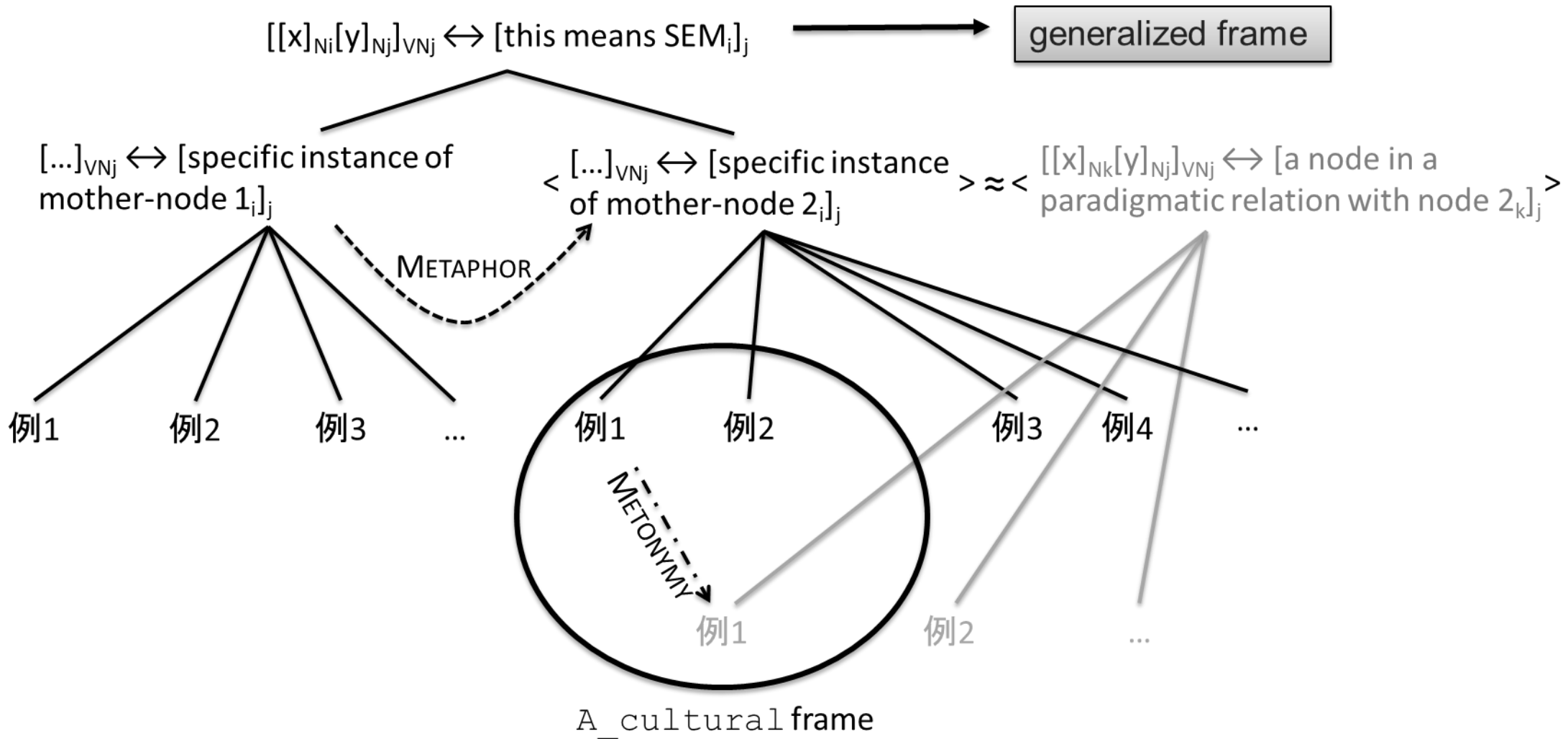


図 3.5 本論文の構文ネットワークの一例

### 3.5 民族言語学<sup>30</sup>

Enfield (2002) によって先鞭がつけられた民族言語学 (Ethnosyntax) という分野では、文法と文化の深いつながりが分析の対象となっている。Enfield は次のように述べている。

文法は文化的な意味で覆われている。文法の意味として文化的価値と思考が記号化されているのであれば、そこに話者が維持する社会構造についての手がかりを見いだせ、その言語のコミュニティの社会組織について、歴史的に関連性がある場合もない場合も含め、証拠が見出せる。

(Enfield 2002: 1) <sup>31</sup>

*Ethnosyntax* (Enfield 2012) では、編者とさまざまな寄稿者が世界の諸言語の文法構造に焦点を当て、文化が文法にどのように影響するかを示している。借用語を扱った研究が同論文集のどこにも見当たらないことは驚くことではないかもしれない。借用語や外来語は通常、重要な文化的概念を意味として表す言語の一部とは見なされていないからである。それは、通常、借用した言語における定着度が低く、借用先の文化に固有のものでもなく、外部に由来するものと見なされるためであろう。したがって、借用した言語が結びついている文化についてそれらの語の観察から言えることは、ほとんどないと考えるのが自然である。ただし、本論文では、[x-jakku]

---

<sup>30</sup> 他の翻訳例として『新編 認知言語学キーワード事典』（辻 [編] 2013）では「民族統語論」を、陳・松本（2018）では「文化人類言語学」という用語を使用している。

<sup>31</sup> “Grammar is thick with cultural meaning. Encoded in the semantics of grammar we find cultural values and ideas, we find clues about the social structures which speakers maintain, we find evidence, both historically relevant and otherwise, of the social organization of speech communities” (Enfield 2002: 1)

や[x-rosu]のような借用語が文化的概念を表していることを示し、この文化的概念の記号化が日本語でどのように行われているかを示す。

### 3.6 方法論：データ収集の方法

本節では、本研究のデータ収集の方法の概要を説明する。本研究では、借用された拘束形態素にどのような構文ネットワークがあるのかを探究し、これらのネットワークを特徴付けているものに注目する。分析には、実際に使用されたデータに基づく、現実の世界の実例が必要である。これを収集するために、最初に BCCWJ の NINJAL-LWP オンライン検索エンジンから関連するすべての例を収集した。<sup>32</sup>BCCWJ コーパスには、オンラインブログ、書籍、広告、雑誌などの、さまざまなテキストからのデータが含まれている。<sup>33</sup>

BCCWJ コーパスに、特定の構文について便宜的に少なくとも 100 種類の異なり語が含まれていなかった場合、データセットのサイズを増やすために別のコーパスを利用した。たとえば、BCCWJ では[x-jakku]構文に対して 8 個の異なり語しか抽出されなかった。したがって、より多様な[x-jakku]の用例を収集するた

---

<sup>32</sup> 「<http://nlb.ninjal.ac.jp/>」のウェブサイトによると「NINJAL-LWP for BCCWJ (以下、NLB) は、国立国語研究所 (以下、国語研) が構築した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 (Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese: BCCWJ) を検索するために、国語研と Lago 言語研究所が共同開発したオンライン検索システムです。」と記載されている。

<sup>33</sup> 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」については『日本語教育事典』(2012)では以下のように概要的に「書き言葉コーパス」(Text Corpus)として記載されている。

『現代日本語書き言葉均衡コーパス (Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese, BCCWJ)』は言語学研究を目的に構築された初めての書き言葉の均衡コーパスであり、書籍、雑誌、新聞、白書、教科書、報告紙、Yahoo!知恵袋、Yahoo!ブログ、韻文、法律、国会会議録の電子データが収録されている。全体として1億語規模のデータになっている。BCCWJの利用面の特徴として、①著作権処理が済んだデータが入っているため、個人単位の研究利用についてはほとんど制限がないこと、②科学的なサンプリングの方法を用いて、現代日本語の書き言葉の縮図となるように設計して作ったコーパスであることが挙げられる。

『日本語教育事典』(2012: 305)

めに、TWC (NLT) コーパス (4.2 節の[x-jakku]のパイロットスタディーでのみの場合は「中日/東京新聞データベース」<sup>34</sup>コーパスも参照) も使用した。ただし、これらのコーパスを使用しても、収集された異なり語数は十分な量ではなかった (100 個未満)。BCCWJ コーパスおよび NLT コーパスの異なり語数が 100 未満であった場合、現在最大の日本語 Web コーパスである jaTenTen11 コーパス (Kilgarriff et al. 2004, 2014) を利用した。このコーパスは、2011 年に収集されたさまざまなウェブサイトのオンラインテキストの集積であり、8,432,256,578 語の単語が含まれている。本研究で取り上げる 3 つの構文のうち、2 つ ([x-jakku] および[x-rosu]) は BCCWJ コーパスおよび NLT コーパスに含まれた異なり語が 100 未満であったため、データは jaTenTen11 コーパスからも収集した。[x-taimu] 構文のみが BCCWJ コーパスで 100 個の異なり語を超えた (133)。したがって、この構文のデータ収集については jaTenTen11 コーパスを参照しなかった。<sup>35</sup>

[x-rosu]構文に関する注意をここで述べておく。「x-rosu」構文はかなり新しいためか、BCCWJ コーパスおよび TWC コーパスでは「ペットロス」という異なり語のみが観察された。さらに、より大規模の jaTenTen11 コーパスにも、この構文用例に関連するものとしては 12 個の異なり語しか含まれていなかった。第 5 章では、なぜコーパスの例が不足しているかについて説明する。本研究の番号付きの例はすべてこれらのコーパスからのものであり、第 5 章で特に明記されていない限り、各例の末尾にコーパスの省略名と用例が検出された年 (わかる場合) を表示する。

---

<sup>34</sup> 中日/東京新聞データベースは中日新聞と東京新聞の検索可能なデータベースである。

<sup>35</sup> jaTenTen11 コーパスは非常に大規模で、収集されるデータが大量になりすぎる恐れがあったため、まずはより小規模のコーパスからデータを収集することにした。



## 第4章

### [x-jakku]の事例研究<sup>36</sup>

本章では、「(地下鉄内の) 広告ジャック」のような「x-jakku」構文のネットワークについての分析を提示する。

Hamlitsch and Horie (2017) では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(NINJAL-LWP for BCCWJ) (以下、BCCWJ) および『筑波ウェブコーパス』(NINJAL-LWP for TWC) (以下、NLT)、『朝日菊蔵Ⅱビジュアルコーパス』、『中日/東京新聞データベースコーパス』に基づいた[x-jakku]構文の初期分析を行った。本章では、Hamlitsch and Horie (2017) で提案した分析を紹介し(4.2節)、『jaTenTen11コーパス』から取得したはるかに大きなデータセットに基づいてその分析を拡張し、[x-jakku]構文の分析を提案する(4.3節)。最後に、この構文において、構文

---

<sup>36</sup> 本章の一部の以前のバージョンは2016年6月11~12日に京都で開催された第41回関西言語学会(KLS41)で発表され、その後Hamlitsch and Horie (2017)として出版された。

ネットワークに文化的フレームがどのように含まれているかを議論し（4.4 節）、この分析の結論を提示する（4.5 節）。

#### 4.1 ハイジャックと[x-jakku]構文の起源

最初に、当該構文の起源を見る。『日本国語大辞典』によると「武器で車両（通常は飛行機）を占領する」という意味のハイジャックという言葉が、1970年代に日本語で初めて登場した。正式には「運行中の航空機などを、武力で乗っ取ること。」、そしてその例として「ハイジャック防止のための検査に手間どるのかも知れないが」（地を潤すもの〔1976〕〈曾野綾子〉三・三）が挙げられている（出典："ハイジャック", 『日本大百科全書』（ニッポニカ）（2016-02-21閲覧））。これは、(1) のような典型的なコーパスからの収集例に似ている。

- (1) キューバに共産主義政権が誕生し、六一年一月に米国が国交を断絶したその日から、「キューバ急行」と呼ばれるキューバ行きのみ国内機のハイジャックが始まる。（2002, BCCWJ）

その後、ハイジャックは(2)のように[x-jakku]の形で結合辞 (combining form) として再分析 (reanalysis) された (例: *alcoholic* → *shopaholic* (アルコール中毒 → 買い物中毒) ; 結合辞の説明についてはWarren (1990) を参照)。コーパスデータでは、この使用方法の最初の例が1990年代に現れ始めた (付録1の例 (2) を参照)。

- (2) 「犯人たちは、今度の列車ジャックを、楽しんでいるんじゃないかと思っただんです」と、早苗はいった。（2004, BCCWJ）

(2) のような構文は、Booij (2010) <sup>37</sup>で提案されている「形態的構文」として表すことができる (図 4.1 を参照)。本研究では、Booij (2010: 13-14; 2013) の用語「構文イディオム」を使用する。これは、当該構文の前項 NP (つまり占有される場所) が何らかの乗り物を表すことを意味する。一方、下付き文字「k」で示される道具 (武器 (ピストルやナイフ等)) が[x-jakku]構文の x に入ることではない。たとえば、<ピストルで (電車などを) ジャックする> という意味での「ピストルジャック」というような用例はない。

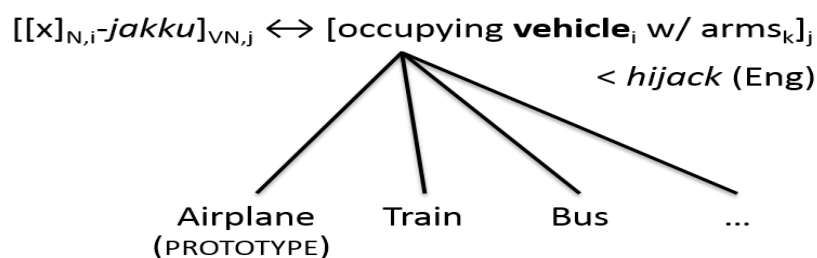


図 4.1 Hamlitsch and Horie (2017) で提案した<車両 (vehicle<sub>i</sub>) を武器 (arms<sub>k</sub>) で占領する>の意味の[x-jakku]構文

「ハイジャック」は、再分析によりこのような結合辞になったことで、以降で取り扱う用法 (「広告ジャック」など) へと拡張したと考えられる。しかし、広告ジャックなどの例は図 4.1 の構文では説明できない。これは、広告は車両ではなく、武器や違法な乗っ取りでもないためである。したがって、この用例や、以降の議論で紹介するその他の用例を説明するためには、より包括的かつ詳細な分析が必要である。以降では、まず 4.2 節でパイロットスタディー (Hamlitsch and

<sup>37</sup> Booij (2010) が *Construction Morphology* で説明しているように、構文形態論のアプローチは構文文法から「構文」 (construction) (形式と意味の結びつき) の概念を援用し、形態素分析に適用するという点で新しいとされている (p. 16)。

Horie 2017) を要約し、4.3 節でより包括的なデータに基づく発展的分析を紹介する。

## 4.2 [x-jakku]構文の初期分析

[x-jakku]構文に関する初期の調査と分析は、Hamlitsch and Horie (2017) で紹介されている。本章ではその論文での観察を要約し、その時点で収集したデータに基づく分析の背後にあった理論的根拠をより詳細に提示する。ただし、4.3 節で説明するように、この分析は多くの側面において[x-jakku]構文を説明するためには不十分であった。したがって、より包括的な分析が必要である。特に、このパイロットスタディーは、[x-jakku]の構文ネットワークの要素がいかなる相互関係にあったのかを概略的に示すことに成功したが、[x-jakku]構文の様々な用法がどのようにもたらされているのかについてのメカニズムを説明することはできなかった。さらに、当時のデータの制限により、[x-jakku]構文の意味拡張で非常に大きな役割を果たしていると思われる、いくつかの主要な[x-jakku]のタイプが見逃されていた。4.3 節では、これらを踏まえたより妥当な分析を提示する。

### 4.2.1 データ収集の方法

本節では Hamlitsch and Horie (2017) でとられたデータ収集の手法について、より詳細に説明する。というのも、論文の字数制限のため、以下のデータ収集の方法についての説明の多くが、上記の論文には含めることができなかったからである。その詳細は、本論の分析における改善点をはっきりさせるために重要な情報となる。まず 4.2 節では 2017 年の研究での分析 (の修正案) について詳細に説明する。次に、4.3 節では jaTenTen コーパスから新規に収集したデータを含め、より包括的なデータセットを使用して分析を提示する。

Hamlitsch and Horie (2017) では、BCCWJ コーパスを使用して、データの初期収集を実行し、表 4.1 に要約する 8 つの異なり語を抽出した。収集は次のように実行された。形態素の「ジャック」の検索は、BCCWJ オンライン検索エンジンを用いて行い、1,203 件のヒットを得た。次にこれは、「パターンの頻度順」設定で見つかった「名詞+ジャック」パターンに絞り込まれた。これにより、115 個のトークン（延べ語数）と 46 個のタイプ（異なり語数）が抽出された。エラー（「最終ジャック」など）およびパターンに適合しない例（漫画の（キャラクター）あるいはカードゲームの名前である「ブラックジャック」など）を除去したのち、8 つのパターンが残った（各表現の例文については付録 1 を参照）。

表 4.1 BCCWJ コーパスから抽出した[x-jakku]の構文のパターン

図 4.1 の構文に適合する [x-jakku] の事例		図 4.1 の構文に適合しない [x-jakku] の事例	
異なり語	延べ語数	異なり語	延べ語数
バスジャック	10	TV ジャック	2
核ジャック	2	教室ジャック	1
電波ジャック	1		
列車ジャック	1		
カージャック	1		
トラックジャック	1		

BCCWJ から得られた用例は比較的少なく、さらに、この研究の発端となった「広告ジャック」は観察されなかった。したがって、より規模の大きい NLT コーパスで追加の検索を行った。最初の検索で 5,030 例が取得され、BCCWJ コーパスのデータ収集と同じ方法を使用して、「パターンの頻度順」設定にある「名詞+ジャック」パターンに絞り込まれた。これにより、923 個のトークン（延べ語数）と 184 個のタイプ（異なり語数）が抽出された。エラー（「今回ジャック」など）およびパターンに適合しない例（ヘッドホンの差込口である「ヘッドホンジャック」）

ク」など)を除去した後、35個のパターンが残った(用例の例文については付録2を参照)。

表 4.2 NLT コーパスから抽出した[x-jakku]の構文のパターン

図 4.1 の構文に適合する [x-jakku] の事例		図 4.1 の構文に適合しない [x-jakku] の事例	
異なり語	延べ語数	異なり語	延べ語数
バスジャック	123	電波ジャック	10
カージャック	27	ブログジャック	4
病院ジャック	8	メディアジャック	3
テレビジャック	3	番組ジャック	3
脳ジャック	3	シネマジャック	2
視界ジャック	3	駅ジャック	2
ビルジャック	2	テレビジャック	1
電車ジャック	2	市庁舎ジャック	1
ブラウザジャック	1	中ぶりジャック	1
列車ジャック	1	カフェジャック	1
原発ジャック	1	キャンパスジャック	1
披露宴ジャック	1	スクリーンジャック	1
視覚ジャック	1	ポスタージャック	1
銀行ジャック	1	ラジオジャック	1
		お台場ジャック	1
		広告ジャック	1
		放送業界ジャック	1
		看板ジャック	1
		着物ジャック	1
		紙面ジャック	1
		副都心ジャック	1

Hamlitsch and Horie (2017) の方法を用いて収集された上記のデータは、抽出された異なり語数の観点からより有益であった。これにより、それを用いた初期分析が可能になった。

#### 4.2.2 [x-jakku]の意味拡張の初期分析

この時点で、電車、地下鉄、そしてその他の関連する要素（例えば、電車内の広告）を含むタイプが、図 4.1 に示されている構文に準ずる [x-jakku] 構文のタイプに適合しているものと、そうでないもの（つまり、x が乗り物以外を表すケース）の両方で生起していることが明らかとなった。そのため、表 4.3 に要約されているこれらのタイプについてさらに調査する必要性が生じた。なお、表 4.3 の異なり語数と延べ語数は NLT コーパスに基づくものである。

表 4.3 NLT コーパスから抽出した「電車」に関する[x-jakku]の構文のパターン

図 4.1 の構文に適合する [x-jakku] の「電車」に関する事例		図 4.1 の構文に適合しない [x-jakku] の「電車」に関する事例	
異なり語	延べ語数	異なり語	延べ語数
電車ジャック	2	駅ジャック	2
列車ジャック	1	中ぶりジャック	1
		お台場ジャック	1
		広告ジャック	1
		副都心ジャック	1

表 4.3 に示されている各表現の具体例を、NLT コーパスから (3) ~ (9) に示す。NLT では例の日付情報が提供されない。出典のウェブサイトまたは記事のタイトルは、各例の後に太字で示す。

電車ジャック：

- (3) マスクボーイたちは感動して電車ジャックをやめてしまいます。(短い期間で親友にするには？ 小説作法)

列車ジャック：

- (4) 日下は鞆を取り戻すため、コントロールセンターの回線に侵入し、偽装列車ジャックを実行する。(古畑任三郎事件ファイル-episode3738/最も危険なゲーム)

駅ジャック：

- (5) 駅広告では商品やキャンペーン告知など短期間での告知として集中貼り、駅貼りポスター（セット）などのご利用が適しているかと思われます。短期集中型の大量出稿により駅ジャック感を出すこともできます。(掲出期間から選ぶ | 交通広告・屋外広告の情報サイト 交通広告ナビ)

中づくりジャック：

- (6) 10号車の中吊り広告は全て同じスポンサー（広告主）となっています。これが後述する女性専用車中づくりジャックというものです。(女性専用車両限定広告実施状況：JR 東日本)

お台場ジャック：

- (7) 『M:I:III』では新幹線の貸切や、お台場ジャックなどで日本を沸かせたが、果たして今回の特別ミッションは一体何なのか！？（トム・クルーズ来日で史上最大の4つのミッションを遂行！『ミッション:インポッシブル/ゴースト・プロトコル』 | HotTrash.com @nifty 映画)

広告ジャック：

- (8) 余談ですが総武線の10両目は女性専用車両なので、女性をターゲットにした



広告ジャックが時々あっておもしろいと思います。(HUAS BLOG -法政広研  
公式ブログ-: 57期)

副都心ジャック:

- (9) 台詞は各キャラ 2 パターン収録されています。映画『けいおん!』副都心ジャックも開催!(映画けいおん! GO!GO!FUKUTOSHIN ジャック~池袋・新宿・渋谷~)

調査の結果、[x-jakku]の用例のうち二割のもの(20%、7/35)が「電車」に関連していることがわかった。残りの 28 表現はすべてまったく異なるトピックに関連しているようである。

これらのデータに加えて、朝日菊蔵 II ビジュアルコーパスおよび中日/東京新聞データベースコーパスから得られた「電車」に関連するデータについても参照し、分析に用いた。これらのコーパスから抽出したデータは、分析に多様性を与えるために取り入れられたが、本質的に分析には影響はなかった。

これらのコーパスにおける際立った 3つのパターンは「電車ジャック」、「トレインジャック」、および「広告ジャック」であった。これらのタイプの代表例は、(10) - (12) に示すとおりである(これらのコーパスから抽出した他の例については、付録 3 を参照)。

電車ジャック:

- (10) 電車内の広告スペースを丸ごと埋める「電車ジャック」への反応に近い。表紙全体を「オフィス」のテーマカラーにしたり、「オフィス」のロゴを入れたり。(朝日、2006)

トレインジャック：

- (11) 駅から徒歩7分の同大は、TX20駅に広告を出すことや、電車の中張り広告を全部を買い取る「トレインジャック」も検討している。（朝日、2004）

広告ジャック：

- (12) 全日本空輸（ANA）は、名古屋鉄道の新名古屋駅と金山駅構内を十一日から約五十日間、自社広告で埋め尽くす“広告ジャック”を展開する。（中日、2005）

これらの4つのコーパスから抽出されたデータを解説・説明するために、4.2.2.1節でHamlitsch and Horie（2017）での分析を取り上げる。

#### 4.2.2.1 Hamlitsch and Horie（2017）で提案した[x-jakku]の意味拡張

図4.1の構文は表4.1-4.3の左側の列の用例が説明できるが、右側の列の用例を説明するためには別の構文を提案する必要がある。Hamlitsch and Horie（2017）では、分析を実証するために、BCCWJおよびNLT、朝日菊蔵IIビジュアルコーパス、中日/東京新聞データベースコーパスから抽出した（13）～（18）の例を提示した。

- (13) JR山陽線で4両編成の車内を為末選手のポスターで埋め尽くす「電車ジャック」も始める。（2005, 朝日）

- (14) 広告貸し切り電車（トレインジャック）は昨年春から山手線で始めたが、県

内の宿泊客数の減少傾向が続いていることから、今回初めて地下鉄にも「戦線拡大」した。(1997, 朝日)

(15)とうとう、タケシたちは、ろうかへにげだした。「黒へビの教室ジャックだ」みんなが、青ざめた。(2003, BCCWJ)

(16)通常、民放のドラマであれば放送前の番組ジャックやイベントなど、PRも華やかで盛り上がるのですが、NHKドラマはそんなわけにはいかない。(2009, TWC)

(17)全日本空輸(ANA)は、名古屋鉄道の新名古屋駅と金山駅構内を十一日から約五十日間、自社広告で埋め尽くす“広告ジャック”を展開。(2005, 中日・東京)

(18)そして、日曜は着物ジャックの日。(2012, TWC)

以上のような例における[x-jakku]の構文を説明するために、(I)のように、[x-jakku]には日本の電車の意味的フレーム(Fillmore 1982)に基づいてメタファー的およびメトニミー的な拡張が生じたと提案した。

- I. [x-jakku]は日本の電車の意味フレームに基づき、メタファーに基づく意味拡張およびメトニミーに基づく意味拡張の両方が生じた。

4.3 節で明らかにするように、この提案は棄却される。これは、より大きなデータセットを用いたとき、その仮説を裏付ける根拠が薄いためである。ここでは、この仮説の背後にある理論的根拠と元の分析を紹介することにする。Hamlitsch and Horie (2017) では、2つの[x-jakku]の構文を提案し、構文のネットワークの中で問題となっている意味拡張の位置づけを行った。

図 4.2 の構文は、図 4.1 の構文から拡張したものである。(13) および (14) の例は、「電車」について言及してはいるものの、何らかの武器を使用しながらの違法に占領されていることを表しているわけではなく、法的手段を介して占領されているということを表している。またこのとき、車両は道具である「広告」(下付き文字「k」で示される)が占める空間として解釈されている。Hamlitsch and Horie (2017) においては、このメタファー的拡張を、「武力による(物理的な)車両の支配」(FORCEFUL (PHYSICAL) DOMINATION OF VEHICLE) から「商業的な目的による空間の支配」(COMMERCIAL DOMINATION OF SPACE)<sup>38</sup>への拡張と定式化した。図 4.2 で示しているように、電車のフレームに基づき、支配から空間占有へとこのメタファー的拡張により、(15) および (16) のように、任意の空間が占有されるという意味を表すようになる。これらをふまえ、これら両方の使用法の一般化を行い、 $[[x]_{N,i}\text{-}jakku]_{VN,j} \leftrightarrow [\text{occupying SEM}_i \text{ w/ SEM}_k]_j$  として表した。二重矢印の左側は[x-jakku]の形式に関する表示であり、右側は意味的な指定を表し、「何か(SEM<sub>k</sub>)で何か(SEM<sub>i</sub>)を占有する」という意味を表している。

---

<sup>38</sup> Hamlitsch and Horie (2017) ではこれとは少し異なるメタファーを提案している。本研究でのメタファーは Hamlitsch and Horie (2017) のメタファーを修正した Hamlitsch (2020) に基づく。

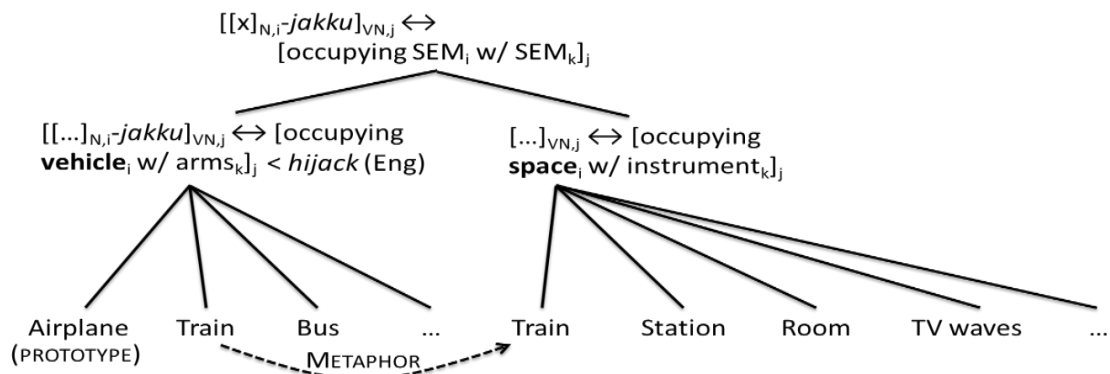


図 4.2 <車両 (vehicle<sub>i</sub>) を武器 (arms<sub>k</sub>) で占領する>および<空間 (space<sub>i</sub>) を道具 (instrument<sub>k</sub>) で占領する>の各子ノード (接点) とその抽象化された親ノード<何か (SEM<sub>k</sub>) で何か (SEM<sub>i</sub>) を占有する>からなる[x-jakku]の構文

図 4.2 の左ノードと右ノードの違いは、左ノード ([[...] <sub>N,i</sub>-jakku] <sub>VN,j</sub> ↔ [occupying **vehicle**<sub>i</sub> w/ arms<sub>k</sub>]<sub>j</sub>) においては、占有されるのが「(何らかの) 乗り物」に意味的に指定されている (太字になっている部分) のに対し、右ノード ([...] <sub>VN,j</sub> ↔ [occupying **space**<sub>i</sub> w/ instrument<sub>k</sub>]<sub>j</sub>) では占有されるのが「(何らかの) 空間」であると意味的に指定されているということである。左側のノードで使用される道具は、常にある種の武器であるが、右側のノードにはそのような制限はない。これらの2つのノード間で、「電車」は車両 (2) の例を参照) または空間 (13) および (14) の例を参照) として解釈できるため、「電車ジャック」について電車のフレームに基づくメタファー的な拡張を仮定した。得られたデータに基づき、このメタファー的な拡張は一般的な「乗り物」のレベルではなくより下位の特定のレベルで行われ、かつプロトタイプの「(飛行機による) ハイジャック」ではなく「電車によるハイジャック」が起点領域 (source domain) として機能していると、Hamlitsch and Horie (2017) では考えていた。

次の意味拡張は、(17) のように占有されている空間から占有するのに用いられる道具へのメトニミーに基づいてフレーム内で拡張したものとした。

- (17) 全日本空輸 (ANA) は、名古屋鉄道の新名古屋駅と金山駅構内を十一日から約五十日間、自社広告で埋め尽くす“広告ジャック”を展開。(2005, 中日・東京)

メタファー的拡張と同様に、このメトニミー的拡張は、(18) のように他の道具にも適用される。

- (18) そして、日曜は着物ジャックの日。(2012, TWC)

(18) は例として<集団のメンバーが全員着物を着て、ある場所(駅など)を占有する>という意味である。これらの[x-jakku]の構文は、図 4.3 (Hamlitsch and Horie (2017) から引用) のようなネットワークとして表現される。(13) ~ (18) の例は、図 4.3 のサブノードの存在を支持するものである。

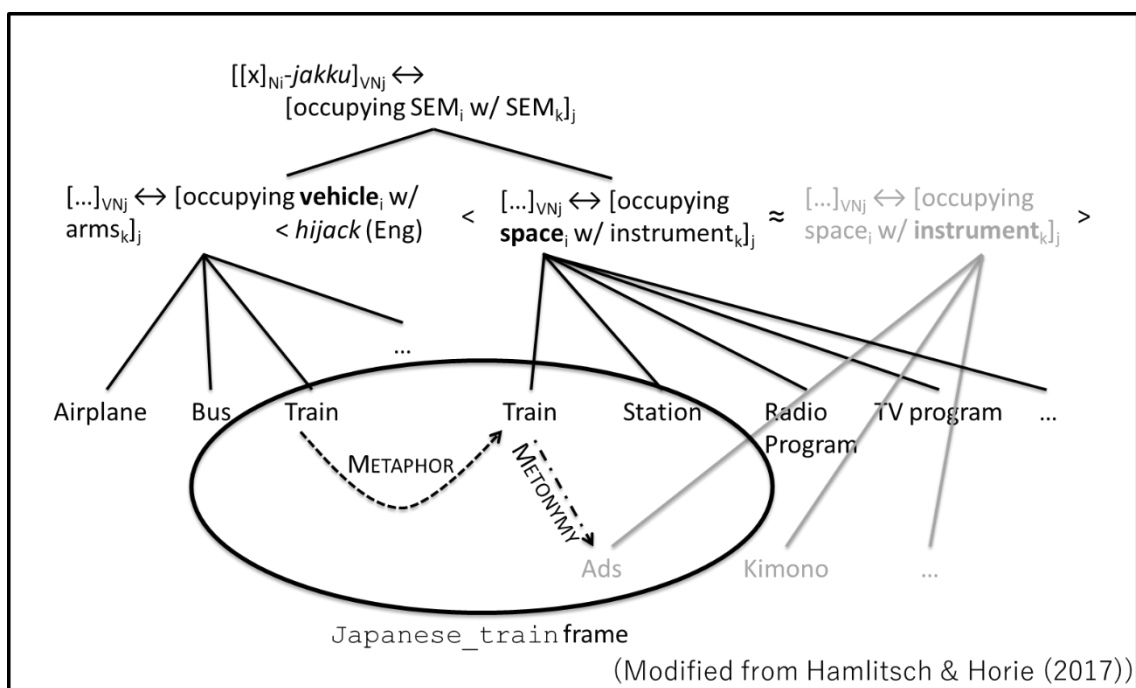


図 4.3 Hamlitsch and Horie (2017) で示した[x-jakku]の構文ネットワークと《日本の電車》フレーム（1 つ目の[x-jakku]の構文は黒で、2 つ目の構文は灰色で表されている）

図 4.3 に灰色で示されている 2 つ目の構文も、《Japanese\_train》（《日本の電車》）フレーム内でのメトニミー的拡張（外側の容器としての「電車」から内側の「広告」へ）によるものと考えられる。NP の要素となる車両である「電車」と「トレイン」（(13) と (14)）は、(17) のように《日本の電車》フレームに属する「広告」が代わりにメトニミー的に使用される。この拡張により、[x-jakku]構文において、前部要素が他の道具 (18) によっても形式的（下付き文字「k」で示される）に特定化されることが可能となったと考えられる。

図 4.3 に示しているように、[x-jakku]構文には 2 つのサブタイプがある。1 つ目の構文には ([[x]Ni-jakku]VNj ↔ [occupying SEMi w/ SEMk]j) 次の 2 つのサブノードがある：1. [occupying **vehicle**i w/ armsk]j、例えば「列車ジャック」および 2.

[occupying space<sub>i</sub> w/ instrument<sub>k</sub>]<sub>j</sub>、（例えば「電車ジャック」<（合法的に）電車を（ポスターで）占有すること>。2つ目の構文は（[[x]<sub>Nk</sub>-jaku]<sub>VNj</sub> ↔ occupying space<sub>i</sub> w/ instrument<sub>k</sub>]<sub>j</sub>）、（例えば「広告ジャック」<（合法的に）広告でどこか（電車や駅など）を占有すること>）、（15）の例で「電車ジャック」を「広告ジャック」に置き換えることができ、その逆が（17）に当てはまるように、1つ目の構文の2つ目のサブノードと範列的に（パラダイムの、つまり、交替形として）つながっている。

2つ目の構文は[[x]<sub>Ni</sub>-jaku]<sub>VNj</sub> ↔ [occupying space<sub>i</sub> w/ instrument<sub>k</sub>]<sub>j</sub>との範列的關係（つまり、<[x-ism] ↔ [イデオロギーなど] ≈ [x-ist] ↔ [そのイデオロギーを持つ人など]>; 3.2.3節を参照）にある。<sup>39</sup>別の言い方をすれば、1つ目の構文の右ノード（1つ目の構文の親（一般）ノードではなく）と2つ目の構文全体が、互いに範列的な関係にあるということである。1つの構文が存在する場合、他方の構文も存在するということである。これにより、（17）で「広告」を「電車」に置き換えられ（（17'）で書き換えられている）、（13）で「ポスター」を「電車」に置き換えることができる（「ポスタージャック」は<（電車を）ポスターで占有すること>）（（13'）に書き直されている）一方、（2）の「列車」を「\*ピストル」で置き換えることができない（「\*ピストルジャック」：<ピストルで車両を占領する>という意味で）ということが説明できる。

(17) 全日本空輸（ANA）は、名古屋鉄道の新名古屋駅と金山駅構内を十一日から約五十日間、自社広告で埋め尽くす“電車ジャック”を展開。（2005、中日・東京）

---

<sup>39</sup> ここで論ずる構文交替は、従来扱われてきた[x-ism] ≈ [x-ist]のような範列的關係と異なり、入れ替わるのが定項ではなく変項のほうである。この関係を「範列的」と見なしでよいか、あるいは新たな構文間関係を導入すべきかは、今後の理論的課題である。なお、同様のことが、第5章の[x-rosu]における構文交替についても言える。



(13) JR山陽線で4両編成の車内を為末選手のポスターで埋め尽くす「ポスタージャック」も始める。(2005, 朝日)

\* (2) 「犯人たちは、今度のピストルジャックを、楽しんでいるんじゃないかと思ったんです」と、早苗はいった。(2004, BCCWJ)

Hamlitsch and Horie (2017) では、これがフレーム意味論とどのように関連しているのかについて論じたが、これについては4.4節で取り上げる。

#### 4.2.2.2 Hamlitsch and Horie (2017) での[x-jakku]のパイロットスタディーの結論と問題点

Hamlitsch and Horie (2017) では、[x-jakku]が《日本の電車》という意味フレームに関連してメタファー的およびメトニミー的拡張の両方が生じたということを主張し、これらの使用法を繋ぐ2つの[x-jakku]構文を仮定した(図4.3を参照)。さらに、範列的關係という概念を導入することにより、(2)の「\*ピストルジャック」のような複合が不適切である理由、および2つの[x-jakku]構文の関係を説明した。

ただし、次の節で議論するように、この分析にはその時に利用したデータの点で問題がある。前の段落で提示した結論は、BCCWJおよびNLT、朝日菊蔵IIビジュアルコーパス、中日/東京新聞データベースコーパスから抽出されたデータに基づいているが、このデータは[x-jakku]の意味拡張の全体像を把握するのに十分な大きさではなかったと思われる。

第一に、Hamlitsch and Horie (2017) では「武力による(物理的な)車両の支配」(FORCEFUL (PHYSICAL) DOMINATION OF VEHICLE) から「商業上の理由による空

間の支配」 (COMMERCIAL DOMINATION OF SPACE) へのメタファー的拡張は、《日本の電車》フレーム内で生じたと主張していた。これはもっともらしいシナリオではあるが、このメタファー的拡張がいかにかに起こったかに関して、その詳細なメカニズムは提示されていなかった。そのため、この点についてより徹底した説明を目指し、より多くのデータを収集することとした。

次節では、この意味拡張がどのように生じたかを示すために、「電波ジャック」とその関連用語からの拡張を可能にする文脈 (enabling context) に支えられて生じたとすることにより、この問題を解決することを試みる。ただし、この結果として、《日本の電車》フレームは、[x-jakku]の構文の分析には依然として重要ではあるものの、メタファー的意味拡張が生じた場所ではなくなる。ただし、このフレームの役割は「電波ジャック」とその関連語の説明にも当てはまる。

第二に、この分析では観察されなかったもう1つの意味拡張を提案する必要がある。この拡張は、2017年の研究では見逃されていたが、実際のところ、(15)と(16)などの用法を区別する必要がある。

(15) とうとう、タケシたちは、ろうかへにげだした。「黒へびの教室ジャックだ」  
みんなが、青ざめた。(2003, BCCWJ)

(16) 通常、民放のドラマであれば放送前の番組ジャックやイベントなど、PRも華やかで盛り上がるのですが、NHKドラマはそんなわけにはいかない。  
(2009, TWC)

(15) では、「乗っ取り」を行うのは、動作主 (この場合はへび) である。これは、喜劇的効果を伴うものではあるが、これは、擬人的な「乗っ取り」行為と

みなすことができるため、(16) と比べ元のプロトタイプの「ハイジャック」に近い意味である。他方、(16) などの例は、商業的な意味と密接に関連している。この区別は重要なものであるため、個別に対処する必要がある。次の分析では、これら2つの問題への案を提案する。

### 4.3 [x-jakku]の構文ネットワークの拡張分析

本節のデータ収集と分析は、4.2 節で紹介した分析を補助し、さらなる証拠を提供するために行われた。しかし、結果はそれ以上のものである。収集されたデータは、《日本の電車》フレーム内で起こるメタファー的拡張の最初の仮説が十分に裏付けられていないことを示しており、棄却すべきことを示す。その代わりに、より大きなデータセットに基づく分析はこの意味拡張が発生したメカニズムを説明する、「電波ジャック」に焦点を当てた分析を支持する（詳細な分析については 4.3.2.1 節を参照）。これは、メタファー的拡張という観点では《日本の電車》フレーム仮説では提供されないものであり、したがって、新しい証拠に照らしてはるかに説明力に劣るものである。第二に、動作主名詞 (agent noun) とこれが私たちの百科事典的知識に接続する方法を含む別の意味拡張が提案される。これは前の節の図 4.3 には表れない（詳細な分析については、4.3.2.2 節を参照）。

#### 4.3.1 データ収集の方法

表 4.2 の TWC コーパスからのデータは、BCCWJ に比べ[x-jakku]の使用範囲についてよりよく示している。現在の最大の日本語 Web コーパスである「Japanese Web 2011 corpus」（以下、「jaTenTen11」）（Kilgarriff et al. 2004, 2014）を使用して「Sketch Engine」で最終的な検索を行った。文字列「[tag="N.\*"][word="ジャック"]」を使用したコンコーダンスの「Contextual Query Language」(CQL) advanced

criteria search (高度な基準検索) により、38,889 例 (トークン) を取得した。異なり語数では 4,501 語であった。「Sketch Engine」では、最初の 1,000 個の異なり語を表示およびダウンロードできる。エラー (「WWW ジャック」など) およびパターンに適合しない他の例 (「ナイトメアビフォアクリスマスジャック」など) を除外した後、154 パターンが残った。この調査の結果を表 4.4 にまとめる。

表 4.4 「Japanese Web 2011 corpus」 (jaTenTen11) から得た[x-jakku]構文のパターンは、延べ語数の順に並べられている。

異なり語	延べ語数	異なり語	延べ語数	異なり語	延べ語数
電波	621	エア	11	看板	4
シー	335	キモノ (着物)	11	温泉	4
カー	284	番宣	10	尻	4
日テレ	237	汽車	10	ヒルズ	4
サイト	231	マスコミ	10	タクシー	4
視界	219	ヘリ	10	スタジアム	4
テレビ (TV)	182	ビジョン	10	ゆりかもめ	4
渋谷	151	ネット	10	プチ	4
メディア	123	イベント	10	深夜	3
池袋	120	車両	9	重賞	3
ブログ	75	(〇〇) 会	9	シアター	3
ブレイン	69	ビジュアル	9	教室	3
電車	69	トイレ	9	舞台	3
番組	68	週間	8	シャトル	3
トレイン	58	紅白	8	メール	3
放送	54	空港	8	車	3
ラジオ	53	球宴	8	神戸	3
列車	47	授業	8	球場	3
クリック	47	ミサイル	8	本社	3
集団	44	エリア	8	幽白	3

広告	43	東京	7	視覚	3
ライブ	39	新聞	7	コーナー	3
スカイ	38	お台場	7	トラック	2
秋葉原 (アキバ) (秋葉)	37	全局	7	会場	2
核	37	ページ	7	壁面	2
ボディ	37	アニメ	7	スタジオ	2
鎌倉	32	WS (ワイドショー)	7	大阪	2
表紙	31	空間	6	自宅	2
駅	30	日記	6	アカン警察	1
(〇〇) 式	27	日本橋	6	祭り	1
(〇〇) 局	20	無意識	6	オリオン通り	1
日本	19	店舗	6	銭湯	1
時間	18	新幹線	6	香港	1
TBS	17	学校	6	こたつ	1
(〇〇) 機	17	作品	6	市街地	1
雑誌	16	ボイス	6	パーティー	1
テレ朝	16	パイ	6	ネットワーク	1
記事	15	ドメイン	6	タウン	1
病院	15	デパート	6	下北沢	1
嵐	15	チャンネル	6	ワールドシリーズ	1
回線	14	カフェ	6	銀行	1
原宿	14	(野幌) (商店街) 軒先	5	路上	1
ポスター	14	秋葉	5	歴史	1
脳内	13	着物	5	セブン	1
画面	13	原発	5	スクール	1
モバイル	13	チャリ	5	コミック	1
バス	12	キャンパス	5	ビデオ	1
新宿	11	中ぶりジャック	5	検索	1

表参道	11	(数字) 面	4	中継	1
ランキング	11	鉄道	4		
ステージ	11	部屋	4		
スクリーン	11	車内	4		

#### 4.3.2 [x-jakku]の構文ネットワークに関するデータ分析

延べ語数（100 個を超える延べ語）の観点から上位 10 種類を調べ、それらを図 4.1（本章の 4.2 節を参照）に示されている構文に適合する [x-jakku] 構文のタイプと、そうでないタイプに整理すると、表 4.5 の結果が得られる。図 4.1 の構文に適合するものは、「ハイジャック」の本来の意味をもつ例である（つまり＜武器で車両（通常は飛行機）を占領する＞）。

表 4.5 jaTenTen11 コーパスから抽出した[x-jakku]の構文の延べ語（100 個を超える延べ語）の上位 10 種類

図 4.1 の構文に適合する [x-jakku] <車両 (vehicle) を武器 (arms) で占領する>の事例		図 4.1 の構文に適合しない [x-jakku]の事例		
異なり語	延べ語数	異なり語	延べ語数	延べ語数の合計
電波ジャック	48	電波ジャック	573	621
シージャック	335	シージャック	0	335
カージャック	284	カージャック	0	284
日テレジャック	0	日テレジャック	237	237
サイトジャック	4	サイトジャック	227	231
視界ジャック	218	視界ジャック	1	219
テレビジャック	12	テレビジャック	168	181
渋谷ジャック	1	渋谷ジャック	150	151
池袋ジャック	0	池袋ジャック	120	120
メディアジャック	2	メディアジャック	112	114

表 4.5 の延べ語数で興味深いのは、「電波ジャック」だけが両構文にかなりの数があるということである。これは、コーパスからの多くの例（48 語数）が＜

武器で SEM (何か) を占領する>、つまり構文の元の「テロリスト」の使用法の明確な例を含んでいたことを意味する。一方、観察されたほとんどの「電波ジャック」の例 (573 語数) は、<武器を持つ SEM を占有する>という意味とは異なる他の用途を示している。これらの他の使用法の中でも、意味的領域が異なっており、これについては本節で説明する。さらに、「政治」の文脈で得られたいくつかの例についても観察した。これは、法的または違法な意味の両方ととることができる。この文脈から、[x-jakku]の意味拡張がいか生じたかについて説得力のある説明を行うことができることを本論では主張する。

生起頻度が最も高いのは「電波ジャック」であったが、それに続く 2 つの高頻度なタイプは、「シージャック」と「カージャック」である。これらは両方とも、<車両を武器で占領する>という本来の意味と明確に関連している。ただし、図 4.4 で新たに提示したこの基本となる構文は、最初に提示されたのちがって「車両」のみに関連するものではない (図 4.1 を参照)。したがって、これらのタイプを含むように、定義を<武器で SEM を占有する>に拡張する (「SEM」は、テロリストなどによって違法に占有される可能性のある空間を指す)。トップ 10 の中でこの意味に関連する唯一の例は、「視界ジャック」である。ただし、1 例を除けば、すべての例が特定のテレビゲーム内での機能を指しているため、このテレビゲームを知らない人はおそらくこの用語になじみがないと結論付けるのが安全であると考えられる。Hamlitsch and Horie (2017) で提示された研究の方向性を前進させ、修正された図 4.1 を図 4.4 として以下に提示する (現在の分析の最終的な構文については、図 4.13 を参照)。

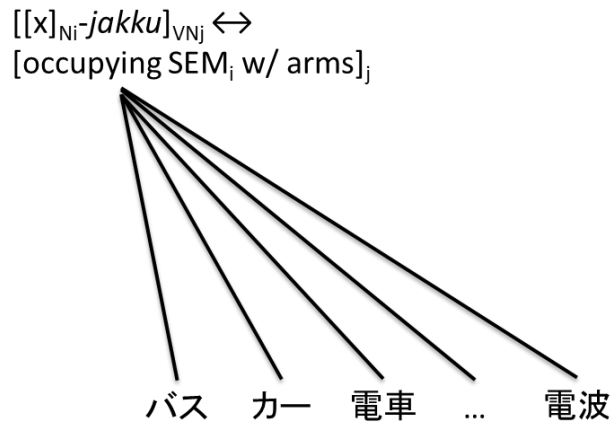


図 4.4 <武器で SEM<sub>i</sub> を占有する>を意味する[x-jaku]の構文

図 4.1 から改訂された図 4.4 には「電波ジャック」(例 (19) — (20) を参照)、および上位 10 リストのその他の例 (21) — (22) が含まれている。ただし、この使用法には、トップ 10 にない他の語例(電車ジャック (23) など)があり、省略記号「...」( (24) — (26) を参照) で表されている。

(19) フジテレビ不法占拠して、電波ジャックし、自分達の主張を発表した後、全員自決とか。(k-server.org)

(20) それをネットを見ない、見ても深いところまで見ない一般人に伝えるためにはやはりビラかなあ・・・放送局に立てこもって電波ジャックなんてあんまよろしくないしね。(daihatsu-nishitaga.jp)

(21) ところで...特撮好きしか考えないだろうと笑っちゃいますが、シージャックされた石油タンカーの乗組員役で潮哲也さんが出演していたので、もうひとり東宝に縁深い水谷邦久さんが出ていたら三人のヒーローで一氣にか



タがつく...と。(cocolog-nifty.com)

(22) このゲームのキモであるスタントプレイやカージャック、そしてヘリジャックはとにかく楽しい。(fc2.com)

(23) だから、近年、大きなハイジャック、電車ジャック、バスジャックなどは、起きていませんよね。(fc2.com)

(24) なんちゃそれ？アメリカ同時多発テロ事件の飛行機ジャックは、ユナイテッド航空 93 便。(aozora2000.net)

(25) 実は私もね.....計画の施設破壊やついこないだのステルス機ジャックの件で.....」(tabigeinin.com)

(26) パキстанは核保有国だ。アメリカは、アルカイダに連なる勢力が核兵器をもつ蓋然性が高まれば、「核ジャックを防ぐ」という口実で武力を用いた介入を行うであろう。(viva2ch.net)

表 4.5 に要約されている上位 10 種類の残りの 6 種類のうち、2 種類には違法の意味を表す使用法はなかった（「日テレジャック」・「池袋ジャック」）。「渋谷ジャック」にはトークンが 1 つ見られたが、その用例は物語の中で起こっているようであり、実際の日常生活の状況を表すものではなかった。残りの 3 つ（「サイトジャック」・「テレビジャック」・「メディアジャック」）のうち、「テレビジャック」が 12 語の中で最も多くなっていた。しかし、これらの用例

は、より頻繁の高い「電波ジャック」(27) — (28) の文脈で発生する例もあった。

(27) あら、電波乗っ取った。テレビジャックっすね。(sportgym.info)

(28) 平和大好き党が勝った暁には、皆さんに5万円をお配りします。平和大好き党は平和を愛する党です。憲法9条万歳……。葛城二尉は、思い余って、電波を操る田中二尉を始めとする何人かの協力者と結託し、こっそりと大犯罪を試みた。盗撮とテレビジャックである。(yasao.net)

次の節では、「電波ジャック」を介したこの意味拡張の詳細な分析と、より概略化された[x-jakku]の形式を示す。具体的には、構文上で前部要素が「電波」と指定されていない場合、つまり「テレビの電波ジャック」などではなく単に「テレビジャック」という場合でも、<(テレビなどの) 電波を占有する>という解釈となる。この<電波ジャック>というデフォルト解釈は、[x-jakku]の構文の意味拡張を促進する主要な役割を果たしたと主張する。

#### 4.3.2.1 「電波ジャック」をめぐる調査と新しい仮説の提案

本論では、表 4.5 の分析に基づき、主な意味拡張は「電波ジャック」を介して行われたと提案するが、表のデータからは、そのプロセスは不明である。本節では、これがいかに発生したかの理論的根拠を提示する。より正確には、II のような仮説を立てた。

II. [x-jakku]構文の意味拡張は、「電波ジャック」の意味の変更を介して生じた。

つまり、「電波ジャック」が構文ネットワークで重要な役割を果たしているということである。これに基づき、図 4.5 に示す通り、「電波ジャック」の最初の意味拡張が発生したと主張する（以下では、読みやすくするためにフォーマットを可能な限り一貫させながら、本節の図を 1 つずつノードを追加しながら拡張していく）。

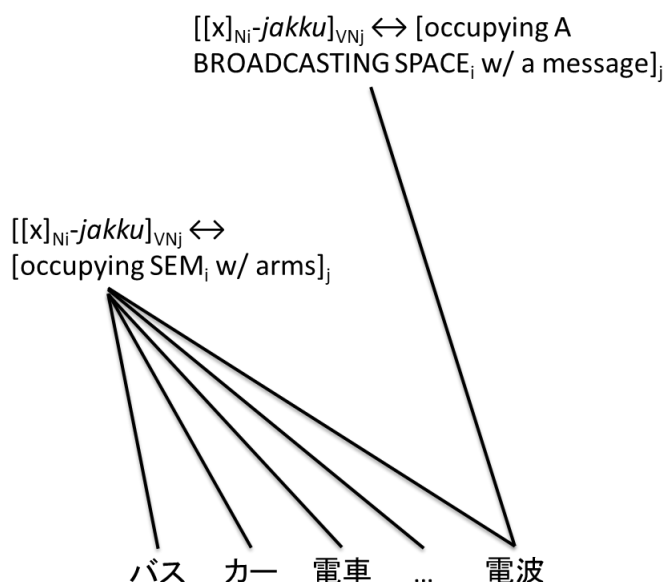


図 4.5 「電波ジャック」の最初の拡張による[x-jakku]の構文

図 4.5 における「電波」から上に延びたノードのうち右側のノード（すなわち  $[[x]_{Ni-jakku}]_{VNj} \leftrightarrow [occupying A BROADCASTING SPACE_i w/ a message]_j$ ) は「電波ジャック」から拡張した[x-jakku]を表しており、それが違法なテロ活動の意味の他、多くの意味を獲得していることを表している。これは  $[[x]_{Ni-jakku}]_{VNj}$  (矢印の左側) として表され、 $[occupying A BROADCASTING SPACE_i w/ a message]_j$  という意味をもっていると表示される。これは (29) — (34) に例示されている通り、 $\langle$ 宣伝で電波<sub>i</sub>を占有する $\rangle$  という意味である。

- (29) 反日国家を持ち上げまくって電波ジャックしてる時点で政治的意図あるよね。(t-ny.net) (政治に関する用例)
- (30) だから民主党もこれが作戦で実は菅が勝つ事は決まっててやってるんなら大したもんなんだけどガチで小沢勝つ気で居るからなwそこ行くと自民党は電波ジャックの仕方うまかったよな。(wa-mo.to) (政治に関する用例)
- (31) 日頃お茶の間にて登場するタレントが歯を食いしばり、ゴールとなる日本武道館を目指す姿が番組と番組の合間に登場し、そのリアルタイムでの頑張る姿に感動する人々も多く、まさに走るランナーは24時間の電波ジャックをするほどに注目度の高い存在と成り得る。(value-info.org) (コマーシャル・放送に関する用例)
- (32) 明日は朝から東北放送さんのラジオ生出演！伊勢の話はもちろん、新潟や伊賀の話で盛り上がることでしょう！代表！明日は調子に乗りすぎて電波ジャックしたらアカンで(笑)(value-info.org) (コマーシャル・放送に関する用例)
- (33) 想像だけど、筋は通ってるよね？明日JOYの発売日なのにお金もってくるのわすれてた(^q^)801ちゃんは今全額内金済。CDって割合水曜日に発売になること多いけれども水曜は毎週校内放送日(※別名電波ジャック)なんですよね...！！無事に(先輩だけでも)D好きさんを発見できたことですし明日も頑張ってJOYTOTHEWORLD\(^o^)/となりの

801ちゃん!!! (fc2.com) (学校の放送(公告)システムに関する用例)

(34) アクメツ手詰まりになったアクメツたち、学校が占拠され、生徒が人質に取られている事実を電波ジャックして世論を動かそうとしますが、ジャックした電波塔を次々爆破され、手詰まりに……。 (so-net.ne.jp) (学校の放送(公告)システムに関する用例)

(29) — (30) の例は政治に関連し、(31) — (32) はコマーシャル・放送に関連し、そして(33) — (34) は学校の放送(公告)システムを滑稽に乗っ取るということに関連している。これら3つの用法は、「電波ジャック」が非テロ関連の意味での用法の代表的な例である(表4.5の右側の列、ただし、これらがjeTenTen11コーパスデータにおけるすべての「ジャック」の用法というわけではないことに注意されたい)。実際、異なり語が最も多い例は、(35) — (38) のようなテレビCMや商業活動などに関連するものである。以下の例は何らかの形で広告と関連している。そのうち、興味深いことに、(37) — (38) は構文の前部要素が交替を起こす((49) — (50)の例を参照)。

(35) 実際広告費を多く捻出できる企業が電波ジャックまがいと同じCMを頻繁に繰返すのをしばしば見せられるが、実店舗でのすりこみBGMと同様に不快極まる。(fc2.com)

(36) 大野君が電波ジャックするということで、朝5時に起き、「やじうまプラス」をつけっぱなしにしていたが、捕獲できたのは7時50分台のほんの数分。  
(fc2.com)

(37) 泰葉がボダと分かりカウンセリング治療受けて『謝罪』出来る等、一般常識な身のこなし優しさを身につけ、テレビの電波ジャックで再び暴れないで下さい。(fc2.com)

(38) なんか速攻でエリオは電波女でなくなったみたいですが前川さんやリュウシさんを加え先週同様高専大会があるので運動部に入っていない人は休講ですしかも明日は准くんが日テレを電波ジャックしますね (awe.jp)

さらに、「電波ジャック」の例ほど延べ語数は多くないが、[x]は、(39) — (41)のように、<宣伝で**電波**を占有する>というフレームのフレーム要素 (frame element) (例: 「テレビ」など) も取ることができる。

(39) 「次は誰だ」というテレビで長々と好き勝手な放映は自民党がテレビジャックしたみたい。(ishikawa-engineering.com)

(40) 言葉が踊る劇場選挙とメディアジャック、国民不在の挙党一致、もういい加減にしてほしい。(exblog.jp)

(41) 司会役はカメラの脇の大きなボードやその他のサインを見て進行するのだが、それを全てYに握られてしまった・・・結果、Yの文化人が一人で喋るシーンの連続となり高視聴率の割りにクレームが多い結果となったんだな・・・これは番組ジャックの例だが、じゃあ民主党に不利な番組を作らせない為にはどうするか・・・Yの特徴は企画力で、この点に於いて愛宕山は

もはやYに太刀打ち出来ない。(l-co.co.jp)

これは、図 4.6 の最上位の親ノードに属する子ノード（すなわち、「テレビ」や「番組」など）として表されている。

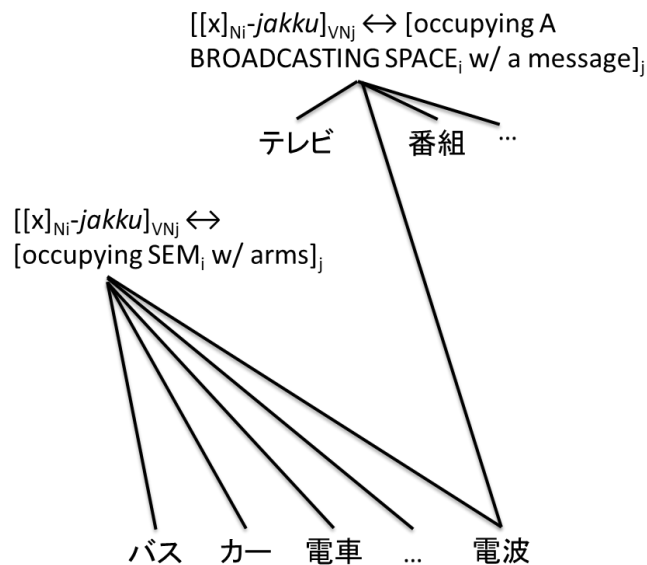


図 4.6 「電波ジャック」の最初の意味拡張により生じた親ノードの[x-jakku]（＜宣伝で電波<sub>i</sub>を占有する＞）の構文ネットワーク

以降では、「電波ジャック」の例と他の形式の「テレビジャック」、「メディアジャック」、「番組ジャック」などをより詳しく考察する。まず政治に関する例を取り上げ、次に商業的な例を取り上げる。これらの二つの例は、「電波ジャック」からのメタファー的な拡張と考えられ、具体的には「大規模に宣伝することはある場所を乗っ取ること」と定式化できる。これは図 4.7 で点線で表されている。なお、校内放送関連の用例に関しては 4.3.2.2 節で説明する誇張的用法の一つと見なすことができる。

ひとつめの政治に関連する例は、本研究では特に注目に値する。というのも、「電波ジャック」から違法な活動から合法的な活動にいかに変化したかについ

でのメカニズムの説明が与えられるからである。(42)の例を見ると、違法という意味合いをもつため、最初の「テロリスト」の構文に密接に関連している。

電波ジャック（違法）：

(42) 崩れたバベルタワーをうまく使って逃れた中華連邦の総領事館から、ディートハルトが用意していた仕掛けで電波ジャックするゼロ。(aoyama-k1.jp)

これとは対照的に、(43) — (45)のように合法的な（政治に関連する）用例も見られた。

電波ジャック（合法）：

(43) そして、こんな大きな事件が起きているときに自民党総裁選候補はニタニタ笑いながら、まともな対策も語らず「小泉劇場」型の電波ジャックで、台本どおりの出来レースを展開している。(jugem.jp)

テレビジャック（合法）：

(44) 政党再編とかの声も出ているが、またテレビジャックして三文役者による劇場型総裁選は視聴率を下げるだけでお断りである。(jugem.jp)

メディアジャック（合法）：

(45) 初会合で、鳩山氏は「自民党のメディアジャックが始まった。民主党の姿が見えなくなる」(fc2web.com)



上記に加え、あいまいな用例もある。この場合、(46)のように、その活動が合法か違法かが不明である。

(46) これは日本の政治家にも言える事だ。こんな日本が嫌ならもう自衛隊によるメディアジャックしか道はないな。(muzestyle.com)

これらの用例は、「日本の政治」という拡張を可能にする文脈 (enabling context) を想定する動機となっている。話者/作者の意図に関係なく、上記の文は違法行為または法的行為のどちらにも解釈されうる。これは、合法性そのものに関連する意味的变化が政治フレームに基づいているからだと思われる。結局のところ、合法か違法かを実際に決定するのは政治家自身であり、合法性の判断は時と場合によって変わりうるため、このような知識は政治フレームに含まれている。この《Japanese\_politics》(《日本の政治》) フレームは、図 4.7 の親ノード ([[X]<sub>Ni-jaku</sub>]<sub>VNj</sub> ↔ [occupying A BROADCASTING SPACE<sub>i</sub> w/ a message]<sub>j</sub>) に由来する特定の用例の解釈を動機づけるものとして説明され、「メディア」と「電波」がその代表的な例である。政治の例のほかでは、同じようなあいまい性を示す例、すなわち、あるフレームの知識に由来し合法と違法の両方の状況を表すというような例というのはコーパスデータでは観察されなかった。

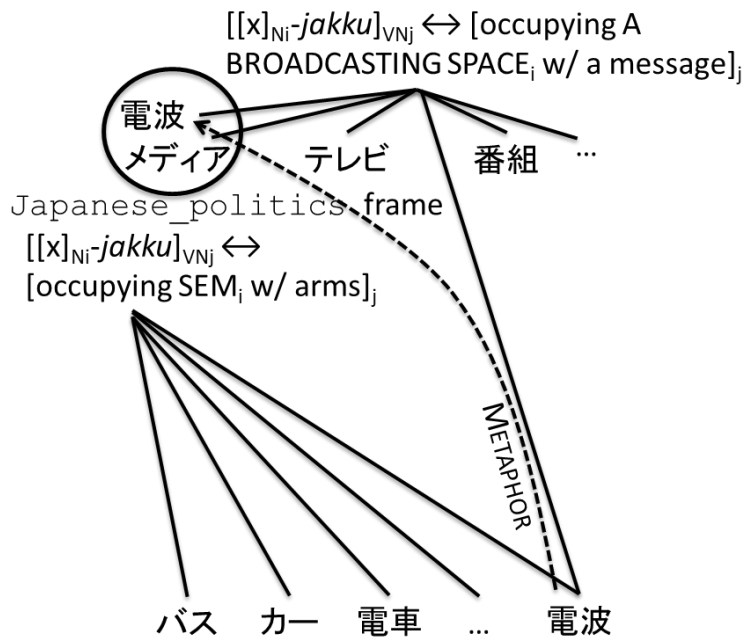


図 4.7 親ノードの具体例として表されている《Japanese\_politics》（《日本の政治》）フレームの [x-jakku]構文と「電波」からのメタファー的意味拡張

次に扱うのは、商業に関連する用例である。これらは今論じている親ノードに関連するもう1つの活動である。(47) — (50) の例は (35) — (38) の用例に密接に対応しているといえる(特に(37)と(38))。その違いは、(37)と(38)のフレーム要素がこれらの文で形式的に指定されているということである。

(47) 17日に放送された「MR. BRAINナビ」2時間もの番宣番組、TBSレギュラー番組にもゲスト出演多数、放送当日も番組ジャックで早朝から一日中「MR. BRAIN」一色の予定。(zippo-land-g.com)

(48) あれだけ広告して、あれだけメディアジャックばりの放送時間でつかんだのはごく一部の暇な主婦。(nanyaro.net)

(49) 金曜はテレビジャックだったので、朝からいろんな番組に出演。(fc2.com)

(50) そういえば、今日は朝からしずくんが再び日テレジャックするみたいですね私はHDDの関係で、まともや一番組も見れない勢いですが(いい加減ドバツと整理しないと。(fc2.com)

これらの例は、図 4.8 で独自のサブノード「[...]VNj ↔ [occupying AN ADVERTISEMENT SPACE<sub>i</sub> w/ ads]<sub>j</sub>」 <広告で広告スペースを占有する>を構成するものとして表されている。

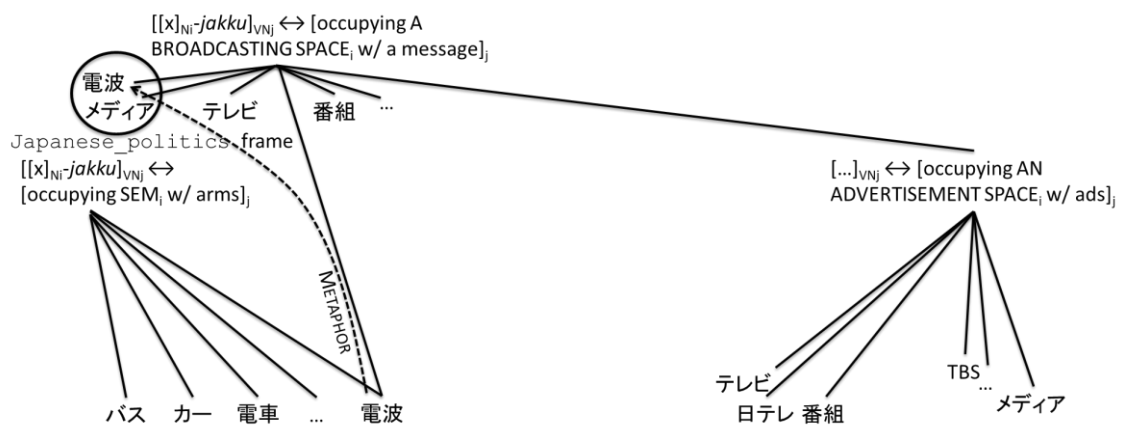


図 4.8 [...]VNj ↔ [occupying AN ADVERTISEMENT SPACE<sub>i</sub> w/ ads]<sub>j</sub> というサブノードを追加した[x-jakku]の構文のネットワーク

<広告スペースを占有する>と定義される拡張義は、無線放送だけでなく、日本の電車などの広告スペースにも当てはまる。これには、日本では(通勤)電車がいたるところにあり、それらがよく広告で埋め尽くされているという経験的な動機づけが存在する。この電車や駅が広告で埋め尽くされるという状況は、(51) — (54) のように「電車ジャック」、「駅ジャック」、「中ぶりジャック」、「トレインジャック」など、さまざまな方法で呼称される。

- (51) 「あたしも自分の写真で電車ジャックしたいぞ」と思う。(astro459.com)
- (52) さらに J R 博多駅では大型ポスターを 8 面に掲示する「駅ジャック」も計画している。(jugem.jp)
- (53) J R 東日本（山手線と一部の路線を除く）各線＝合計 300 車両の「女性専用車両」に中ぶりジャックで 1 週間掲出。フルボリューム&長期間で、女性に向け広告投下します。(mediaclip.jp)
- (54) 駅と言えは、各種看板、トレインジャック、中吊りなどが主な物だが、キオスクをそのままジャックするという発想は初めてだろう。(doorblog.jp)

電車内での広告スペースの占有は、他の広告スペースと同様に、単なる広告スペースの占有の一例として理解されており、Hamlitsch and Horie (2017) で提示されている仮説と比べはるかに節約的・経済的な説明である。同論文では、「日本の電車の意味フレームに関連しているメタファー的およびメトニミー的拡張の両方」を仮定したが、今回の分析でメタファー的拡張は不必要になった。とはいえ、電車に関する文脈は本議論にとっても非常に重要である。電車の中で広告を埋め尽くすことは特別な注意を払うに値するため、ここでこれについて述べておきたい。まず、構文ネットワークでこれらの電車の広告スペースの例を示そう（図 4.9）。

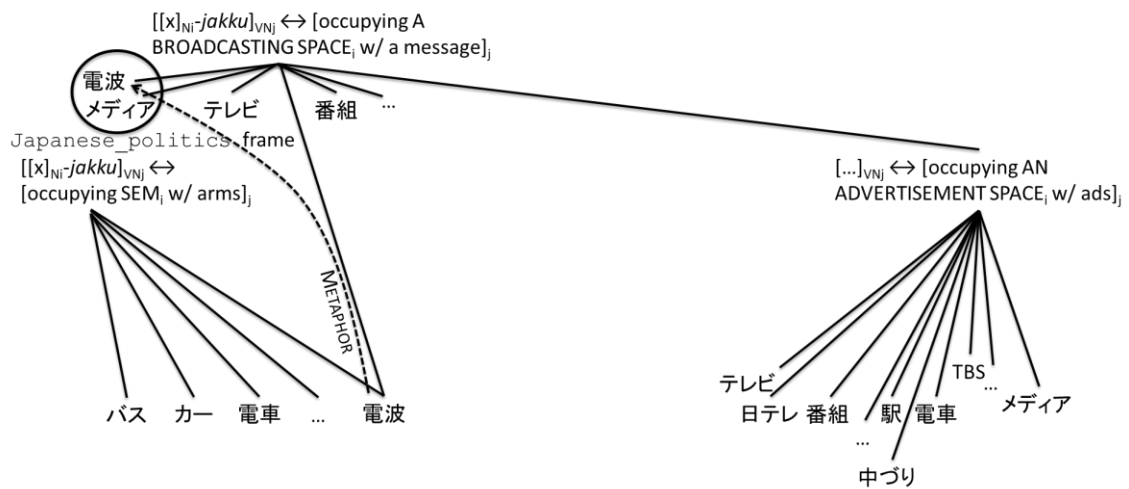


図 4.9 [...]VNj ↔ [occupying AN ADVERTISEMENT SPACEi w/ ads]j というサブノードに電車関連の要素の追加した[x-jakku]の構文ネットワーク

電車の例に特有なのは、それらは広告スペースと道具（広告、ポスターなど）との交替（alternation）を許すように見えるのに対し、同一ノード上にある他の例はそのような交替は許さないということである。この関係については、図 4.10 で交替可能な構文を灰色で表し、電車とこの灰色のノード間の交替の範列的關係を「≈」記号で表している。

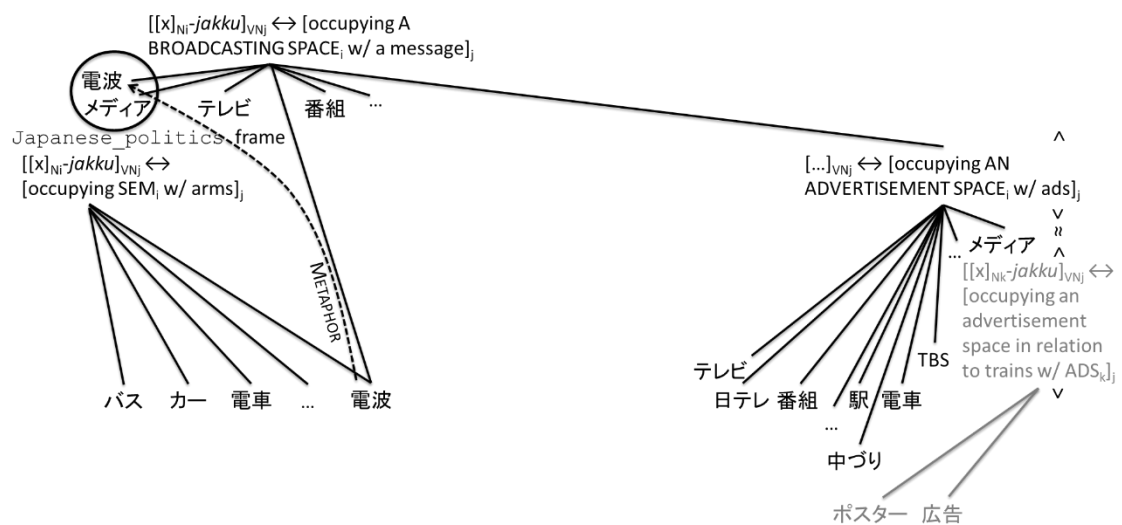


図 4.10 範列的に交替する「広告」ノード（灰色で表された部分）を追加した[x-jakku]構文ネットワーク

この交替は明らかにメトニミー的なものであり、《Japanese\_train》（《日本の電車》）の意味的フレーム内で生じたものであると考えられる。実際、(51) — (54) で形式的に指定された[x]要素は、ポスターや広告に置き換えることができる（例：「電車ジャック ≈ 広告ジャック」；「駅ジャック ≈ ポスタージャック」）。逆に、(55) — (56) の広告の例はいずれも電車と交替できる（「広告ジャック ≈ 中ぶりジャック」；「ポスタージャック ≈ 地下鉄ジャック」）。

(55) まあ山の手線のほとんどの駅で広告ジャックしておいてそのへんの空気アニメとあんま変わらない売上だったからなあ伊藤P調子に乗り過ぎだったしこれで反省してくれれば今後は期待してやってもいい (yaraon.net)

(56) また、開催を記念して11月21日(月)から京急線の8両1編成を、香港の情報でポスタージャックしたイベント電車を運行し、香港の観光情報やキャンペーンのPRを行います。(nichigopress.jp)

この関係は図 4.11 のように表すことができる。ここでは、《日本の電車》フレームは代表的なフレーム要素を囲む円として表されている。

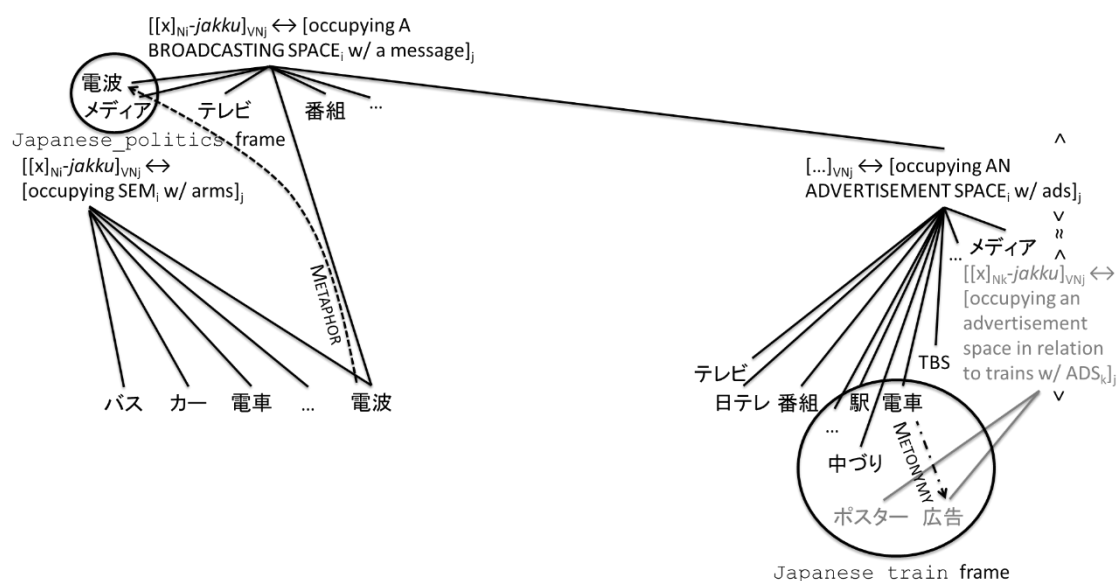


図 4.11 代表的なフレーム要素を囲んでいる《Japanese\_train》（《日本の電車》）フレーム（図中の円）と、点線の矢印で表される視覚化されたメトニミー的拡張を含めた[x-jakku]の構文ネットワーク

これらのようなコンテキストが豊富な例以外においても、「広告ジャック」は単にそれに言及するだけで、文脈がなくとも電車が広告で埋め尽くされたイメージが喚起されうる。これはこのフレームの存在を示す強力な証拠でもあるといえる。Fillmore がフレームの説明で指摘しているように「そのような構造に関するものがテキストまたは会話に導入されると、その他の関連物すべてが自動的に利用可能になる」（Fillmore 1982: 111）。上記の例には Fillmore が述べていることが明確に当てはまる。つまり、「広告ジャック」に言及すれば、「電車ジャック」を想像し、その逆も同様なのである。

本節では、「電波ジャック」を中心とした主要な意味拡張の事例を紹介した。「電波ジャック」が多義的であること、および jaTenTen11 コーパス内の「電波ジャック」の延べ語数が他の追随を許さないという事実を考えると、この意味拡

張は結論Ⅱのようにまとめられる。これは Booij (2010: 78) の指摘に沿うものである。

Ⅱ. [x-jakku]構文の意味拡張は、「電波ジャック」の意味の変化を介して生じた。

この結論は、本節で提示されたデータを考えると十分に裏付けられているといえる。この主張のさらなる議論は 4.4 節で取り上げる。しかし、その議論の前に、次の節では、[x-jakku]の構文ネットワークの最後のノードである「誇張的用法」について取り上げる。

#### 4.3.2.2 [x-jakku]の誇張的拡張

[x-jakku]の構文ネットワークの最後の意味拡張は、パイロットスタディーと本分析によって明らかになったものである。これらは、(57) — (60) に示されているような誇張的 (hyperbolic) 用法である。これらの例は 4.2 節で紹介したデータセットからのものではあるが、そのパイロット分析ではこれらの例を処理する良い方法はなく、商業的な活動に関する例の中に含めていた。ただし、ここで説明するように、それらを個別に処理することには、理論的および実用的な理由がある。ここで紹介する分析は、以前のものと比べ、より優れた説明力があるものとして提示する。

#### (57) “迷犬ラッシュ” JR相模線 電車ジャック

十一日午前七時半ごろ、神奈川県海老名市の JR 相模線海老名駅で、橋本発茅ヶ崎行き上り普通電車（四両編成）二号車に体長一メートルの犬が乗り込んできた。乗務員が降ろそうと近づいたところ、興奮してほえたてたため約



三十人の乗客が別の車両に退避。(1996, 中日)

(58) とうとう、タケシたちは、ろうかへにげだした。「黒へビの教室ジャックだ」  
みんなが、青ざめた。(2003, BCCWJ)

(59) モデルたちが電車ジャック? 東京と大阪に拠点を置くデザイナー養成学校  
が十二日午後、J R 山手線の車両を借り切り、ファッションショーを開いた  
(2000, 朝日)

(60) 園児全員招待なんて、子ども以上にママ集団が披露宴ジャックをするので、  
呼ぶのはやめていただきたいものです。((「幼稚園先生の結婚式に呼ばれな  
かった娘」のまとめ-分析小町)

これらの例は高いレベルの創造性を示している。これらの例を説明するため  
に、Croft and Cruse (2004) が取り上げている「hyperbole (誇張)」の概念を援  
用する。彼らは(61)を、「同様のスケールの異なる値 (different values on same  
scale)」というメトニミーの一種として記述している。

(61) It's practically absolute zero in here - Shut the window! (ここはほとんど絶対零  
度だ。窓を閉じてください!) 訳: 著者

本研究では、この概念を援用し、一方の[x-jakku]構文が完全に危険で、もう一  
方が完全に安全であるという、「危険性」の連続体を想定する。(57) — (60)  
では、これらの例のいずれも、図 4.4 の例と違い、危険とは言えない。犬がやっ

たこと (57)、またはへビがやったこと (58) が「ほぼ犯罪的」であるというこれらの誇張的な用法は、これらの「犯人」がもたらす喜劇的效果を生じさせる。

(59) と (60) でも同様の喜劇的效果が感じられる。たとえば、(60) では、母親の会話の騒音レベルは、結婚式のパーティーで他の何人かのゲストにより武器に例えられている。これは明らかに冗談を言うためのものである。jaTenTen11 コーパスにもそのような例が多くあり、そのいくつかを (62) — (65) にあげる。

(62) 虫がダメで仕方ないのですが、8月入ってからでかい蛾に部屋ジャックされたりトイレで黒い悪魔と遭遇しました。本当にダメです虫 (skr.jp)

(63) それから1年後に”ガックリ・・・”突然のダウンでした。でも時間は掛かりますから、徐々に良くなりますよ。ただ周りは今も大変だと思います。布団ジャックしていた頃からすればマシにはなりましたが、時折イライラがやってきます。人には暴力は振りませんが、色んな物を壊しました・・・僕は薬を減量するとボーっとして、イライラ錯乱になるんです。(fc2.com)

(64) 山・・・山は確かに電波ジャックするよ！ (fc2.com)

(65) 耳だって鼻だって噛まれちゃうしね！PSPやってたら膝の上に乗ってきて私の視界ジャックするしね！（あ、ちょ、やめて今ボス戦...！）(staba.jp)

これらの例は、その高い創造性のレベルと、それらが喜劇的效果を生じさせるという点で、前節で提示された「電波ジャック」を介した意味拡張の用例とは根本

的に異なっていると考えられる。したがって、図 4.12 に示すように、これらは別のノードの存在を動機付ける要因となる。

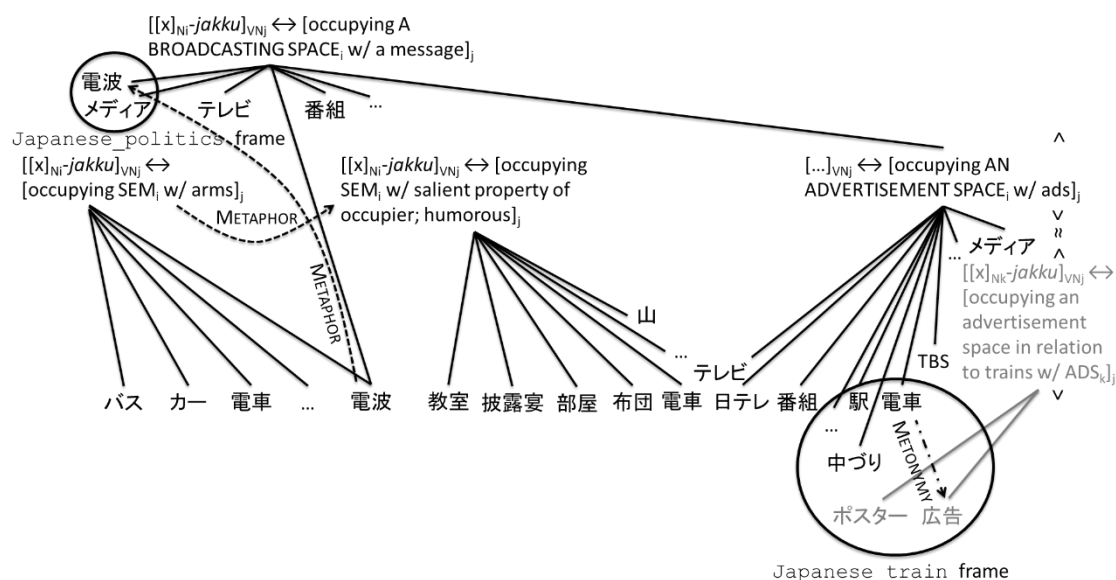


図 4.12  $[occupying SEM_i w/ salient property of occupier; humorous]_j$  < 占領者の顕著な特性とともに SEM<sub>i</sub> (どこか) を誇張的に占有すること ; ユーモラス > というノードにおいて、 $[occupying SEM_i w/ arms]_j$  の元の意味から誇張の意味への拡張を含んだ  $[x-jaku]$  の構文ネットワーク

さらに、Croft and Cruse (2004) は誇張的用法を一種のメトニミーと呼ぶが、本研究ではこの拡張をメタファー的なものとして取り扱う。なぜなら、この構文上の構造では、同じドメイン内ではなくドメイン間のマッピング (《迷惑行為は襲うことである》) を構成しているからである。

この誇張的用法に関するノードの例は、意味的に  $[occupying SEM_i w/ salient property of occupier; humorous]_j$  < 占領者の顕著な特性とともに SEM<sub>i</sub> (どこか) を誇張的に占有すること ; ユーモラス > のように指定されている。(57) — (60) および (62) — (65) においては、 $[x]$  が表すものの百科事典的な知識を理解しな

ければならない。(57)では、野生の犬の大きな特性は、彼らが大声で吠え、予測不能であり、しかも挑発されると噛む可能性があるということであろう。同様に、(58)ではヘビ(およびその毒液)、および(60)では話し手の虫に対する恐怖により、これらの文が成立している。

(59)では、モデルがファッションショーを行うために長く狭いランウェイを必要とすることがわかっているため、この知識を電車の知識に容易にマッピングできる。(60)の話者は結婚式のパーティーで母親のグループについてユーモアを含めつつ不平を述べており、子供たちから発生するノイズよりもさらに大きなおしゃべりでパーティーをいわば「乗っ取っている」ため、特に面白い例だと思われる。(63)では、話し手が構文を非常に創造的な形で用いており、布団の上に常に横たわっていることを示している。(64)は同様に、山が携帯電話の信号をブロックしているような例である。巨大で電波などが通り抜けることができない自然物である山は、自然の障害物であり、携帯電話の信号が悪くなる典型的な原因である。(65)では、話者は猫(?)が視界を遮ってテレビゲームの邪魔になることについて話している。猫と交流している人なら誰でも、猫がひざの上に乗ってきて視界を遮るのが好きなことを理解しているであろう。彼らは人間の感情を気にしないため、猫が邪魔するのを止めることは難しい。

興味深いことに、このノードには(66) — (67)に例示されているように、独自の交替を見せるものがあるようである。

(66) 凡にプレゼントが羊毛フェルトのマスコットお前らがアニメ舞台の聖地で金落とすから、立川も『禁書目録』でオタク誘致作戦に乗り出したぞ MHP3rd 体験版をサーチ 2 バレー部部室更新情報 10/21 僕は友達が少ない (1) ドッチの「似てる」の方が似てる?フォーミュラ・ニッポン第6戦~10月16日

(土) 24日は秋葉をコスプレジャック! (satukiripple.com)

(67) 何でも着物ジャックは日本国中に広がって、若い人も多いたか。(bioeco-  
solution.co.jp)

これらの交替は、[x-jaku]の構文ネットワークの最終形である図 4.13 に、灰色で表されている。

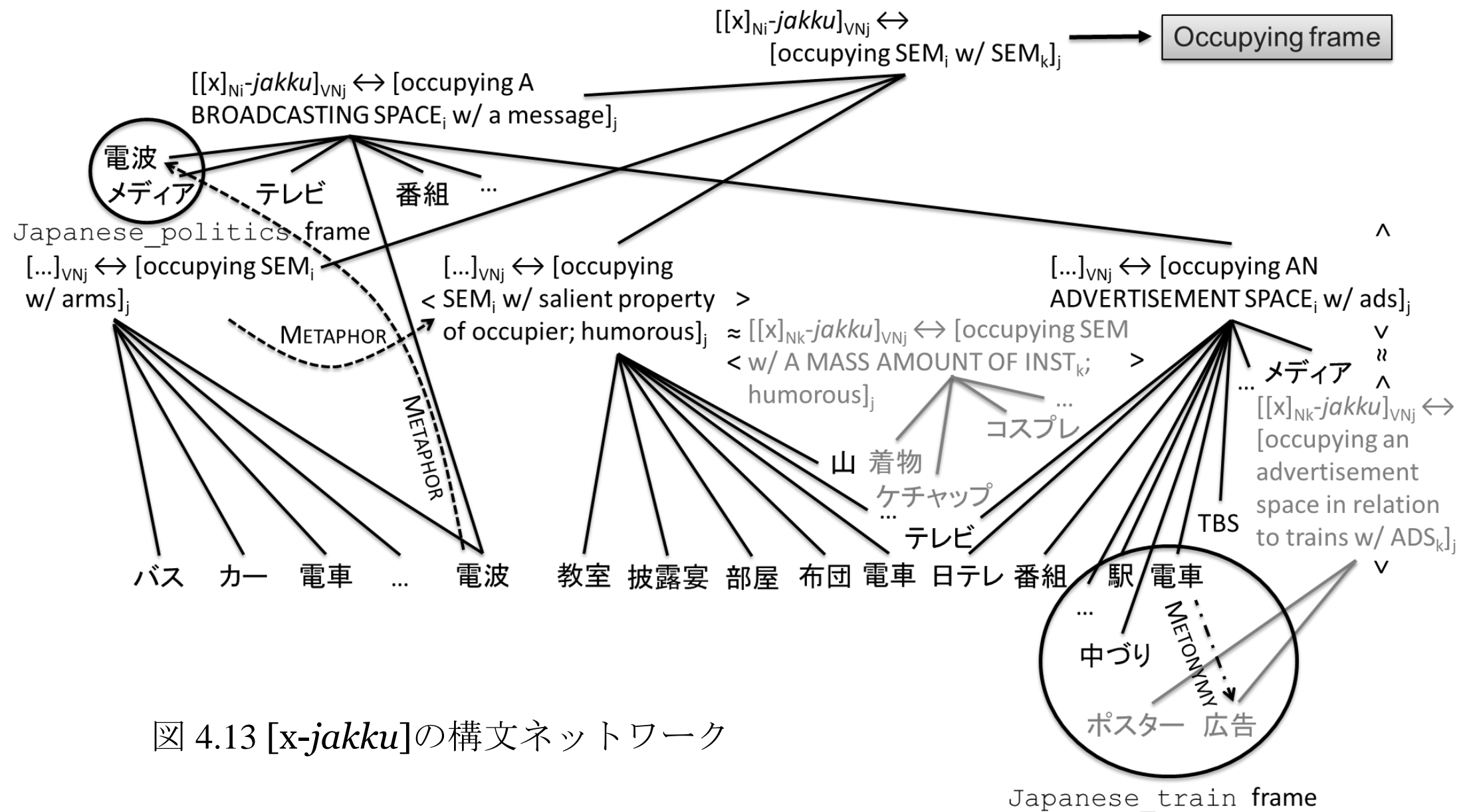


図 4.13 [x-jakku]の構文ネットワーク

(66) では「コスプレ」は「秋葉」に、(67) では「着物」は例えば「日本」と交替できる。ただし、(57) — (60)、および(62) — (65) などの例、つまり占有者の顕著な特性が明確な例においては交替できないということには注意すべきである。これは、占有者の特性が、[x-jakku]構文のこれらの用例の理解の基礎となるフレームにおけるフレーム要素の1つとして含まれるものと広く了解されているわけではなく、占有者に固有の百科事典的知識の一部であるためである。これらの2つのタイプの対比は、以下に再掲する(62)と(68)において明確である。両者では、どちらも「部屋」が形式的に指定された要素となっている。

(62) 虫がダメで仕方ないのですが、8月入ってからでかい蛾に部屋ジャックされたりトイレで黒い悪魔と遭遇しました。本当にダメです虫 (skr.jp)

(68) ラリー台紙の QR コードから、キムスネイクオリジナルのケチャップファミリーの携帯待受が無料でダウンロードできます(静止画2点、動画1点)  
【同時実施中:「逆さケチャップでお部屋ジャック」概要9月14日~11月末予定】 ●逆さケチャップがインテリアグッズに! (eventnewspr.com)

(62) において、蛾(または一般的な虫)の(人間との関係において特に人間が感じるものとしての)顕著な特性は、それらが迷惑なように飛び回ることであり、たとえ彼らが刺したり噛んだりしなくても、少なくとも体に降りかかったりすることは誰にも好ましくないであろう。(62)の話し手は、おそらく他の人よりも虫を恐れているようであるが、虫についての知識をふまえれば、話し手の観

点から状況を簡単に理解できる。これとは対照的に、(68)のケチャップは占領を行う道具であり、この場合、大量のケチャップボトルが逆さまになって部屋を埋めつくし、おそらく何らかの方法で一種の室内装飾として壁を覆っていると想像できる。このノードは、道具を形式に指定し、意味的には「occupying SEM w/ A MASS AMOUNT OF INST; humorous」＜大量の「道具」でSEM（どこか）を占有する；ユーモラス＞として指定されている。<sup>40</sup>ここで重要な点は、この道具となるものは膨大な数があると理解されることであり、(68)ではこれはケチャップボトルである。また、場所と道具が交替した例として、(69)の例が実際に jaTenTen コーパスで観察された。

(69)そのメインイベントとなる目黒通りインテリアショップ街 (MISC) 26 店舗を逆さケチャップ 1500 本で赤く染める“逆さケチャップジャック”がスタートしました。(fc2.com)

同様に、(66)では大量のコスプレ衣装、(67)では多数の着物である。さらに興味深いのは、4.2.2.1 節の (2') に示したように、「電車ジャック」が電車の違法な乗っ取りを意味する場合は、「\*ピストルジャック」のように道具と交替できないことに注意されたい。

\* (2) 「犯人たちは、今度のピストルジャックを、楽しんでいるんじゃないかと思っただんです」と、早苗はいった。(2004, BCCWJ)

---

<sup>40</sup>「広告ジャック」などはユーモラスという語用論的なニュアンスがそれほどはっきりとはしないため、他の点も含めて 4.3.2.1 節で別に取り扱った。



ただし、たとえば、水鉄砲を使用して公園で遊んでいる子供たちのような状況で解釈した場合、(2') は作例ではあるが自然な例になる。(2'') のように、この文の解釈は「occupying SEM w/ A MASS AMOUNT OF INST; humorous」＜大量の「道具」で SEM（どこか）を占有する；ユーモラス＞に強制される。具体的には、これは子供たちがユーモラスに水鉄砲で公園を占領することを意味する。

(2'') 「子供たちは、公園の水鉄砲ジャックで、楽しんでいるんじゃないかと思っ  
たんです」

最後に、図 4.13 で[x-jakku]の構文ネットワークに親ノード (occupying SEM<sub>i</sub> w/ SEM<sub>k</sub>＜SEM（どこか）を SEM（どこか）で占有する＞) を含めた。本節では、[x-jakku]構文の意味拡張が「電波ジャック」の意味の変化を介して生じたため、「電波ジャック」は構文のネットワークの拡張において重要な役割を果たしたという仮説を提示した。この仮説はデータによって裏付けられていると思われる。さらに、借用された語の元の「違法なテロリスト」の意味からメタファー的に拡張する[x-jakku]の誇張的用法についても議論した。

#### 4.4 [x-jakku]の構文ネットワークの考察とフレーム意味論

Hamlitsch and Horie (2017) のパイロットスタディーでは、[x-jakku]が《日本の電車》の意味的フレーム内でメタファー的およびメトニミー的な拡張の両方を行うという仮説を立てた。そして《日本の電車》フレームはがメタファー的およびメトニミー的な意味拡張を通じ、2つの主要な分岐を仲介すると仮定した。この仮説は I のように定式化した。

- I. [x-jakku]は日本の電車の意味フレームに基づき、メタファーに基づく意味拡張およびメトニミーに基づく意味拡張の両方が生じた。

次に、jaTenTen11 コーパスから収集および分析されたより大きなデータセットに基づき、この仮説はIIに置き換えられた。

- II. [x-jakku]構文の意味拡張は、「電波ジャック」の意味の変更を介して生じた。

また、もともと違法なテロリストに関する借用の用法から直接派生した別の誇張的用法を提案した。これは仮説として定式化されていないが、データ分析の前に予測したものではなかったため、4.3.2.2節でこの用法を詳しく説明した。

仮説Iは、より大きなデータセットに基づく支持されていないようであるが、手元のデータで考えると妥当な推測であったと言える。仮説Iは提案IIに置き換えられたが、《日本の電車》フレームは、より大きな[x-jakku]の構文ネットワークにおいて、依然として重要かつ興味深い位置にある。つまり、それは「広告ジャック」と排他的な範列的なメトニミー的關係を持ち、また「ポスター」に関連するかなりの数の例にも交替できる。これに加え、頻繁に[x]として用いられるものに、電車に関連する多くのフレーム要素がある。図4.13の例示レベルは、構文ネットワークの最下位レベルの代表的なフレーム要素を例示している。ただし、スペースの制限により、すべての例を表すことはできず、代わりに省略記号(「…」)として表示されている。これらには、前に例示した「電車ジャック」、「駅ジャック」、「中づりジャック」、「トレインジャック」の他に、「車両ジャック」、「車内ジャック」、などがある。これらの用例に加え、特定の駅名も多く使用さ

れていた。これがさまざまな場所の様子を表すのに使用されていることを示すために、以下の (70) — (72) の例をあげる。

(70) JR 名古屋駅の中央コンコースイベントスペースにて、2010 年 6 月 25 日から 27 日の 3 日間、名古屋駅ジャック「大学情報ステーションナゴヤ」を開催。(shinken-ad.co.jp)

(71) 原作力 30 万、新宿駅ジャックまでして放送前は 5 万とか言われてた作品が 1 万いかないじゃ、期待外れにも程がある。(meijigakuin.ac.jp)

(72) イメージキャラクターとして 2007 年冬以来連続起用の南明奈さんの大型ポスターで、秋葉原駅ジャックを中心に J R 主要 13 駅に掲出し告知を行っている。(e-know.jp)

興味深いことに、「列車ジャック」、「汽車ジャック」、「新幹線ジャック」は、テロリストによる乗っ取りの意味でのみ使用されていた。しかし、これらの例のほとんどが、映画、ドラマ、または物語に関するものである。これらの種類の列車には(あたり一面に張り巡らされているような多くの) 広告がないため、これは本分析と期待通り一致している。しかし (73) のように、トム・クルーズを含む「新幹線ジャック」の誇張的用例が 2 例観察された。

(73) 米人気俳優トム・クルーズ (43) が“新幹線ジャック”する。今月中旬に行う主演映画「M : i : 3」(監督 J・J・エイブラムス、7月8日公開) の来日キャンペーンで、東海道新幹線「のぞみ」を借り切り、ファン 150 人

を招待。特別ダイヤで東京から新大阪まで運行し、車内で交流する前代未聞の“ミッション”を遂行することが決まった。“M : i : 3号”が走るのは、今月21日。(fc2.com)

トム・クルーズに関する現実世界の知識と(73)の状況を説明すると、彼はこの表された場面で犯罪を犯しているのではなく、新幹線に乗り150人のファンを誘い、彼が主演する映画を宣伝するという目的で参加しているということが明らかである。この用法は、前述の「広告ジャック」の用法のように宣伝活動を表してはいるものの、誇張的な響き((59)のモデルたちの例に似ている)を伴っており、図4.13ではその違いが明確に区別されている。

さらに、この意味拡張は、意味的フレーミングの概念につながる、電車が遍在し広告で満たされている日本社会に大きく依存していると考えられる。

本研究との関連でいうと、通勤電車が日本社会で重要な役割を果たしており、日常的に車内の空間に広告が掲載されることが、この意味拡張を促進することの動機づけとなっていると考えられる。

本分析では、一般的なフレームは図4.13に示すノードで定義され、各ノードの下に代表的なフレーム要素が表示され、文化的なフレームはそのフレーム要素を囲む円で示されている。この理論的枠組みにより、(51) — (54)などの文の「広告」を「電車」に、または逆に(55) — (56)の「電車」を「ポスター」に置き換えることができることを簡潔に説明できる。それらのいずれかが口頭または書面で紹介されると、他の要素が利用可能であることが自動的に理解される。これは、以前に紹介した範列的な関係である。「電車」という単語が文に含まれていなくても、「電車ジャック」のようなものを想起し、「広告」を「電車」に置き換えることができる。繰り返しになるが、これは言語の非常に経験的

な性質に関連している。また、Fillmore (1982) はこれについて、「意味を担う要素[...]は、人間の経験と人間の慣習に根差しているというこの理由によってのみ存在している」 (p. 135) と論じている<sup>41</sup>。[x-jakku]のこの種の意味拡張は、たとえば、公共交通機関の一形態としての電車が少なく、日本で見られるような広告で満たされているという状況がない米国ではほとんど不可能だと言える。この新奇的な用法の創出は日本の社会と文化に依存しているということである。

ここで議論している「電車ジャック」の場合の重要な文化的動機付けは、日本、日本人、そして彼らの社会における電車の文化的重要性、ということになる。さらに、企業がすべての広告スペースを簡単に予約し、独自の広告だけでそれを独占できるシステムがある。西鉄メディア<sup>42</sup>などの広告会社は、会社が電車（および／または駅）全体に広告を埋め尽くすということを簡単にできるようにしている。このシステムが存在するのは、日本では電車がいたるところにあり、広告であふれていて、広告会社が広告で広告スペース全体を（多額の価格で）占有することができるというサービスを提供しているためである。したがって、この分析を考えると、仮説 I を完全に棄却するのではなく、提案Ⅲとして修正するのが良いと思われる。

III. [x-jakku]の構文の意味拡張は、日本の電車のフレームに関連したメトニミー的拡張の下で発生した。

これは、元の仮説の一部を生かすべく改善を施した修正提案である。したがって、本節では、提案Ⅱおよび提案Ⅲとして暫定的な結論を導く。ただし、この構

---

<sup>41</sup> “I have argued for a view of the description of meaning-bearing elements in a language according to which words (etc.) come into being only for a reason, **that reason being anchored in human experiences and human institutions**” (Fillmore 1982: 135)

<sup>42</sup> 出典： <http://www.nishitetsu-media.com/traffic/train/train.php>

文が今後日本語で使用され続けられれば、これらの提案を再び微修正する必要が出てくると思われる。この構文は、日本語母語話者にとって有用である限り変容しつつ継続して使用されるが、有用性が低下すれば廃用される可能性もある。

#### 4.5 結論

本章では、[x-jakku]の構文ネットワークを提示した。[x-jakku]構文の意味拡張は、「電波ジャック」の意味変化を介して行われ、したがって、「電波ジャック」は構文ネットワークで重要な役割を果たしていることを主張した。特に、「電波ジャック」は、政治的なメッセージの流布を目的とした乗っ取りから商業的な宣伝の意味での乗っ取りを意味するように拡大し、校内放送を乗っ取るなどのそれほど顕著ではない文脈にも用いられた。政治的な文脈での当該の構文の使用は、違法から合法への意味拡張を可能にする重要な文脈であったと論じた。次に、[x-jakku]構文の意味拡張が、日本の電車の文化的フレームに関連したメトニミーに動機づけられて生じたことを示した。最後に、もう一つの、非常に創造的な、誇張的（喜劇的）テロリストの意味合いが、＜武器で SEM（何か）を占領する＞（occupying SEM w/ arms）という元の意味から直接拡張したことを論じた。

## 第5章

### [x-rosu]の事例研究<sup>43</sup>

本章では、[x-rosu]構文のネットワークについてのコーパス調査と分析を示す。<sup>44</sup>

本章で収集された用例は、可能な限りコーパスから集めたものであるが、一部 Google 検索から収集したものも含まれている。その場合には用例の後ろに「出典:○○」と示す。コーパスからは期待したほど多くの用例を収集できなかった。これは次の2つの理由によると考えられる。

---

<sup>43</sup> 本章の一部の以前のバージョンは2019年8月6~11日、兵庫（日本）で開催された国際認知言語会議学会（ICLC-15）で発表され、その後 Hamlitsch（2020）として出版された。

<sup>44</sup> 本研究の契機となったのは、筆者が数年前にテレビ等のニュース報道で歌手・俳優の福山雅治氏に関する「福山ロス」という表現を耳にしたことである。福山氏は亡くなった（loss）わけではなく祝福すべき結婚をしたということであったため、筆者にはこの「ロス」が何を意味しているかすぐには理解できなかった。母語話者に尋ねたところ、福山氏のファンが彼を「失った」（loss）ことへの嘆きを表していることを知って「x-rosu」構文に関心を持つようになった。

1) [x-rosu]構文による表現は比較的新しい（過去数年以内にできた）が、コーパスに収録されているデータは10年以上前のものである。

2) [x-rosu]構文の多くの例は、マスコミなどで発生する特定の文化現象（例：朝のNHKの人気連続ドラマ）と並行して使用される。したがって、集中的な報道が終了すると、[x-rosu]構文の例はそれとともにすたれる。

これらの事情を念頭に置いて、[x-rosu]構文の分析を行う。5.1節では、[x-rosu]構文の起源について簡潔に説明する。5.2節では、データ収集の方法を紹介する。5.3節ではデータの分析を示す。最後に、考察（5.4節）と結論（5.5節）を示す。

## 5.1 ペットロスと[x-rosu]構文の起源

「ロス」がいつ日本語に借用されたのかは正確には特定しにくいですが、『日本国語大辞典』によると、「失うこと」の意味で唯一挙げられている例として「ペットロス」（以下2）がある。

「ロス」

1 むだに費やすこと。損失。「—を減らす」「時間を—する」（1914）<sup>45</sup>

2 失うこと。喪失。「ペット—」

（出典：“ロス”，『日本大百科全書』（ニッポニカ）（2018-11-05 閲覧））

また、同辞典で「ペットロス」を引くと以下の定義があげられている。

---

<sup>45</sup> 本研究では、定義1でのタイプの「ロス」は取り扱わない（例：読売新聞, 27面, 2019.12.29「食品ロスを思う年末（中略）まだ食べられるのに捨てられる「食品ロス」を減らす取り組みが、少しずつ進んでいる。（中略）食品ロスの4割以上は家庭から。買いすぎない、作りすぎないなど一人一人にできることはたくさんある。」）。



## ペット - ロス 【pet loss】

長年かわいがってきたペットの死が原因でショック症状に陥ること。食欲不振や鬱（うつ）状態になったり、自殺を考える例もあるとされる。

（出典："ペット・ロス", 『日本大百科全書』（ニッポニカ）（2018-11-05 閲覧））

さらに、(1) のように、「ペットロス」はNLTで見つかった、本構文の唯一の例であった。

- (1) 最近はっきり気が付いたんだけど、プーちゃんが逝ってしまってから随分と長い間、私はペットロスだったみたい。（Web マガジン幻冬舎）

したがって、「ロス」はおそらく複合語「ペットロス」として直接借用され、[x-jakku]（ハイジャック）による再分析に類似した過程を経ただろうと想定される。実際に、1997年に出版された *Pet Loss: A Spiritual Guide by Eleanor Harris* という本の邦訳が2006年に出版されている。この日本語版では、タイトルに「ペットロス」という借用語をそのまま使用している。「x-rosu」構文はこのような書籍から日本語に借用されたことがきっかけになった可能性がある。次節では、データ収集の方法と研究の分析（5.3節）を説明する。最後に、5.4節で文化的フレームワークを中心に議論し、5.5節で結論を示す。

### 5.2 [x-rosu] のデータ収集の方法

BCCWJを使用して、データの初期収集を実行した。形態素「ロス」の検索は、BCCWJ オンライン検索エンジンを用いて行われ、40件のヒットを得た。次にこれを、「パターンの頻度順」設定で見つかった「名詞+ロス」パターンに絞り込

んだ。これにより、27 個のトークン（延べ語数）と 9 個のタイプ（異なり語数）が抽出された。しかし、本研究で対象とする意味のパターンはなく、代わりに (2) の上記の定義 1 に関連している用例だけが見られた。

(2) しかし、やや寒い場所で生活していた人たちは、凍傷防止、および放熱ロスを少なくするためにやや小さくなります。(2005, BCCWJ)

このように、BCCWJ コーパスから活用できるデータはなかった。したがって、同検索を NLT コーパスでも実行した。形態素「ロス」の検索により 1,226 件のヒットが得られ、これを「パターンの頻度順」設定で見つかった「名詞+ロス」パターンに絞り込んだ。これにより、678 個のトークン（延べ語数）と 123 個のタイプ（異なり語数）が抽出された。これでも、たった 2 つの延べ語（例 (1) と (3)）をもった 1 つの異なり語「ペットロス」のみが観察された。

(3) そして、実際に私自身も過去にペットロスであったということにも気づきました。(出典不明, NLT)

次いで、jaTenTen11 (Kilgarriff et al. 2004, 2014) を使用し、「Sketch Engine」で検索を行った。文字列「[tag="N.\*"][word="ロス"]」を使用したコンコーダンスの「Contextual Query Language」(CQL) 高度な基準検索 (advanced criteria search) により、62,941 個の延べ語数（トークン）が収集された。これにより、3,662 個の異なり語数が抽出された。「Sketch Engine」では、最初の 1,000 個の異なり語数を表示およびダウンロードできる。エラー（「さっきロス」など）およびパター

ンに適合しない他の例（「時間ロス」など）を除外した後、12 パターンが得られた。この調査の結果は表 5.1 にまとめられている。

表 5.1 「Japanese Web 2011 corpus」 (jaTenTen11) から取得した[x-rosu]構文のパターン（延べ語数順）

異なり語	延べ語数	異なり語	延べ語数
ペットロス	1398	母親ロス	1
愛玩用動物ロス	4	孫ロス	1
飼い主ロス	3	妹尾ロス	1
猫ロス	1	和夫ロス	1
わんこロス	1	祐美ロス	1
インコロス	1	赤西ロス	1

### 5.3 [x-rosu]の構文・ネットワークの分析

ペットロスについては、図 5.1 のデータにあるように、延べ語数に相当の量があり、また辞書でも例文に使われており、さらには、少なくとも 1 冊の本のタイトルで早期に使用されているため、借用元となった語であることを示している。しかしながら、残りの「ペット」以外の例は、このように簡単には説明することはできない。したがって、これらの用例を説明する次の仮説を提案する。

- I. [x-rosu] 構文は《Japanese\_childrearing》（《日本の子育て》）および《Japanese\_marriage》（《日本の結婚》）という意味的フレームに関連するメタファーに基づいた意味拡張により生じた。

まず、「ペットロス」に関連する用例を取り上げる。ペットロスの他、(4) — (8) のようにペットに関連する、[x-rosu]構文の前部要素が「ペット」以外の表現で埋められている用例が見られた。

- (4) 思い出すと悲しくなったり遺品を片付けられなかったりといった愛玩用動物ロスは決して病気ではありません。大切な愛玩用動物を亡くしたとき、飼い主は誰でも悲しむものです。「愛玩用動物ロスを乗り越えるまでの期間は平均10ヶ月程度で在る」と聞いたことがあります。もちろん人によって長短はありますが…。(asablo.jp)
- (5) ペットロスは人間特有の、自責の念を持った悲哀ですが、動物にも飼い主ロスはあるんだろうな。忠犬ハチ公みたいにね。ヒグラシの季節になりました。命の充実、空が澄んで音も響く季節、実のなる季節。(jugem.jp)
- (6) 県南版 // 関西版特集資産価値を高く維持するマンション選びとは？茨城県住宅情報マンションズだとも知らず、そして住宅情報マンションズとは新築・分譲マンション物件の最新情報が載っている住宅情報誌です。猫ロス(二次ロス症状) 立ち向かい中ペットロス症候群は\*パリ症候群ひ\*ピーターパン症候群(病気)\*引きこもり\*被虐待児症候群へ\*ペットロス症候群め\*メンタルヘルス友の会も\*燃えつき症候 (so-net.ne.jp)
- (7) 家族に恩義を感じるザ・忠犬でしたその後M王国バリになりまして、全ての異種動物を温かく迎え入れてくれました老衰で眠るように亡くなった後、我が家に第一次わんこロス症が蔓延致しましたるみこさんは揺るぎない頂

点に君臨なさいましたが、やっぱり猫と犬は違いもありますよね当時まだ現役だった父は運動不足に陥り (dreamlog.jp)

- (8) 修理の基本料金だけで1万パーツ別途予定で泣けます。しかしXPに乗り換えてからネットがしょっちゅう切断される不具合からは解消されました。物凄い快適・・・！そしてインクロスに耐え切れず新たに飼ったコザクラインコはベタ慣れしてくれています。幸せ・・・！！ (fc2.com)

(5) の「飼い主ロス」は、所有者が死んだときに動物が感じると思われる感情を説明するために使用されているようである。その他のものは、元の「ペットロス」と意味が非常に似ている。これらの意味理解を可能にしているのは《House\_pet》（《家庭用ペット》）フレームであるが、これは図 5.1 の[x-rosu]構文のノード（接点）の代表的なフレームである。これらの例に加え、(9) のように、実際の母親の死を表す例も1例見つかった。

- (9) 私への引き継ぎをされているダンナ…。「火葬がピークでしょうな」とゴエモンへ返した私。ずっと母親思いの人だったから、義母が亡くなったらダンナは凹むだろうなあとは思っていた。母親思いであることを、マザコンという言葉で片付けちゃいけないのかも知れないけれど、世間から見たらそう言われそうなくらい、ダンナは母親に対する気持ちが強かった。ダンナの「母親ロス」は、私の想像を遥かに超えているようである。(panaderia.co.jp)

これらの例は、図 5.1 の構文でとらえることができる。

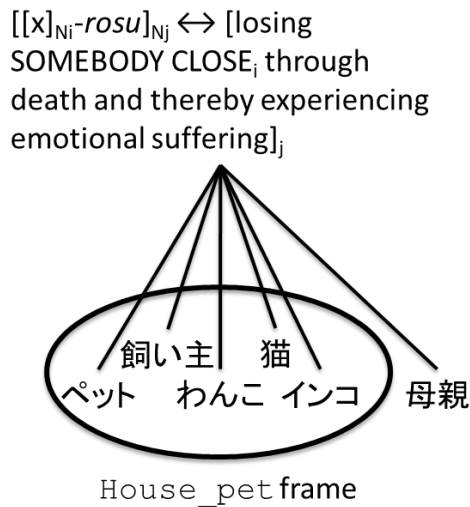


図 5.1 <死によって親しいヒトを失うこと<sub>i</sub>で感情的な苦痛を経験する><sub>j</sub>を意味する[x-rosu]構文

図 5.1 の例はすべて、文字通り死によって他者を失うことに関連している。先に述べたように、これらの例の意味解釈がなされるフレームにおける代表的なフレームは《House\_pet》（《家庭用ペット》）フレームである。しかし、このフレームに合わない「母親」に関する 1 例があった。(9) では、これは明らかに死を指している。しかし、コーパスで観察されはしなかったが、「母親ロス」は母親の心理的な喪失を指すこともある。たとえば、(9') のように、「母親ロス」を含む 1 文のみで解釈する場合、(9) はそのようにも解釈できる。

(9) ダンナの「母親ロス」は、私の想像を遥かに超えているようである。

(心理的損失の観点から) コーパスでは(9') のような例は見られなかったが、ネイティブスピーカーにとっては、夫が例えば結婚のために心理的に母親を失ったようなことを意味する（結婚が原因で息子が母親から地理的に遠ざかった

などで)。ただし、(10) にあげるように、jaTenTen11 コーパスではこれに非常によく似た用例が観察された。

(10) ごめんなさい。ブルーモードでちょっと愚痴りたかったんです。帰ればなかなか実家にも行けないだろうなあとか、ウチラが帰っちゃったら9たろママがかなり淋しいだろうなあとか。9たろ父は「おかあさん、孫ロスになるんじゃないのか？」なんてノンキな事を言ってますが。そもそも悲しい思いさせてんのはお前のせいだろっ！！と言いたいところですがね。

(ldblog.jp)

(10) では、文字通り意味での孫の死ではなく、孫の心理的な「喪失」を意味する明確な例である。これについては、(10) のような、「死を介して誰かを失うこと」(LOSING SOMEONE CLOSE THROUGH DEATH) から、「親しい誰かを心理的に失うこと」(PSYCHOLOGICALLY LOSING SOMEONE CLOSE) への、つまり第1ノードから第2ノードへのメタファー的拡張を提案する。このことは図5.2に示す。

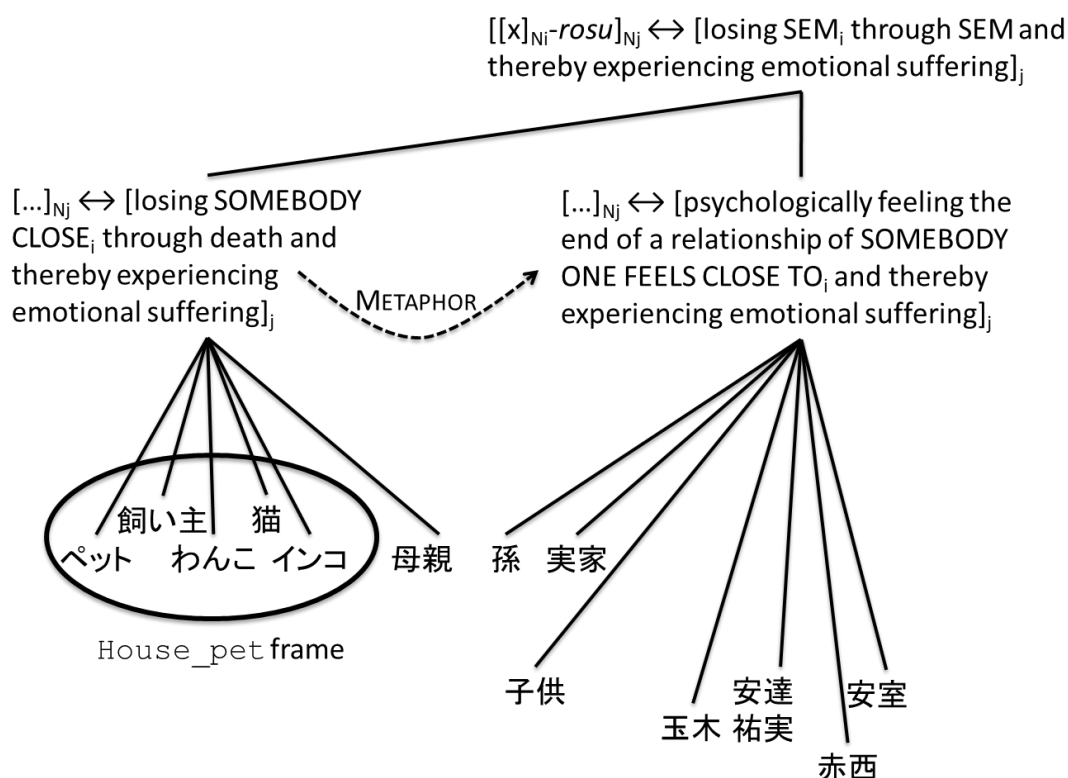


図 5.2 [x-rosu]構文ネットワークにおける、<親しい人（一方的な感情も含む）<sub>i</sub>と死別しそれにより感情的苦痛を経験する><sub>j</sub> ノード（図の左側）から<親しい人（一方的な感情も含む）<sub>i</sub>を心理的に失い、それにより感情的な苦痛を経験する><sub>j</sub> ノード（図の右側）へのメタファー的意味拡張と、それらの親ノード<SEM<sub>i</sub>（何か）を SEM（何か）で失い、それにより感情的な苦痛を経験する><sub>j</sub>

jaTenTen11 コーパスからではないが、同様の例として、(11) の親と育児に関する「実家ロス」が観察された。これは (10) の例に「実家」の単語と文脈が含まれていたため、Google 検索で「実家ロス」の例を検索した結果得られたものである。

(11) 先日、出産後の 1 か月の里帰りを終え自宅に帰ってきました。子どもはぐず



りますが元気にしています。しかし、既に私が実家ロス。

(出典 : <https://www.fmgunma.com/kko/?p=2519>)

(10) と (11) は、いくつかの理由で興味深いものである。<sup>46</sup>その主な理由は、(10) の「孫」と (11) の「実家」が、子育てに関するより大きなフレームのフレーム要素であるように見えることである。これを《日本の子育て》フレームと呼ぶことにする。これは、「結婚」に関する文脈ともある程度重複しているようである。実際に、(11) は、jaTenTen11 コーパスからの用例ではないが、「結婚・子育て応援キャンペーン (Campaign for Supporting Marriage and Childcare)」というウェブサイトからのものである。これらの背後には、日本では、英語圏とは根本的に異なった形で、子育てや (その子育てをする) 個人と、その個人の実家とのつながりが結婚と深く関係していると想定することができる。日本では出産前後の期間に、母親がしばしば実家に帰ることがあり、実家の母 (新生児の祖母) が子育てを手伝うということがある。このような一つの子育てのなされ方についての知識が媒介となることにより (11) の使用法が可能となる。たとえば、誰かが出産を控えている場合に「実家に帰るんですか」と尋ねることは、日本では奇妙なことではないが、この質問は英語圏では奇妙な質問となる (この文脈では、無関係な質問と見なされる)。日本での上記のような習慣のため、図 5.2 の 2 番目のノードも、それらの多くの例は結婚についてのフレームを喚起する。これを《日本の結婚》フレームと呼称することにする。多くの場合、実家と夫と住む家

---

<sup>46</sup> 言語分析に直接関係しない理由の 1 つは現代世界に関するものである。これは、「子供ロス」というのは文字通りの死による損失ではなく、心理的な損失という意味になる。子供が死ぬことがよくあることであつたなら (過去には珍しいことではなかった)、このような意味に拡張していたであろうか。それは、現代科学の驚くべき偉業であると思われる。子供の喪失 (子供ロス) を表現するという考えは、文字通りの意味を呼び起こすものであり、それは確かに現代医学と科学の現代世界の結果を示している。

は離れているが、物理的な距離ではなく、むしろ心理的に距離があると感じられる。これがよりはっきりする例を (12) に挙げる。

(12) 子どもロス? 助けてください

母がおかしいです。どうしたらいいかわかりません。当方25歳女性 来月結婚式を控えています。三人兄弟で、ここ一年で3人とも結婚します。

長男 (26) →昨年5月に結婚。実家から10分ほどの距離に一軒家を建てました。

私 (25) →結婚式が終わり次第、実家から1時間ほどのところで旦那さんと暮らします。(現在一人暮らし)

妹 (23) →来年3月挙式予定。実家から1時間ほどのところで旦那さんと暮らす予定です。(現在実家暮らし)

(出典 : [https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question\\_detail/q10150682920](https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q10150682920))

TenTen コーパスには日本語と英語の両方のコーパスが収録されているが、「Contextual Query Language」(CQL) に基づくコンコーダンスーの高度な基準検索 (advanced criteria search) を用いて両言語間で対応する用例を収集し比較すると、日本語 (jaTenTen11) と英語 (enTenTen15) の言語間で興味深い違いが観察できる。文字列 [tag!="N.\*"] [lemma="marriage"] [word="and"] [lemma="birth"] [tag!="N.\*"] を使用し、これによって「marriage and birth」(結婚と出産) というコロケーションの前後で名詞以外にどのような品詞が来るかを検索した。まず、enTenTen15 のコンコーダンスーからは英語について178件が収集された。これらの例のほとんどが、(13) 政治、(14) 教育、または(15) 宗教に関連する情報を提供しており、次に述べる日本語の例とは対照的である。

- (13) Marriage now more common in Sweden. This article on marriages and births is part of a pilot project implemented by Eurostat together with eight Member States (Estonia, Spain, Latvia, Croatia, the Netherlands, Romania, Slovenia and Sweden). (europa.eu) (スウェーデンでは結婚はより一般的。結婚と出産に関するこの記事は、ユーロスタットと 8 つの加盟国 (エストニア・スペイン・ラトビア・クロアチア・オランダ・ルーマニア・スロベニア・スウェーデン) が実施した予備プロジェクトの一部である。)
- (14) Through multinomial logit regression, this study found that although majority of women still follow the normative sequencing of marriage and birth, there is increasing deviation from the norm among younger cohorts, all other things being equal. (upd.edu.ph) (多項ロジット回帰を通して、本研究は大多数の女性はいまだ結婚と出産の規範的な順番に従っているが、他の条件を揃えた場合、若者の間ではその規範からの逸脱が増えている。)
- (15) The real blow for me was in seeing from the dates of both marriages and births that Joseph had been sealed to other living active LDS members' wives. (mormonstories.org) (私にとって本当にショックだったのは、結婚日と出産日の両方からジョセフ (宗教指導者) が他の現モルモン教信者の妻に結び固められていた (永遠の命に結び付けられていた) と分かったことである)

日本語の jaTenTen11 コーパスでも同様に、文字列[tag!="N.\*"][word="結婚"][word="と"][word="出産"][tag!="N.\*"]で検索を実行し、229 件が収集できた。こ

の件数は、より規模の大きな enTenTen15 コーパスから得られた英語の用例の件数よりも多い。さらに、(16) — (18) にあげるように、日本語においては結婚と出産は人々の日常生活について話しているという文脈に現れることがほとんどである。これは英語のコーパスでは見られなかったものである。これらの英語と日本語の 2 つのコーパスは、両方とも類似した文脈で用いられたデータを収録した、インターネット・ベースのコーパスであるため、これは驚くべきことである。

(16) 母となった私は、野心どころでは無くなった。ひたすら子供の事を考え、世話をして...、今までの世界とは違う世界の間人になってしまったみたい。それ位に結婚と出産は私の生活や思考を変えてしまった。子供一色の世界。

(decobox.jp)

(17) 第 9 話「ママは世界一/THE BABY SHOW」番組の若いアシスタント、セリー一の婚約のニュースを聞き、自分の結婚と出産へのタイムリミットを考え憂うつになるリズム。(fc2.com)

(18) 「以前、地元の友達が 28 歳の頃、既婚女性に『結婚と出産、どうするつもり？今すぐ結婚したって超晩婚なのに』と毎日のようにせつつかれ、精神的に参っていました。(kaseki7-power.com)

これらの例は、日本ないし日本語では「出産」が、本研究が提案している「結婚」のフレームと密接に関連しているということを支持している。そして、上記 ( (10) — (11) ) で示したように、出産は母親と祖母が密接に関係している。

別の興味深い点は、Google 検索で見つかった多くの「母親ロス」の例は、文字通りの意味での死に言及しているものの、母親の死で、自分の子育てに母が関わってもらえないという状況とも共起するようである。この非常に深刻で感情的な苦しみをともなう状況は、《日本の子育て》フレームの中で起こっている文字通りの（つまり死別による）喪失であると同時に、心理的な喪失を意味する。つまり、日本で出産を控えている女性にとっては母親がいないということは、それ自体が《日本の子育て》フレームのプロトタイプに合わない。日本において子育ては、出産したばかりの母親にとって実母との深い依存関係とも関連するのである。例えば(19)では出産および結婚に関わる文脈で、母親を恋しく思うという意味で「母ロス」が使われている。

#### (19) 出産後に母ロスをぶりかえした B さんの話

B さんは 1 児の母。結婚前に母を心不全で亡くしています。

自分なりに悲しみは克服してきたつもりでしたが、出産後に思いもよらぬ感情の波に襲われたそうです。

[中略]

出産して改めて、母親の偉大さに気づくというのはよくあること。それは母ロスをぶりかえす引き金ともなるんですね。

(出典：<https://papimami.jp/110708/>)

ただし、「実家ロス」や「母親ロス」などの NP は必ずしも子育てフレームとつながっているわけではないことに留意する必要がある。「実家ロス」は、新しい仕事のために一人暮らしを始めた子供などの場合でも用いることができ、そのような例は容易に考えることができる。つまり、子育てフレームはあくまでかなり強く喚起される可能性があるということに過ぎない。これらの 2 つの文化的フレームは、図 5.3 の円で示されている。

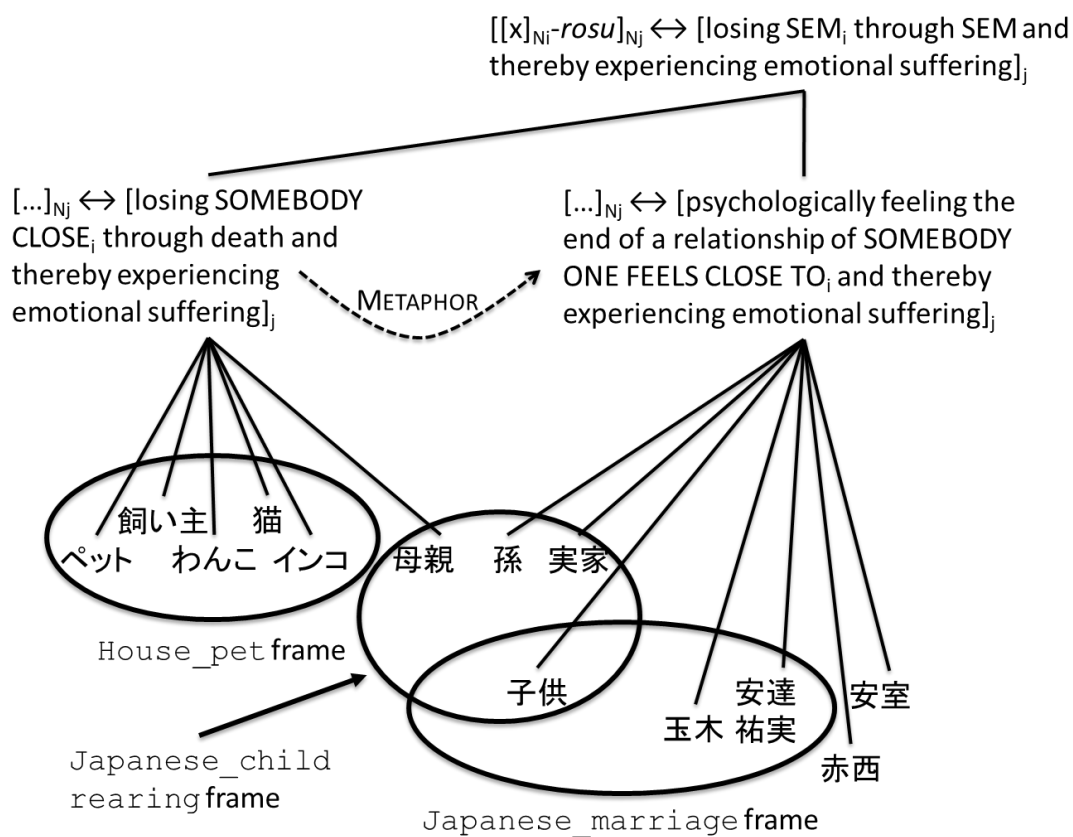


図 5.3 《Japanese\_childrearing》(《日本の子育て》) フレームと《Japanese\_marriage》(《日本の結婚》) フレームの 2 つの文化的フレームの表示を含む [x-rosu] 構文のネットワーク

図 5.3 の《日本の結婚》フレームには、まだ説明されていない他のいくつかの用例が存在する。例えば jaTenTen11 コーパスから、「安達祐美ロス」の例 (20) が抽出された。これは、<結婚によって安達由美（人気俳優）を失うこと（つまり、「手に入れられない」という意味で）>を意味する。

(20) オカシクてゴメンナサイ！最愛のペットを病気や事故で失ってしまい、ショックでなにも手につかなくなる状態になることを「ペットロス」とよぶんだそうだが、さしあたり最近の僕は、かるい「安達祐美ロス」状態というのかなあ…。おめでとうもなにも、あまりに突然だもんなあ、うん。相手がどうこうっていうのはありませんが、なんだ、もう子供がいるってんでしょ、お腹の中に (fc2.com)

安達祐美が子供を持っているという事実が (20) にも言及されていることは、さらに興味深いことである。繰り返しになるが、これは彼女が結婚したという事実と関連しているようである。この構文のもう 1 つの近年よく目にする例は、人気のある俳優である玉木宏に由来する「玉木ロス」例：「間違いなく玉木ロスは起こっているが、不思議と木南をバッシングする声は少ない」<sup>47</sup>である。

この用法は非常に一般的のようであるが、コーパスからの実例が相対的に不足しているのは、各例がその当時の人気のある俳優/歌手である人を指しているため、それが話題として取り上げられ頻出するのは比較的短い期間だけであるという事実を反映している。2011 年以降（コーパスのデータがサンプリングされた年）に作られた例（つまり、結婚）はこのデータには含まれていない（例え

---

<sup>47</sup> 出典：<https://asajo.jp/excerpt/54548>

ば 2015 年頃にできた「福山ロス」例：「彼の結婚に、「福山ロス」に陥る女性たちが続出。」<sup>48</sup>など）。

<親しい人（一方的な感情も含む）<sub>i</sub>を心理的に失い、それにより感情的な苦痛を経験する><sub>j</sub> ([psychologically feeling the end of a relationship of SOMEBODY ONE FEELS CLOSE TO<sub>i</sub> and thereby experiencing emotional suffering]<sub>j</sub>) というノードに関する残りの 2 つの例は、結婚に関係のないものであるが、(21) — (23) の例に示すように、仕事からの引退によるものである。

(21) 選びます。2. 「ブログ設定の編集」→「詳細設定」→「文字セット」を、「EUC-JP」から「UTF-8」に変更。これでカテゴリーを取得...スポンサーサイト 赤西ロス 赤西くん KAT-TUN 脱退するんですかって.いきなり聞いてくるから(笑).ヲタばれるよね~.ばれてないにしろ.完全に周り巻き込んで.コンサートいってること.いいましたよね (primaryhealthcarenurses.com)

(22) 自分から目を通し、考え込んだり悩んだり…、納得できない時はほとんど眠れない日もあったという。まさに寿命をも削って喋っていたと言っている。それに比べてミヨちゃんは…。和夫ロスからまだ立ち直れない・・・聞いてた人たちは「仕事が捗る」って言ってる。ミヨさんだったら聞きどころがないから手を止めなくてすむって。平日の休み楽しみだったのに、和夫ちゃん。はい (fc2.com)

(23) 全力が終わってなければオープニングトークでこの話題でワイワイガヤガヤ言うてたに違いないと思う俺は妹尾信者最近は完全に妹尾ロスです (fc2.com)

---

<sup>48</sup> 出典： <https://grapee.jp/110564>



(21) の例は、音楽業界から引退したアイドルグループのメンバー（赤西くん）を指す。(22) と (23) は、ラジオ番組が終了した「妹尾和夫」という人を指す。2019 年のよく知られている同様の例には「安室ロス」があり、安室奈美恵のファンは彼女が引退した後にそのように感じたようである。

以上で jaTenTen11 コーパスから抽出した例の考察は終わるが、[x-rosu]構文を研究している最中に日本語のネイティブスピーカーと意見交換をしたときに説明が必要な他の例が得られた。これらの例についてここで検討する。コーパスでは見つからなかったが、より最近のデータに基づき本論の分析を実際の言語使用に則して拡張するため、以降で取り上げる例はインターネットから収集したものである。

現在までのところ、このノードでの損失の主な原因として、「子育て」、「結婚」、「退職」（または「引退」）の3つを提示した。これらのうち2つは、文化的なフレーム、《日本の子育て》フレーム、および《日本の結婚》フレームであった。このノードに関連した「退職」・「引退」は、日本の文化と無関係ではないであろうが、おそらく他の2つのフレームほどその関係が明確ではない。しかし、興味深いと思われるのは、コーパスでは(25) — (27) のような例は観察されなかったが、日本語母語話者の中にはそれらを受け入れる人もいるようである。

(25) 福山ロス、玉木ロスに続き、三浦翔平(30)、勝地涼(32)、松田翔太(32)とイケメンたちの結婚が相次いでいる。その反動で今、K-POPファンに転向する女性が急増しているという。「結婚ロスをきっかけに、K-POPの動画を見て、イケメン具合にドハマリし、ライブに来る人が増えて

います」

(出典 : <https://www.nikkan-gendai.com/articles/view/geino/235927>)

- (26) 仕事に関しては好きな仕事だったし「社会と繋がっていたい」って言って。結婚しても辞めなかった。3年以上も休職してて...仕事からは遠ざかっていたのに「退職ロス」なのかな。

(出典 : <https://ameblo.jp/pocoty0103/entry-12406292215.html>)

- (27) 安室奈美恵さん引退ロス ( ; \_ ( のそこのあなた！本とCDが蔵書に加わりました！県民栄誉賞を受賞し、沖縄だけでなく日本の音楽界を牽引してきた安室さんの活躍は忘れません。ありがとう！

(出典 : [https://www.vill.nakagusuku.okinawa.jp/UserFiles/File/gosamarutuusin\\_2018\\_10\\_11.pdf](https://www.vill.nakagusuku.okinawa.jp/UserFiles/File/gosamarutuusin_2018_10_11.pdf))

これらの例は、図 5.4 の灰色のボックスから生じる灰色のノードに示されている交替要素として表されている。この交替可能性は、2 番目のノードとその下の灰色のノードの間の「≈」記号と、構文を囲む「<」および「>」記号で表されている。この意味拡張は明らかにメトニミー的な拡張であり、2 番目のノードから灰色のボックスへのメトニミー的な拡張であり、このことは曲線の破線矢印で表される。

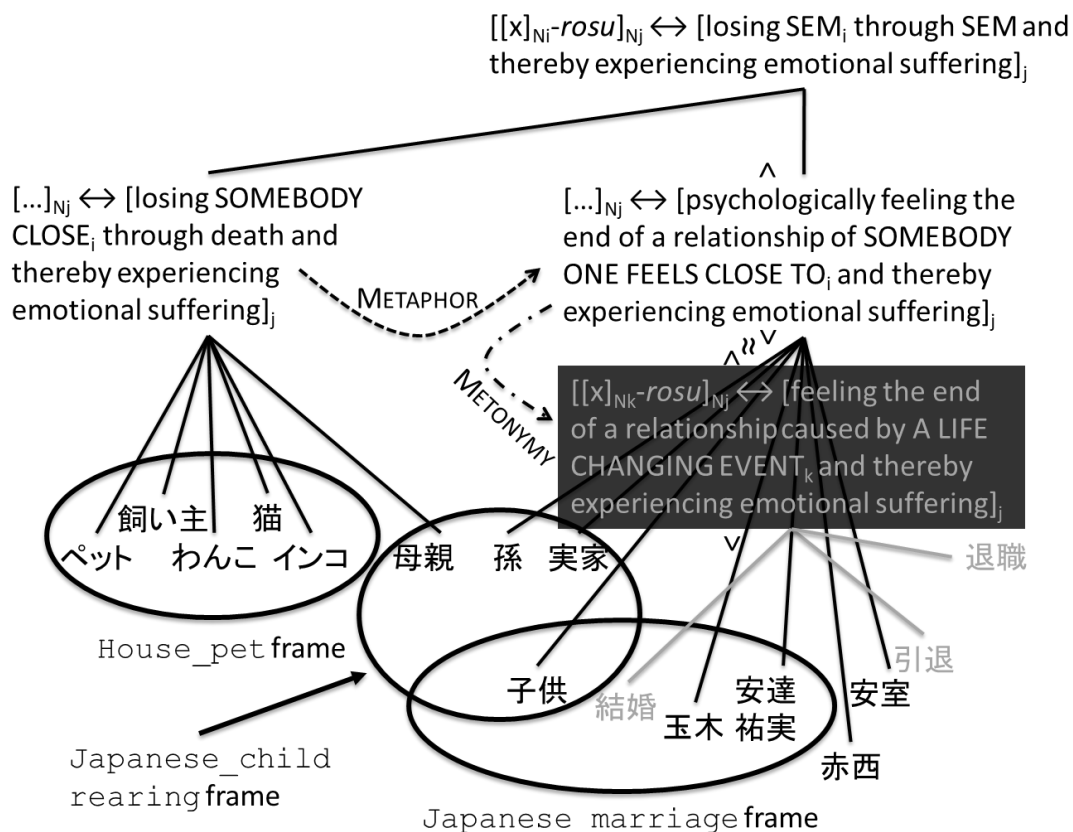


図 5.4 灰色のボックス内の構文 (<人生を変えるイベント<sub>k</sub>で親しい誰か (一方的な感情も含む) を心理的に失い、それにより感情的な苦痛を経験する><sub>j</sub>) との範列的な (パラダイム的な) 交替の表示 (図の右側) を含む[x-rosu]構文のネットワーク

この交替は、「退職」や「結婚」などの人生を変えるイベントとして、2 番目のノードにのみ生じる。[x-rosu]構文の 1 番目のノードでは、人生を変えるイベントとして「死」が固定されている。このノードは交替できない (つまり、\*「死亡ロス」は<死を通して親しいヒトを失うことで感情的な苦痛を経験する>という意味にならない)。

次に (28) — (30) の例は、「心理的に親しい誰かを失うこと」(PSYCHOLOGICALLY LOSING SOMEONE CLOSE) から「心理的に親しいものを失うこと」(PSYCHOLOGICALLY LOSING SOMETHING CLOSE) への、2 番目のメタファー的拡張に基づいている。

(28) インターネット上などでは、ペットロス症候群に似た「あまちゃんロス」の発症が放送終了後に続出するという説が流れている。

(出典 : <https://www.zakzak.co.jp/entertainment/ent-news/news/20130928/enn1309281458012-n1.htm>)

(29) 職場を卒業して、フリーランスをはじめてから一か月近くになります。これまでも仕事の性質上、長期の休みもありましたから、目下のところは、よく言われているような「職場ロス」や「通勤ロス」などの喪失感は、あまりないような状況です。むしろ、これからやってくるものなのですかね？

(出典 : <https://blog.goo.ne.jp/osamuhata/e/f7b60252bc0020e2d89d5d7f6f06ce6e>)

(30) この投稿は「逃げ恥」ロスな視聴者たちの琴線に直撃したようで、「ホントに幸せな3か月間でした！ 源さんしか平匡さんはできなかったです」

(出典 : <https://www.cinematoday.jp/news/N0088513>)

この拡張は、表 5.1 のデータに基づいて当初仮定していたものを超えたものである。図 5.5 では、これらの例を取り扱うために3番目のノードを設定する。

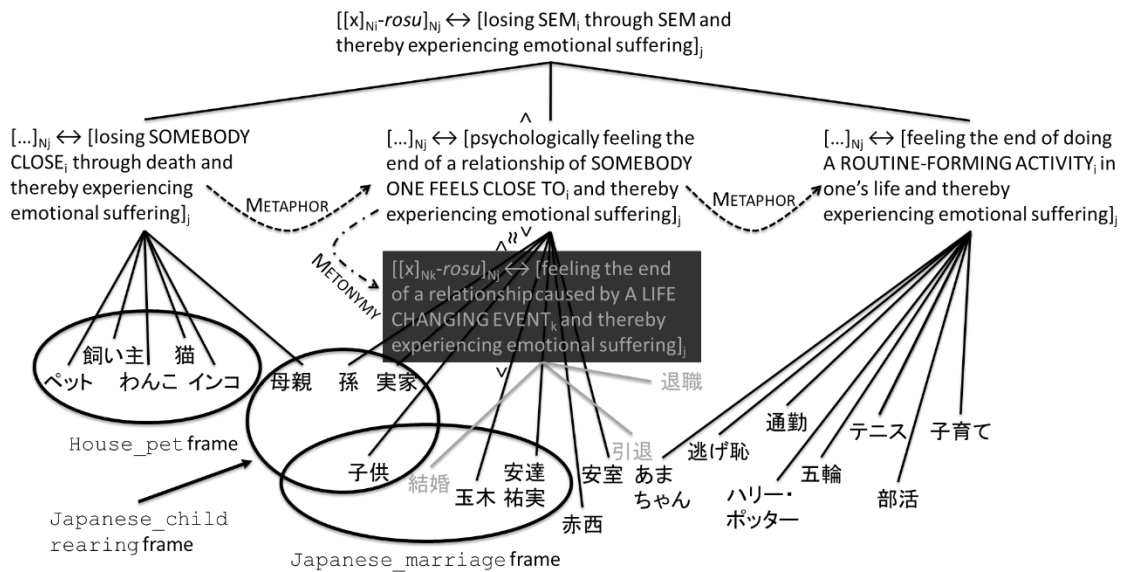


図 5.5 <人生の中で日常的な活動を行うこと<sub>i</sub>の終わりを感じ、それによって感情的な苦痛を経験する><sub>j</sub> ノードを追加した[x-rosu]構文のネットワーク

図 5.5 の灰色のボックスと右端のノードで例示されている用法は、2011 年以降に拡張されてきた可能性があるために、コーパスにはそれらの例が収録されていないと考えられる。

最後に、図 5.6 では、もう一つの文化的フレームも仮定した。これはコーパスデータにもあったが、3 番目のノードを設けるまでは明確に扱えていなかったフレームである。このフレームは《Japanese\_fan》（《日本のファン》）フレームと呼ぶ。詳細については次節を参照されたい。[x-rosu]構文の最終的なネットワークは図 5.6 に示すとおりである。

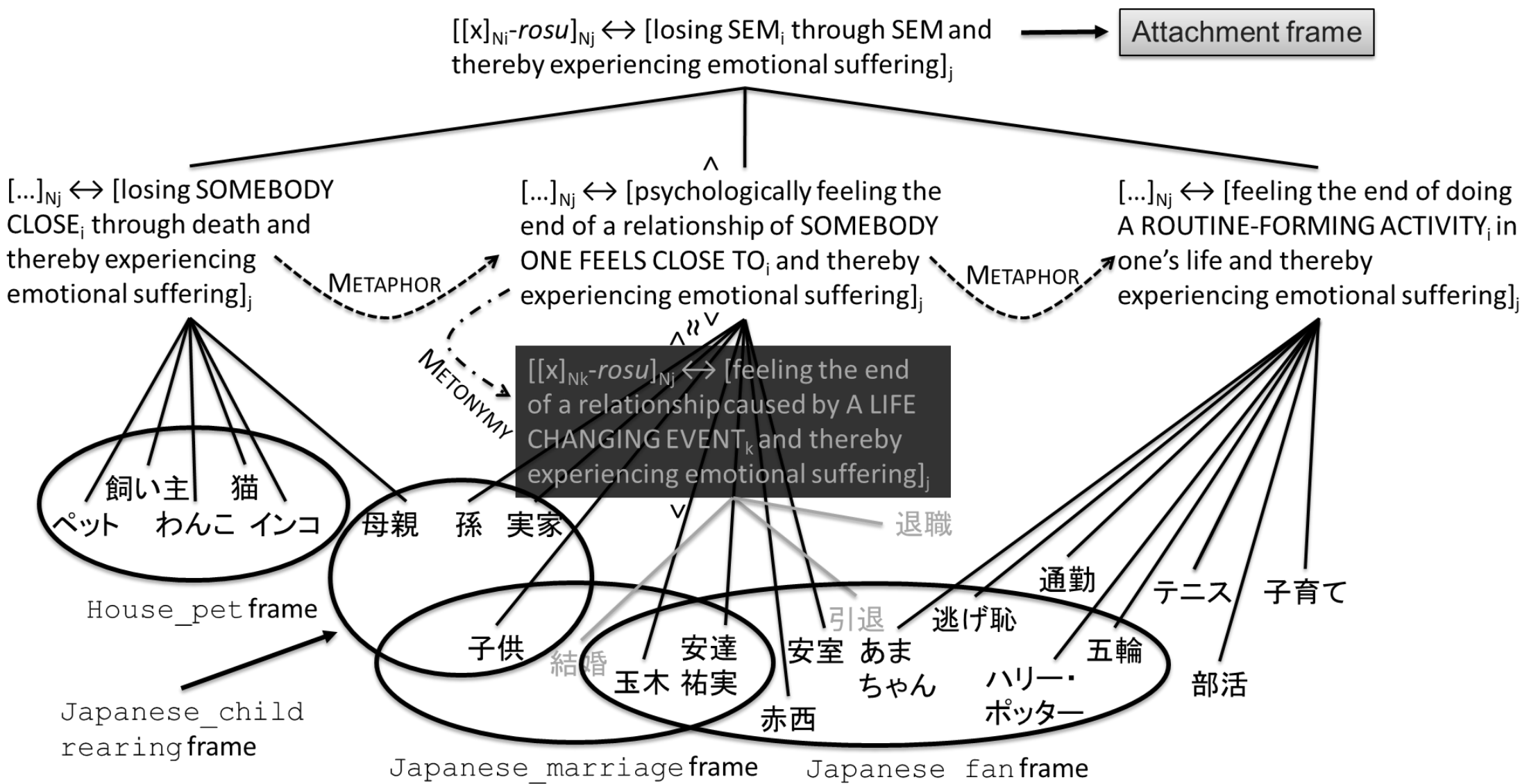


図 5.61 番目の[x-rosu]構文は黒で、2番目の構文は灰色のボックス（フレーム要素は灰色のノード）で表されるている[x-rosu]構文ネットワーク

構文ネットワークで特定の役割を果たしている個々の文化的フレームに加えて、[x-rosu]構文に与するすべてのノードが一般的な《Attachment》（《（誰か・何かに対しての）愛情・愛着》）フレームを継承している。このフレームは当該構文において遍在的であるが、というもこの構文のノードがすべて、「誰か・何かを失うと覚えること」と関係があるためである。このフレームは、図 5.6 の右上隅にある灰色のボックス内の《Attachment》フレームとして表されている。このトピックは、[x-rosu]構文および文化的フレームの関係とともに、次節で取り上げる。

#### 5.4 [x-rosu]の構文ネットワークの考察とフレーム意味論

「愛情的結びつき」と「結婚」の関係は日本社会においていくつかの意味で動機付けられている。日本の文化では、結婚には強い愛情的結びつきが含まれており、それは深く文化に埋め込まれているだけでなく、慣習化さえされている。「子供ロス」はその一例であり、子供たちが結婚することにより（したがって、家から離れる）、親が感情的な痛みを経験する。これは、日本人の子供の多くが自立するまで親の戸籍（出生、死亡、結婚、離婚などを記録する文書）に留まるという意味で慣習化されている。そして子供の引越は一般的に結婚するときと同時になることが多いとされる（天野 2018）。

日本の戸籍もまた非常に保守的な書類・制度である。たとえば、日本人以外の家族を家族の一部として含めることはできない。また、家族ごとに登録できる姓（苗字）は1つのみで、デフォルトは夫の姓である。戸籍制度は、他の多くの慣習化された「愛情的結びつき」が「結婚」という概念と結びついている。

結婚のステレオタイプの概念（したがって「損失」）に該当するもう1つの公的存在は、俳優、アイドル、有名人である。結婚した玉木宏や福山雅治などの俳優は、それぞれ独自の定型表現化した構文がある（「玉木ロス」「福山ロス」）。たとえば、「\*福山ロス」は、福山氏に婚約者がいることが暴露されただけでは使用不可能である。つまり、[x-rosu]構文のこの用法は、（結婚相手がいることが判明したことに伴って）「もう自分のものにはならないのだ」というようなある種の心理的喪失の感情を表すために用いられるのである。このことは、日本における結婚についての文化的な理解とそれに伴う（ファンの芸能人に対する）愛情的結びつき（の崩壊）が当該構文の用法において重要な役割を果たしていることを示している。

日本には（西洋と違って）「ジャニーズ事務所」（省略して「ジャニーズ」）などの大規模な芸能人事務所があり、そこに所属するアイドル（またはアイドルグループ）は厳密に管理されている。特に結婚に関して多くの規則と規制がある。ジャニーズは、容姿の良い若い男性を雇用しており、すべてのファン、特にそのファンの中心的な構成員である女性たちにそのアイドルが手に入れられるように思わせる（ここが重要なポイントである）必要がある。アイドルが結婚するならば、彼らは「私（ファン）ではないほかのだれか」への愛情を持っていると見られ、したがって、彼らのファンにはもう彼らは手に入らないように映るであろう。敢えて結婚すると決めたアイドルは通常、密かにそれを行うか、相手がすでに妊娠しているという状況か（例えば木村拓哉（未婚のまま子供をもうけ育てることはタブーとされている））、またはファン自身が結婚して、もうアイドルの結婚なんてどうでもよい、というような状況になるのを待つか、のいずれかである。



このような結婚と愛情的結びつきは、[x-rosu]構文の2番目のノードと3番目のノードをつなぐ最後のメタファー的意味拡張につながる。すなわち、「心理的に親しい誰かを失うこと」(PSYCHOLOGICALLY LOSING SOMEONE CLOSE)から「心理的に親しいものを失うこと」(PSYCHOLOGICALLY LOSING SOMETHING CLOSE)へのメタファーである。多くのテレビ番組の名前は、多くの場合、単に人々の名前または番組の主人公の名前を冠している。たとえば、「あまちゃんロス」は<シリーズが終わったので、「あまちゃん」というテレビ番組シリーズを失う>。「ハリー・ポッターロス」も同様である。これが可能であれば、「部活ロス」、「五輪ロス」、「子育てロス」など、ある人にとって習慣となっているような活動が終了し、それによって感情的な苦痛(図5.6を参照)を引き起こすことを想像するのは難しくない。

このような上記の議論に応じて、本章で提示した仮説を修正する必要がある。[x-rosu]構文の意味拡張を説明する元の仮説はIに挙げたとおりである。

I. [x-rosu] 構文は、《Japanese\_childrearing》(《日本の子育て》) および《Japanese\_marriage》(《日本の結婚》) という意味的フレームを含むメタファーに基づく意味拡張で生じた。

そして、上記の議論をふまえた提案の改訂版を、本研究の結論としてIIに提示する。

II. [x-rosu] 構文は、《Japanese\_childrearing》(《日本の子育て》)、《Japanese\_marriage》(《日本の結婚》) および、《Japanese\_fan》(《日本のファン》) という意味的フレームを含むメタファーに基づく2つの意味拡張

によって生じた。

改定版Ⅱは、2番目と3番目のノードの間に2つ目のメタファー的拡張が存在することを反映したものとなっている（つまり、「心理的に親しい誰かを失うこと」（PSYCHOLOGICALLY LOSING SOMEONE CLOSE）から「心理的に親しいものを失うこと」（PSYCHOLOGICALLY LOSING SOMETHING CLOSE）へ）。これは、最初に想定したメタファー的拡張（すなわち、「死を介して誰かを失うこと」（LOSING SOMEONE CLOSE THROUGH DEATH）から、「親しい誰かを心理的に失うこと」（PSYCHOLOGICALLY LOSING SOMEONE CLOSE）まで）とは別のものである。最後に、jaTenTen11 コーパスからデータが得られており、そのデータからは支持されていたものの、最初の考察では位置付けられていなかった3番目の文化的なフレーム、つまり《日本のファン》フレームについても提案した。

## 5.5 結論

借用された拘束形態素の [x-rosu] 構文では、文化固有のフレームが構文のネットワークにおいて中心的な役割を果たしている。日本語では「ペットロス」が借用されただけでなく、[x-rosu] 構文として成立するに至り、またその構文は文化的要因に依存する一連の機能を備えることになった。これらの借用語の意味を理解するためには、それが日本文化にどのように適合し、どのように関連しているかを理解する必要がある。この借用語は、日本語母語話者にとっては「外国語感」を感じるようであるが、実際にはそのような借用語は非常に「日本語的な」現象であるため、興味深い現象である。本節では、[x-rosu] 構文に、《日本の子育て》、《日本の結婚》および、《日本のファン》のフレームを想定し、それらに関連する2つのメタファー的拡張が生じたことを論じた。

## 第6章

### [x-*taimu*]の事例研究<sup>49</sup>

本章では、[x-*taimu*]構文についてのコーパス調査と分析を示す。<sup>50</sup>

本章では、まず、[x-*taimu*]構文の派生過程について提案する(6.1節)。次に、データ収集方法(6.2節)と分析(6.3節)を記述する。最後に、[x-*taimu*]構文を文化的フレーム(6.4節)に関連して説明し、結論(6.5節)を提示する。

---

<sup>49</sup> 本章の一部の以前のバージョンは2014年9月20~21日に横浜で開催された第15回日本認知言語学会全国大会(JCLA15)で発表され、その後 Hamlitsch & Horie (2015)として出版された。その後、構文形態論の理論枠組みを通して2018年9月22日、名古屋で開催されたフレーム意味論研究発表会で再び発表されたものに基づいている。

<sup>50</sup> 最初に「タイム」に関心を持つようになったのは、それが自由形態素としてはスポーツに関する意味(「タイムを取る」「最高のタイム」など)でしか使用されていないようである。たとえば、「ランチタイム」、「昼食時間」、または「昼食の時間」とは言えるが、「ランチのタイム」とは言わない。同様に、「お散歩タイム」と言うことはできるが、「お散歩のタイム」などとは言わない。これは興味を引く言語現象と思われ、それ以前は、英語母語話者である私にとっては、「タイム」はむしろ常に自由形態素であると思っていたので、よりいっそう気になる現象となった。

## 6.1 [x-taimu]構文の起源

日本語では「タイム」という借用語は多義的であり、さまざまなコンテキストで複数回借用されているため、表 6.1 に示すように、一般に 4 つの異なる意味（または使用）があるとされる。

表 6.1 「タイム」の定義

1. とき。時間。時刻。（例：徳川氏時代の平民的理想〔1892〕〈北村透谷〉—「人誰れか全くタイムの籠に控縛せらるるを心地よしとするものあらむ」）
2. あることを行なうのに要した時間。また特に、競走・競泳など時間を争う運動競技で一定の距離を進むのに要した時間。（例：権といふ男〔1933〕〈張赫宙〉「何でもやったが、どれ一つとして、いいタイムをのこしたことはない」）
3. 運動競技で、正規の休止時間以外の、試合の一時中止。また、審判によるその命令。（例：新式ベースボール術〔1898〕〈高橋雄次郎〉六・五「仕合者に、差支が出来たり、審判官に要事が出来たり、使用道具に、差支が起たり、其他仕合をするに故障が起れば、審判官は『タイム』(Time)と呼んで、休戦の令を下します」）
4. スケート場などで、入退場の時間を記入するところ。（例：巷談本牧亭〔1964〕〈安藤鶴夫〉晴れた日に「その時分は観覧券というもの、滑走券とおなじに一時間五十円の頃で、桃枝のあとについて入り口に入ると、桃枝はすぐタイムのところで、時間のスタンプを捺（お）させた」）

出典：“タイム”, 日本大百科全書（ニッポニカ）（2014-07-13 閲覧）

表 6.1 の 2~4 の意味はスポーツ関連のトピックに関する特殊な使用法である。他の広く流通している辞書（例えば、『広辞苑』（2009）、『明鏡国語辞典』（2010）など）も同様の定義を挙げている。表 6.1 の定義 2 に関するものとしては、(1) などのように、学校のスポーツ競技に関連する用例がよくある。

- (1) 結果は下記のとおりです。小学生チームはチームとして過去最高のタイムで入賞を果たしました。一般 56 チーム中 42 位 (2008, BCCWJ)

表 6.1 の定義 3 の意味は (2) に例示されている。

- (2) なるほど。ここはタイムを取って、投手に間合いを取らせろということなのか。(2002, BCCWJ)

定義 4 はかなり特殊な使用法のようにであり、すでに廃用になっている可能性もあり、この使用法の例を見つけることはできなかった。

本研究で扱う [x-taimu] の定義は定義 1 の意味と重複すると思われるかもしれない。定義 1 では、[x-taimu] の「タイム」が「とき」・「時間」・「時刻」と同義であることを示し、この例として 1892 年からの例を挙げている。これは、知られている中で最も古い用例である。ただし、Hamlitsch and Horie (2015) に示されているように、「タイム」と「時間」の意味は大きく異なるだけでなく、(3) のように同じ名詞句内でも使用することができる。同じ意味を持っているのであれば、これは不可能なはずである (cf. \*休憩時間の時間)。もちろん、これは「とき」(4) と「時刻」(5) にも当てはまる。

- (3) 「離乳食を始めてから一度、“ごはんイヤイヤ期”があつて。グズグズしてなかなか食べなかった時期があつたの。たぶん、ごはんタイムの時間もわらかつたんだと思うんだけどね。ちょうど午前のお昼寝前の眠たいときだったり。」(2008, BCCWJ)

- (4) ごはんタイムのときにだーいぶモグモグ♪が上手になったあおたん。(2008, BCCWJ)

- (5) 今回、イルカショーとアシカショーを逃した僕は次回のためにショータイムの時刻をチェックしつつ、梅雨の東京の空を見上げたのでした。

(shinjukuloft.com, jaTenTen11)

これに対し、本研究が[x-taimu]構文に対して提案する定義は（<SEM（何か）が関わる楽しい時間>「an enjoyable time that involves SEM」）である。これは、表 6.1 に示した定義がカバーしているとは言えない。ここであらかじめ指摘しておくべき重要な点は、この定義は拘束形態素として、つまり[x-taimu]構文で使用されるとき「タイム」の意味を指しているということである。

#### 6.1.1 自由形態素としての「タイム」

日本語において「タイム」は、自由形態素として<時間・とき・時刻>という単純な意味での使用はあまりされないようである。表 6.1 に記載されているように、記録されている「タイム」の最も古い実例は、次の (6) に示すように 1892 年のもののようである。

- (6) 「人誰れか全くタイムの籠に控縛せらるるを心地よしとするものあらむ」

(1892/徳川氏時代の平民的理想/北村透谷) 出典：“タイム”，日本国語大辞典

「タイムの籠」という名詞句自体が容認しにくい表現である。同じような「タイム」の使用による違和感は (7) の例でも感じられる。

(7) 「未だ大分タイムが有りますから、驛の方へお出でなさつて、火にでも當つていらつしやい。」<sup>51</sup> (1925/怪奇探偵 悪獣性の女/江見水蔭)

(6) と同様、(7) も現在の日本語話者の耳には不自然である。しかし「タイム」を「時間」に置き換えることにより、容認度は改善されるであろう。古めかしい言い回しではあるが、(6) にも同様なことが当てはまる。その理由は、現代日本語では、(6) と (7) での意味（つまりスポーツ以外の意味）で、「タイム」を自由形態素としては通常用いられないからである。当時の日本語母語話者もおそらく日常生活でこのような言葉をあまり使用していなかったのではないかと推測することができる。その代わりに、これはおそらく、執筆者が何らかの方法でスタイル上の実験のために行ったか、または英語からの直接翻訳として用いた臨時的な借用であったのだろう。実際、(6) では、日本語のその表現の後のいくつかの文ののちに、著者は「time」という言葉を含む英語の一節を引用している。<sup>52</sup>

[x-taimu]構文が定義 1 の自由形態素の使用に由来しないのであれば、それはどこから来たのだろうか。[x-taimu]構文はスポーツに関する用法の 1 つから派生した可能性はあるであろうか。しかし、表 6.1 のスポーツに関する定義 2 の意味は競技に限定された意味であって本研究が注目している意味（すなわち、楽しむ時間）とは異なる種類の意味であるため、容易には繋がらない。たとえば、「ベストタイム」はスポーツなどの競技での、個人の最も優れた時間的記録（つまり、

---

<sup>51</sup> この例は太陽コーパスから収集された（1895 年から 1925 年にまたがるコーパスであり、そのデータベースは一般向け雑誌である『太陽』（博文館刊）の定期刊行物で構成されている）。このコーパスに含まれる「タイム」の唯一の例であった。

<sup>52</sup> 出典：[https://www.aozora.gr.jp/cards/000157/files/43442\\_16863.html](https://www.aozora.gr.jp/cards/000157/files/43442_16863.html)

何分何秒など)を指すが、「お散歩タイム」はゆるやかな(急いだり焦ったりしない)活動である。

表 6.1 の定義 3 (「運動競技で、正規の休止時間以外の、試合の一時中止」)は、中断時間を取ることを指す。この使用法と本章で注目している使用法との間には関連があるようにも見えるが、確証を得るためには、通時的コーパスデータが必要である。たとえば、「休憩タイム」と言っておやつを食べようと休憩を取る場合を考えてみると、これは選手たちが水を飲むためにいわゆる「タイムを取る」(休憩する)ことと似ているであろうか。その可能性はなくはないが、表 6.1 のスポーツ定義 3 と[x-taimu]の構文の間の関連を立証するデータは十分とは言えないため、次の節でより妥当な説明を提案する。

### 6.1.2 拘束形態素としての「〇〇タイム」

英語からの複合借用語(例えば、「ランチタイム」と「ティータイム」)のような個別の借用語は、[x-jakku]構文および[x-rosu]構文が作り出されたのと同様の過程を経ることによって(すなわち、再分析を通じて)、[x-taimu]構文を派生させた可能性がある。これは、「タイム」が、何らかの目的で「時間」の代わりに用いられるようになったり、スポーツの用法からの派生と考えるよりも、一貫性があり確からしいシナリオのように思われる。

前節で見たように、自由形態素としての「タイム」の使用は、自由形態素としての「時間」とはほぼ無関係であるのと同様に、拘束形態素の使用ともほぼ無関係である。冒頭で示唆したように、現代日本語では、「タイム」は拘束形態素として非常に広く使用されている。これは、(8) — (10) に示されているような、一般には複合しにくい和語の要素(野村 1977, 1982)と複合しやすいということについても言える。



- (8) ママたちのおしゃべりタイム！子育てのことや自分のことなど自由におしゃべりし、リフレッシュしましょう。(2008, BCCWJ)
- (9) 一枚のハムやクッキーを二人で分け合ったり、一杯のジュースを半分ずつ飲んだり…。それが姉弟の触れ合いタイムだった。(2005, BCCWJ)
- (10) 通常は上演時間ギリギリまで入場できるが、ショーの前にお楽しみタイムがあるので、ショー開始10分前にはぜひとも座っておこう。(2002, BCCWJ)

(8) — (10) の例においては、「タイム」を「時間」に置き換えることはできない点が興味深い (??おしゃべり時間、??触れ合い時間、??お楽しみ時間)。1つの理由は、一般に、和語と漢語の要素が他の和語と容易に複合しないためだと思われる (Hamlitsch 2014)。ただし、少なくとも「タイム」などの借用語には、このような制約はないようである。さらに、(10) については、その文が表すイベント中に行われると想像される活動 (おやつを食べたり、ビンゴをしたりするなど) は、[x-taimu]構文の構成要素としても、また、文の他の要素でも明示されていないことに注目すべきである。その代わりに、どのような活動であるかは日常経験に基づく百科事典的・文化的知識に基づいて理解されなければならない。

本章の分析に移る前に、「タイム」と「時間」が同じ要素と複合しているいくつかの複合語について見ておこう (例: 「昼食タイム」、「昼食時間」)。この場合でも、(11) および (12) のように異なる文脈で用いられる。

(11) オヤジの財布も寒い為、最近は格安な昼食タイムを満喫しているズラよ～  
(2008, BCCWJ)

(12) 神田大尉は大峠行きには、はっきりした態度を示さずに、飯を食べていた。  
昼食時間は三十分であった。(1971, BCCWJ)

(11) の「タイム」は、昼食を食べる習慣を示し、(12) の「時間」は、実際に食事に割かれる客観的な時間を表すものと理解される。

上記の例を考慮すると、冒頭の定義が[x-taimu]構文の実際の使用法をカバーしていないこと、また、「タイム」が単に<時間>を意味しているとは言えないことは明らかである。本研究では、[x-taimu]構文の定義として<SEM (何か) が関わる楽しい時間>を提案し、この構文が「ランチタイム」や「ティータイム」などの借用複合語の再分析によって形成されたと提案する。より厳密にいうと、この仮説は、「[x-taimu]の構文は英語から借用された拘束形態素の再分析によって生じた」となる。

本研究では、これらの英語由来の借用複合語から構文がスキーマ化され、また3つの文化的フレームと関連付けられることを経て、その生産性が高くなったことを論じる。この仮説はIのように敷衍される。

- I. [x-taimu] 構文は、《日本の家族・子供に関する活動》  
((Japanese\_family/children\_activity)) フレーム、《プライベートの時間》  
((Japanese\_me\_time)) フレーム、および《日本の食事》((Japanese\_eating))  
フレームの3つの文化的フレームに関連して生産的である。

ただし、これらのフレームが互いにどのように関連しているかは必ずしも明らかではない。したがって、この構文についてさらに詳しく説明するには、より多くのデータが必要であるため、次に[x-taimu]構文のデータ収集方法に移る。

## 6.2 [x-taimu] のデータ収集の方法

当該構文の事例研究では、BCCWJ を使用してデータの収集を実行した。形態素「タイム」の検索は、BCCWJ オンライン検索エンジン (NLB) を用いて行われ、2,482 件のヒットを得た。次にこれは、「パターンの頻度順」設定で見つかった「名詞+タイム」パターンに絞り込まれた。これにより、1,019 個のトークン（延べ語数）と 270 のタイプ（異なり語数）が抽出された。エラー（「見舞いたいむね」など）およびパターンに適合しない他の例（「シュガータイム」（書籍のタイトル）、「ベストタイム」（表 6.1 の定義 2 のスポーツ関係の用法）、「ラグタイム」（直接英語からの借用語 *ragtime*）など）を除外した後、133 パターンが残った。この調査の結果は表 6.2 にまとめられている。

表 6.2 BCCWJ コーパスから得た[x-taimu]構文のパターンは、延べ語数の順に並べられている

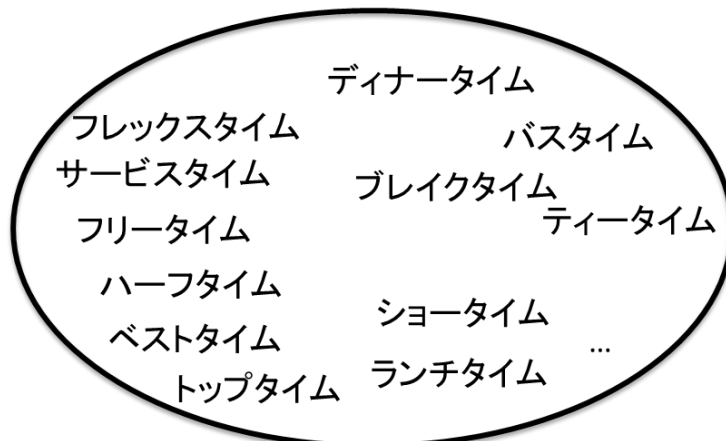
異なり語	延べ語数	異なり語	延べ語数	異なり語	延べ語数
ティータイム	75	居酒屋タイム	2	爆笑タイム	1
バスタイム	39	PRタイム	2	チャレンジタイム	1
ディナータイム	27	お買い物タイム	2	お話しタイム	1
コーヒータイム	17	様子見タイム	2	トレーニングタイム	1
リラックスタイム	17	工作タイム	2	トークタイム	1
休憩タイム	14	ファミリー宿泊タイム	2	ドライブタイム	1
ショータイム	13	相談タイム	2	一服タイム	1

読書タイム	12	バレーボールタイム	2	交流タイム	1
ハッピータイム	9	給餌タイム	2	仕事タイム	1
カフェタイム	8	クイズタイム	2	ビジネスタイム	1
昼食タイム	7	シャワータイム	2	紅茶タイム	1
おやつタイム	7	お徳タイム	2	給食タイム	1
おしゃべりタイム	6	カクテルタイム	2	うどんタイム	1
テレビタイム	6	ブックタイム	2	シャンプータイム	1
トイレタイム	6	お弁当タイム	2	ジュースタイム	1
お茶タイム	6	食事タイム	2	トリートメントタイム	1
CMタイム	6	ごほうびタイム	2	うんちタイム	1
ヨガタイム	5	夕食タイム	2	オシッコタイム	1
バレーボールタイム	5	ミルクタイム	2	コーヒー&アイスタイム	1
撮影タイム	5	プレゼントタイム	2	ケーキタイム	1
ふれあいタイム	5	朝焼けタイム	1	妄想タイム	1
調教タイム	5	場つなぎタイム	1	刺激タイム	1
ごはんタイム	5	潜入タイム	1	ラーメンタイム	1
作戦タイム	5	アレンジタイム	1	記念写真タイム	1
パーティタイム	4	クッキングタイム	1	パソコンタイム	1
スパタイム	4	お手入れタイム	1	ビューティータイム	1
質問タイム	4	パッチワーク手作りタイム	1	ビールタイム	1
お風呂タイム	4	復習タイム	1	軽食タイム	1
ブログタイム	4	押し売りタイム	1	省エネタイム	1
お昼寝タイム	4	予防接種タイム	1	まんまタイム	1

晩酌タイム	4	アトラクション攻略タイム	1	ラブタイム	1
おはなしタイム	4	お料理タイム	1	バランスタイム	1
お散歩タイム	4	参加タイム	1	ブレイクタイム	1
サービスタイム	4	告白タイム	1	タオルタイム	1
お楽しみタイム	3	回診タイム	1	極楽タイム	1
入浴タイム	3	団欒タイム	1	幼児タイム	1
歯みがきタイム	3	変身タイム	1	親子タイム	1
お祈りタイム	3	学習タイム	1	エンゼルタイム	1
観想タイム	3	スーパー落書きタイム	1	カップルタイム	1
エアロビクスタイム	3	見学タイム	1	マザーズタイム	1
お話タイム	3	試食タイム	1	パブタイム	1
マンガタイム	3	談話タイム	1	空色キッチンタイム	1
ブレイクタイム	3	歓談タイム	1		
デザートタイム	3	熟睡タイム	1		
お昼タイム	3	爆睡タイム	1		

### 6.3 [x-taimu]の構文・ネットワークの分析

本節では、[x-taimu]構文の分析を提示する。まず、図 6.1 は、BCCWJ で観察された、代表的な英語からの借用複合語を示している。



English borrowings relating to *taimu*

図 6.1 BCCWJ から得た「タイム」を含む英語からの代表的な借用複合語

図 6.1 には、コーパスから抽出された、英語から直接借用された複合語のすべての例が示されているわけではないが、これらの例は日常的に使用される基本的な用法の代表例をカバーしている。これらの使用法は図 6.2 に示すように 4 つの基本的な意味にグループ化できる。

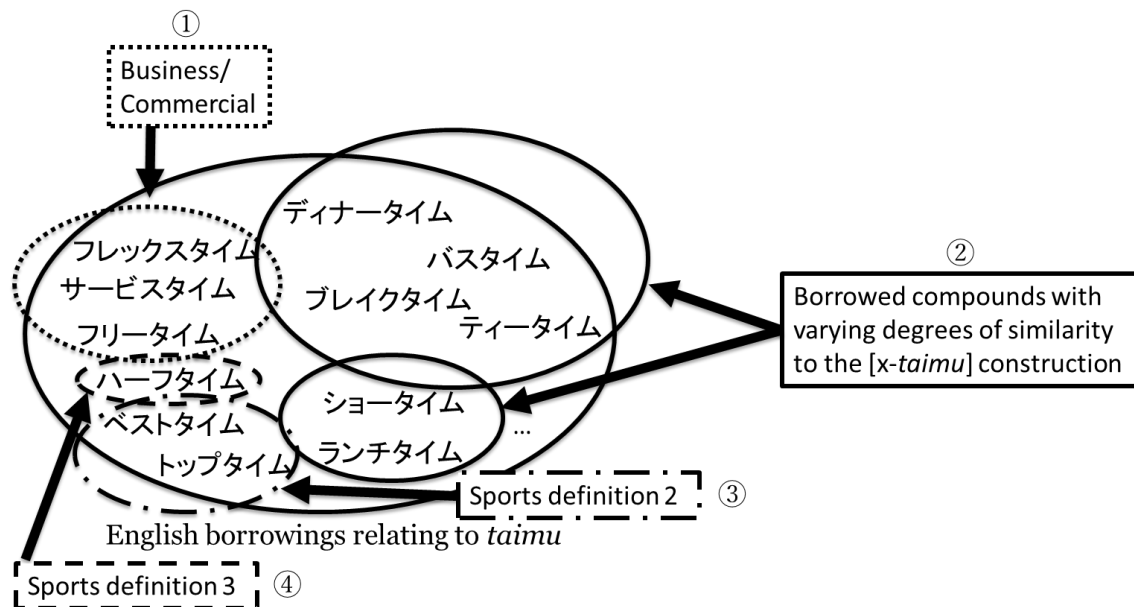


図 6.2 BCCWJ から得た「タイム」を含む英語からの代表的な借用複合語（グループ別）。上から時計回りに①ビジネス・商売系用語、②[x-taimu]構文にいくらか意味の似た借用複合語、③表 6.1 の定義 2（スポーツ）、④表 6.1 の定義 3（スポーツ）

本研究では、図 6.2 の②で表される借用語群が[x-taimu]構文の基礎を形成したと考える。ただし、②で取り上げられているものは網羅的なリストではなく代表例である。「ランチタイム」に関しては、明確に語彙化されており、1つの語として「ランチタイム」そのものを検索（110件が得られる）することで収集できるため、本分析のコーパス検索では抽出しないこととした。また、分析では「ショータイム」が抽出されたが、図 6.2 の②の他の項目とは少し異なる意味（ショーが始まる時間）を持つようである。これらの複合語に基づいて、[x-taimu]構文は図 6.3 に示すようなスキーマを形成していると考えられる（スキーマ化は複合語の例から上部の親ノードに向かう直線として表される）。

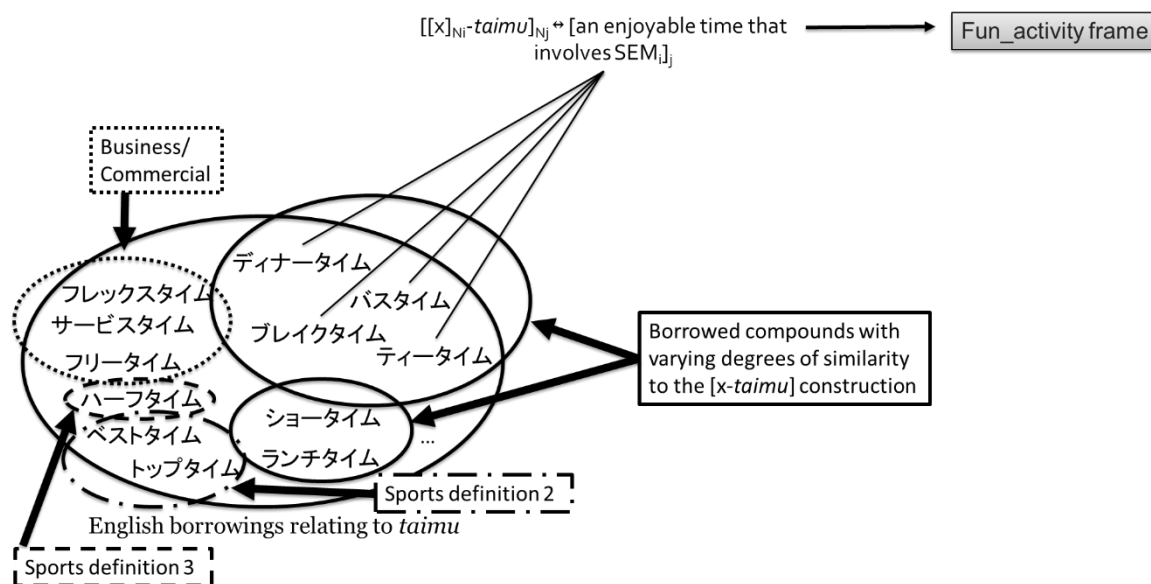


図 6.3 [an enjoyable time that involves SEM<sub>i</sub>] <SEM (何か) が関わる楽しい時間 > という意味の構文

<SEM (何か) が関わる楽しい時間>の意味に加えて、この意味が理解されるもとなる、一般的な《娯乐的活動》(《Fun\_activity》) フレーム(<人々は何かそれぞれが楽しみとする活動があり、人々はそれをする事で自分の自由時間を楽しむ>)を提案する。これらの例はすべて、何らかの娯乐的活動を示しているからである。これらの4つのタイプの例は(14)―(17)に挙げられている。

(14) 桜の木の下でお弁当を食べて・・・ママ達はティータイム (∩▽∩) 桜ほほ満開かな～☆ (2008, BCCWJ)

(15) 最近あんまり行かないけれど・・・おうちで毎日バスタイムを楽しむぞ～ (2008, BCCWJ)

(16) 元気で楽しい1日を。NYのあなたには、楽しいディナータイムと、ぐっすりのおやすみを。(2008, BCCWJ)

(17) ブレイクタイムに、そんな挑戦者に思いを馳せるのも一興です。(2005, BCCWJ)

また、これらの例からの<SEM (何か) が関わる楽しい時間>というスキーマ化は図 6.4 に示している通りである。図 6.4 でのグレーの濃淡は中心的な用例とその周辺例(色が淡くなるほどより周辺的であることを示す)を表している。



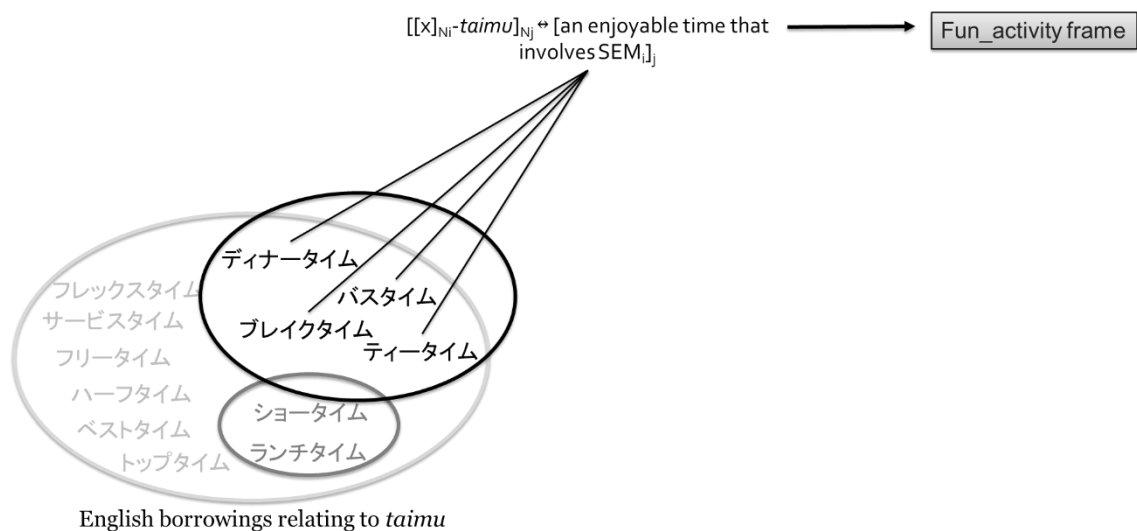


図 6.4 英語からの借用複合語による[x-taimu]構文のスキーマ化とその他の関連する用例

このノードが確立されるに従い、[x-taimu]の構文は本節で提案される3つの文化的フレームの範囲内で生産的に使用されるようになったと考える。これはメトニミー的な連想関係と表現することもできる。図の構造を可能な限り一貫させながら、フレームを1つずつ導入していく。図6.5は、1つ目の文化的フレームである《日本の家族・子供に関する活動》(《Japanese\_family/children\_activity》)フレームを提示している。

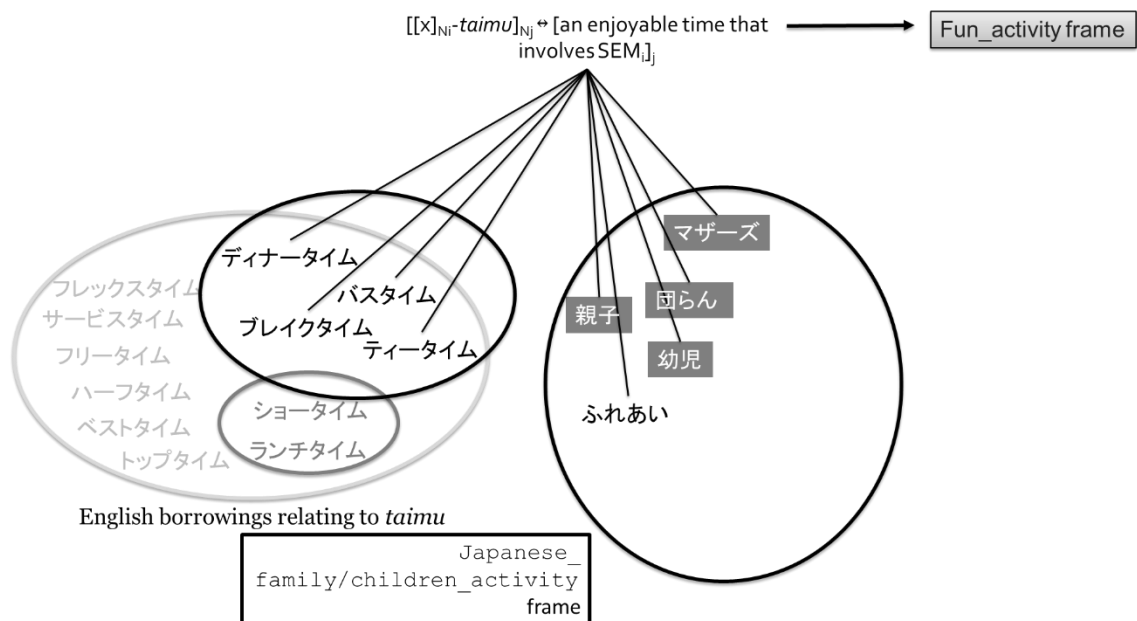


図 6.5 《日本の家族・子供に関する活動》（《Japanese\_family/children\_activity》）フレームと[x-taimu]構文

図 6.5 では、後で示す図の見やすさのため、フレーム要素の一部が灰色白抜きで表示されている。(18) — (23) のような例はこのフレームの例である。

(18) てか、僕は寝てしまうんですけどね、ほとんどの場合。妻と息子の大事なふれあいタイムだから むしろイイか！おお、なんとなく全体的にさ、ポジティブになりつつある自分♪ (2008, BCCWJ)

(19) たまになら我慢できるけど、会うたびだと気持ちが収まる時間ないもんね。子育て中は何かとストレスがたまりやすいので、上手く解消してゆったりした親子タイムをお送り下さい。(2005, BCCWJ)

(20) 中学校へも総合的学習で帖佐中学校 1 年生が「かつての始良町の特産品づ

くり体験」に「まちづくり元気点『住吉池』を訪れ、縄ない・箆打ち・かます作りと一連の工程を地域の方に手ほどきを受けながら体験学習し、団欒タイムには楽しい語らいもあった。(2001, BCCWJ)

(21) 何人かは来春から同じ幼稚園なので心強いかなと思ってます。毎週決まった幼児タイムみたいなのがあればその時に行くようにするとか気にいった人がいればいつもいつ来るか聞いてみて同じ時間を狙って行くと比較的顔なじみから友達に発展しやすいと思います。(2005, BCCWJ)

(22) 娘が(5歳)英語を3歳前から習っています。娘の送り迎えの際、授業の始まる前の10分程マザーズタイムというのがあって、授業内容の説明や出てくる単語を先生が読み上げてくれたりします。それを聞いているうちに自分も英語に興味が出てきたのと娘に聞かれて答えられるように、頑張ってみようと思ったのですが、英語を習いに行くには、まるっきりの初心者でも大丈夫なんでしょうか？(2005, BCCWJ)

親や祖父母にとっては、《娯楽的活動》(《Fun\_activity》)フレームと関連する[x-taimu]構文を子供や孫と楽しむ楽しい交流を言い表すのに用いるというのは自然である。

一方で、図 6.6 で《プライベートの時間》(《Japanese\_me\_time》)フレーム(<個人は趣味や娯楽として何らかの活動を楽しみとしており、個人の自由な時間においてその活動を楽しむ>)として表されているように、個人的な時間とそのような時間で個人が楽しみとして行う行為を楽しむという例が数多く存在する。

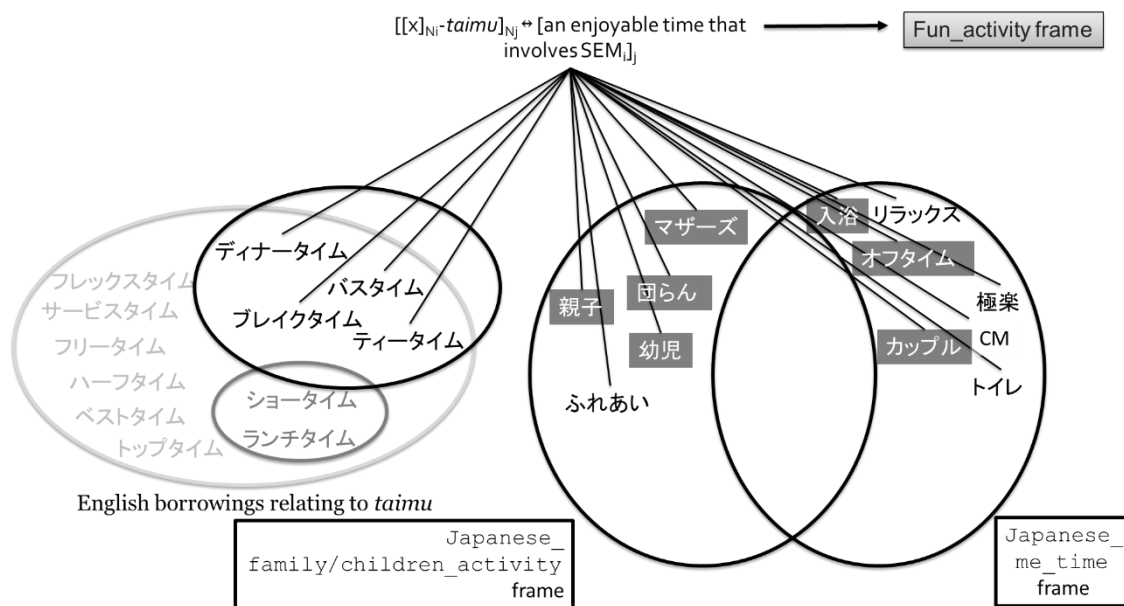


図 6.6 《プライベートの時間》（《Japanese\_me\_time》）フレームと[x-taimu]構文

《プライベートの時間》（《Japanese\_me\_time》）フレームに基づいている例は (23) — (29) に挙げる。

(23) この動作を繰り返し行う。どちらもCMタイムを利用してできる手軽なストレッチだ。(2003, BCCWJ)

(24) でも、ハセガワは相変わらず元気いっぱい！ 撮影の裏話からオフタイムの買い物まで、イタリアロケの全貌を紹介します。(2003, BCCWJ)

(25) よいお産がおできになりますよう、毎日、リラックスタイムを作ることを中心掛けて下さい。(2002, BCCWJ)

- (26) さらに超微粒子スチームを当てクリームを髪に浸透させつつ、パラフィンパックでハンドケア。60分10,000円も「全然オッケー」な極楽タイム。(2003, BCCWJ)
- (27) いよいよ、人並み溢れる心齋橋通り。ちらっとトイレタイムで百貨店に入る。妻は、もっともっとウインドウショッピングを楽しみたそう。(2008, BCCWJ)
- (28) その効果を上げるためには、バスルームに時計と湯温計は欠かせません。その上、入浴タイムを楽しめるアイテムがあればひたすら額に汗するだけでなく、優雅な時間も過ごせます！半身浴には欠かせないテレビでのんびり (2002, BCCWJ)
- (29) 離陸をスローシャッターで... 展望デッキはそろそろ「カップルタイム」そろそろ帰りますか... (2008, BCCWJ)

(23) — (28) は明らかに、表されている時間の中にリラックスした環境で自分の時間を楽しんでいることを表している。(29) では、カップルが恋人同士としてのロマンチックな時間を過ごすということを表す。

さらに興味深いことは、母親がこれらのリラックスした時間を楽しんでいることを示す例があったが、それらが、(30) のように子供が物理的にまだ存在しない場合、または (31) のように心理的に存在しない場合、つまり、いわば「子育て」という「勤務外」の文脈にのみ生起していたことである。

(30) 気分が落ち着く 体が温まる

お気に入りのお茶でリラックスタイムをハーブティー、日本茶、中国茶…妊娠中にお茶を楽しむママが増えています。(2005, BCCWJ)

(31) ここでは子連れでいることを忘れさせてくれるくらい、ゆったりしたカフェタイムが約束されている。こちらのおすすめは高級食材を使用した焼きたてパンの数々。(2005, BCCWJ)

興味深いことに、《日本の家族・子供に関する活動》フレーム（(32)、(34)、(36)）、または《プライベートの時間》フレーム（(33)、(35)、(37)）を喚起する用例が見られた。これらではフレーム要素に重複があり、ただしどちらのフレームに基づくかによって当該構文の使用には、家族との楽しい時間について話しているのか（(32)、(34)、(36)）それとも自分の時間を楽しんでいるのか（(33)、(35)、(37)）という違いが出てくる。

(32) 親子・家族で楽しもう ◆本を読もう（読み聞かせ・家族で読書タイムなど）  
◆観察しよう（植物・昆虫・動物・星空など）(2008, BCCWJ)

(33) いつもは仕事の休憩時間を利用して読書タイムとしているのですが、さすがにこの小説だけは、途中で葉を挟んでストップするのがもどかしくついに最後まで一気に読みしてしまった一冊になりました。(2008, BCCWJ)

- (34) じょうろなどのチョロチョロとした水流でやさしく流してあげれば、シャワー代の節約にもなります 子どもも水遊び感覚で、お風呂タイムを楽しく過ごせるはず！ (2004, BCCWJ)
- (35) ちょっと値段の高いものだったから大事にしくちゃ。お風呂タイムは楽しい。この間、初夏ごろに買った塩のボディスクラブがやっと使い終わったので秋からはいちごのボディポリッシュ使うつもり。(2008, BCCWJ)
- (36) 年小の女の子です。保育園に通ってて、園では昼過ぎからお昼寝タイムです。休日もそのペースを守ろうとして車に乗せたりして寝かせています。(2005, BCCWJ)
- (37) 夜寝るときもそうですが、家事のあいまに「ちょっとうたたね」、前日の睡眠不足を補うための「お昼寝タイム」まで、すべてむだなく有効に使ってしまおうというのが、この方法の目的なのです。(2001, BCCWJ)

これらの用例は、図 6.7 の 2 つのフレーム間の中央の領域に表されており、それらの用例がどちらのフレームにも共通して参加することを示している。

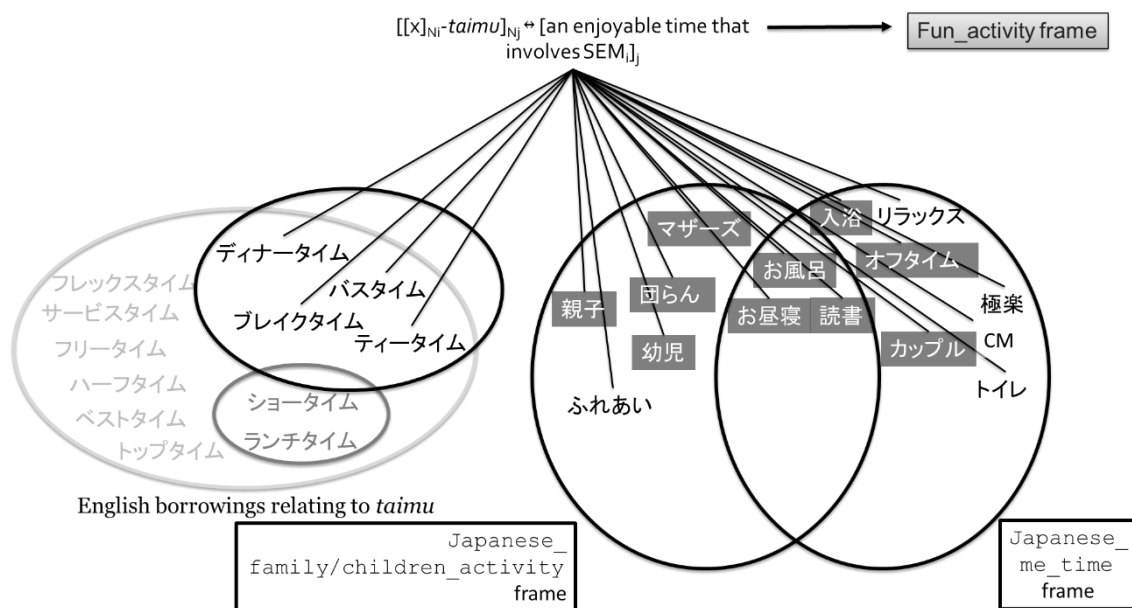


図 6.7 一部の要素が《日本の家族・子供に関する活動》フレームと《プライベートの時間》フレームの両方に頻繁に参加することを示す[x-taimu]構文

図 6.7 に示されている活動に加えて、日本語の《娯乐的活動》フレームの文化的な具体例となるような、日常的な活動がもう 1 つある。それは食べ物に関連するものである。食事や食べ物は日本では非常に重要な文化的要素のため、これを《日本の食事》（《Japanese\_eating》）フレーム（＜日本では食事が文化的に重要とされ、人々は娯乐的活動の一つとして食事を楽しむ＞）と呼称する。この文化的フレームは、《日本の家族・子供に関する活動》フレームと《プライベートの時間》フレームときれいに重なる。

まず、《日本の家族・子供に関する活動》フレームと重複している領域から《日本の食事》フレームを見てみよう。これに関する用例は (38) — (40) に提示されている。

(38) 夕方には“鶏の頭”を与えているそうですが、「まんまタイム」としての公



開は“パン”と“りんご”を与えるこの回のみ。“鶏の頭”を食べてるシーンは、「刺激が強すぎる」との配慮からでしょうか（^^）；(2008, BCCWJ)

(39) 森に入れば、ガイドさんが口笛で鳥を呼んでくれるそう。途中お弁当タイムもあるので、子どもからお年寄りまで楽しめます。(2002, BCCWJ)

(40) 旅行中も 大人ごはんタイムに付いてきたパンの柔らかいところをおくちに入れてあげるとモグモグ・・・♪♪ 上手に食べていたので離乳食も 【ゴックン期】 から 【モグモグ期】 に☆☆ (2008, BCCWJ)

(38) — (40) は、《日本の食事》フレームと《日本の家族・子供に関する活動》フレームの両方に関連する活動を明確に示しており、その活動が楽しく聞こえるように使用されている。次に、食事に関する《プライベートの時間》フレームに頻繁に参加する用例 (41) — (45) を見てみよう。

(41) 二回目のディナーが終わり、21時からのパブタイムに、私は再びダイナーを訪ねた。お酒が足りなかったわけではない。(2001, BCCWJ)

(42) 明日もがんばれる、毎晩30分の「ごほうびタイム」 なんのために働くのか？ (2005, BCCWJ)

(43) そんなわがままに応じてくれるテイクアウトOKな人気カフェのケーキを集めてみました。優しさいっぱいのケーキを持って帰って、お家でも気軽に幸せなカフェタイムを楽しもう。(2001, BCCWJ)

(44) そのあたりに事件の鍵が潜んでいるような気がした。夕食は終わり、コーヒータイムになった。多い少ないはあるものの、どの皿にも料理が残っていた。(2000, BCCWJ)

(45) でも、忙しい彼女にはスポーツジムに通う時間なんてありません。そこで、彼女は事務所の休憩タイムを利用してトレーニングをしています。(2002, BCCWJ)

(41) — (45) が示すように、大人も食事を楽しむことができる。食事や食べ物を楽しむという概念は、日本の文化に深く根付いている。次節では、これらの構文が意味をなすのに重要な役割を果たす、日本での食文化の重要性について、より詳細に示す。最後に、《日本の食事》フレームに位置づけられながらも、(46) や (48) のような《日本の家族・子供に関する活動》フレーム、そして (47) や (49) のように《プライベートの時間》フレームの両方も参照しているような例も存在する。

(46) しばらくして、私の妹が姪の結婚式の写真などを整理して届けてくれました。母たち姉妹と私たち姉妹と美味しい、お茶タイムができました。母の部屋からは、美しい夕焼けがみえました。(2008, BCCWJ)

(47) 連休の間仕事だったので今日がやっと休み お茶タイム (2008, BCCWJ)

(48) やっぱりそうふうは大きいな～♪その後、おやつタイム♪そうふうの大好

きな、じいじとばあばから頂いたモロゾフのゼリーを食べてご満悦～(2008, BCCWJ)

(49) 歌ったあ～遊んだあ～楽しかった(^^)今はお部屋でおやつタイムです。  
(2008, BCCWJ)

つまり、これらの例は、日本では多くの人がお茶をしたりして楽しんでいる、ということを示している。図 6.8 では、この《日本の食事》フレームは《日本の家族・子供に関する活動》フレームと《プライベートの時間》フレームの両方の下部分の点線の円で囲まれた部分として表されている。

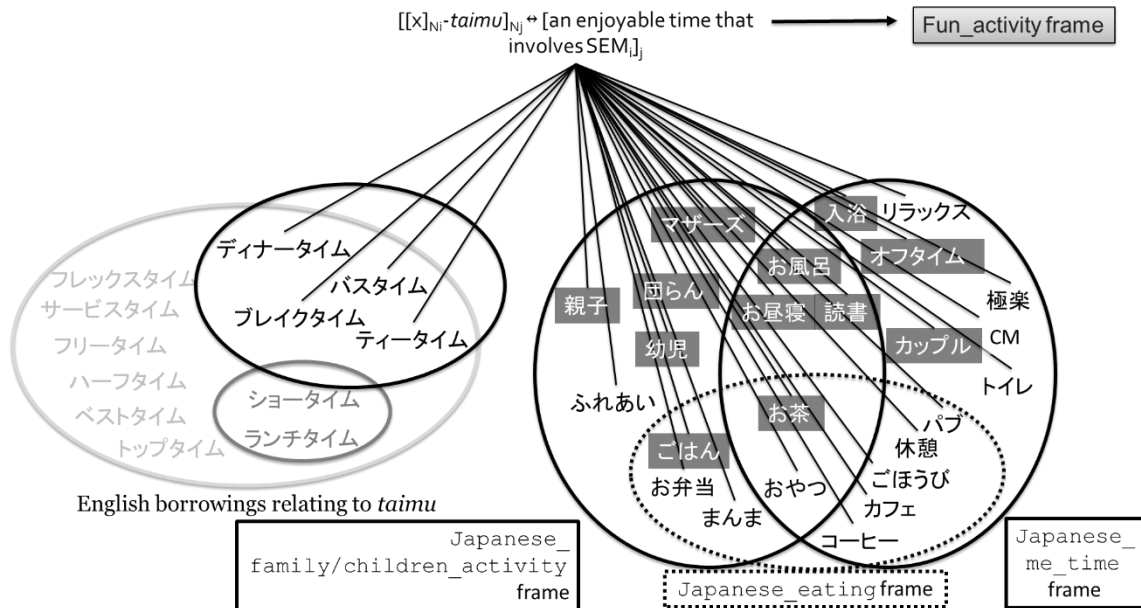


図 6.8 《日本の食事》フレームと、それが他の2つの文化的フレームとどのように重なるかを示す[x-taimu]構文ネットワーク

次節では、これらの文化的フレームについてさらに詳しく説明し、Michaelis (2004) らの強制 (coercion) の概念を援用することによって、これらのフレー

ムが関与する証拠を提示する。これに基づいて、[x-taimu]構文の分析の最終版を提示し、最後に結論を示す。

#### 6.4 [x-taimu]の構文ネットワークの考察とフレーム意味論

日本での食文化の重要性を考えると、[x-taimu]構文が「娯楽的活動」を示す中心的なトピックの1つとして食べ物を含んでいるのは、驚くにはあたらないかもしれない。たとえば、日本の農林水産省のウェブサイトでは、「『和食』がユネスコ無形文化遺産に登録されました！」と誇らしげに述べている平成25年12月の記事が記載されている。<sup>53</sup>また、日本では、ラーメン祭りやカキ祭り、餅つき大会など、1種類の食べ物を中心としたイベントや催し物を見つけるのは難しくない。

しかし、日本においては日常のレベルにおいても、食事の重要性は常に顔を出す。日本でテレビをつけると、有名人がテレビスタジオで食事をしたり、新しいレストランを試しに行ったり、あるいはテレビドラマ・番組自体が料理を中心に行ったりするなど、「食」を含むテレビ番組を見ないようにすることの方が逆に難しい。

例えば、「料理の鉄人」(Iron Chef)は、1993年に始まった日本発祥の料理が中心としている番組であり、今や世界的に知られている。多くの外国の報道機関は、日本文化におけるこれらの食事関連の側面の独自性とその普及率について頻繁に取り上げている。たとえば、人気のある日本の文化についてのウェブサイト「Tofugu」では、ライターのリンダ・ロンバルディ氏(Linda Lombardi)は、“Japan’s Obsession with Food and Drama”(「日本の食とドラマへの執着」)<sup>54</sup>とい

---

<sup>53</sup> 出典：<https://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/ich/>

<sup>54</sup> 出典：<https://www.tofugu.com/japan/japanese-food-dramas/>

う記事で、日本のテレビや映画には食べ物を取り上げた様々なものがあることを指摘している（これは西欧では見られないものである）。これだけでなく、食事に関するテレビや映画のカテゴリーにも独自のサブジャンルがあることまで指摘している。たとえば、「シェフになる」（“becoming a chef”）（「ハングリー！」、「あんどーなつ-江戸和菓子職人物語-」、など）、「旅館で調理する」（“cooking at inns”）（「おせん」、「鴨、京都へ行く。-老舗旅館の女将日記-」など）、そして素人の料理を中心に、つまり「専門家だけでなく」（“not just professionals”）（「東京バンドワゴン」、「ランチの女王」など）などが挙げられる。

ジャパントイムズ (*The Japan Times*) など、より広く流通している新聞にさえ、日本の料理に関する番組に関する記事がある。<sup>55</sup>たとえば「YouTube：テレビの料理番組が終わったところから再開」“YouTube: Picking up where TV cooking shows left off”という記事では、記者 J.J. オドノヒュー (J.J. O'Donoghue) は、日本の料理がテレビだけでなく Youtube にも氾濫していることを説明している。たとえば、日本のフードチャンネル Cooking with Dog<sup>56</sup>、Jun's Kitchen<sup>57</sup>、Just One Cookbook<sup>58</sup>、Ochikeron<sup>59</sup>などにはそれぞれ数 10 万～100 万人の登録者がいる。

とはいえ、他の 2 つの文化的フレーム、つまり《日本の家族・子供に関する活動》フレーム、と《プライベートの時間》フレームが存在する証拠はあるだろうか。また、図 6.8 で提案されているように、これらの 2 つのフレームは互いに関連し、重複する部分を有することを示す証拠は 6.3 節の用例以外にあるだろう

---

<sup>55</sup> 出典：<https://www.japantimes.co.jp/life/2018/06/02/food/youtube-picking-tv-cooking-shows-left-off/#.XgSXGUczY2w>

<sup>56</sup> 出典：<https://www.youtube.com/user/cookingwithdog>

<sup>57</sup> 出典：<https://www.youtube.com/user/JunsKitchen>

<sup>58</sup> 出典：<https://www.youtube.com/user/justonecookbook>

<sup>59</sup> 出典：<https://www.youtube.com/user/ochikeron>

か。この質問に答えるために、強制という概念を援用する (Michaelis 2004) 。 Michaelis は「強制効果は、解釈者が形態統語構文の意味を語彙的フィラーの意味と調和させる必要がある場合に引き起こされる」<sup>60</sup>と説明している (p. 7) 。つまり、構文的な意味は、要素の語彙的意味を上書きする (override) ということである。Michaelis は、次のようにこの原則をオーバーライド原則 (“override principle” ) として形式化している。

オーバーライド原則：語彙的要素が形態統語論的文脈と意味的に互換性がない場合、その語彙的要素の意味は、埋め込まれている構文の意味に従う。

(Michaelis 2004: 25) <sup>61</sup>

本論では、[x-taimu]構文に基づいて発せられた例は、上位の《娯楽的活動》フレームとともに 3 つの文化的フレームのいずれかに収まらなければならないと論じている。これを検証するために、これらのフレームに反するはずの用例を見つけ、フレームは語彙的意味を上書きするかどうかを見てみよう。

データの収集に際しては、BCCWJ コーパスはかなり規模が小さいため、NLT コーパスと jaTenTen コーパスで検索を行った。そこで得られた、「戦争」(50)、「感涙」(51) などの例でどうであるか見てみよう。

---

<sup>60</sup> “Coercion effects are triggered when the interpreter must reconcile the meaning of a morphosyntactic construction with the meaning of a lexical filler.” (Michaelis 2004: 7)

<sup>61</sup> “The override principle. If a lexical item is semantically incompatible with its morphosyntactic context, the meaning of the lexical item conforms to the meaning of the structure in which it is embedded.” (Michaelis 2004: 25)

(50) 15:00

お客様と商談

19:00

帰宅。

20:00

夕食。子供のお風呂、学校の準備、家事等。この時間は戦争タイム。

22:00

就寝

営業だからこそ、時間コントロールできる働き方。

(かしこカワイイの素顔が知りたい！営業女子インタビュー Vol.01 森  
本 千賀子さん, NLT)

(51) なにかと騒動を起こす夏目に「家に来なさい」と言ってくれる滋(しげる)さん。滋さんもめちゃいい人で感涙タイムの始まりです。(nnew-s.com, jaTenTen11)

(50) では、「戦争」という否定的な(少なくとも楽しくはない)言葉が、子供たちを風呂に入れて明日の学校に備えるためのような、非常に忙しい家事や子育てというメタファー的な拡張義で理解される(少なくとも《日本の家族・子供に関する活動》フレームに基づき解釈されている)<sup>62</sup>。[x-taimu]という形式の

---

<sup>62</sup> この「戦争タイム」の用法と 4.3.2.2 節で紹介された[x-jakku]の誇張的拡張の用法とには何らかの関係があることを連想させる。ただし、いくつかの重要な違いがある。1) [x-jakku]構文において、誇張的用法のノードには特定の文化的フレームが想定できない。そのため、前項要素は、特定の共通性のない「部屋」、「電車」、「披露宴」、「布団」などの広範な名詞に及ぶ。2) ここでの「戦争タイム」は、基本的に「お風呂タイム」などと同様の活動を指すが、それは単に異なって見方で表現されているだけである。これ

せいで滑稽な感じが出されるため、育児に疲れて思い悩んでいるというようなニュアンスは出ない。

(51) では、泣く行為が《プライベートの時間》フレームに基づいて解釈され、感激することに伴う「涙」と理解されているようである。繰り返しになるが、これは構文によって強制されている。

最後に、(52) の「最悪」のように、何らかの好ましい状況を表すという解釈が不可能であるような場合は、「タイム」はスポーツの意味での解釈となる。このことは、この構文の理解に関して上述したようなフレームが働いているということであり、それらのフレームの存在をさらに支持するものである。

(52) もちろんハイクアップ、シロ、ハ〇メちゃん、俺とで AM10:39 分登頂開始。

怠けてたせいで、ハ〇メちゃんに置いて行かれた、あああー！途中気分悪し、休憩しながら・・・AM11:40分、ベスト+13分の最悪タイム！（えあくろすな日々 北風のち東！, NLT）

スポーツの定義での「タイム」と[x-taimu]構文のもう1つの重要な違いは、スポーツの定義での「タイム」（表 6.1 の定義 2 を参照）のみが属格（「最悪のタイム」）を許可することである。一方、[x-taimu]構文に属格の「の」を挿入すると、その NP は容認されないか、または、スポーツの定義で解釈される（「??感涙のタイム」、「?戦争のタイム」など）。これらをふまえ、[x-taimu]構文の最終的なネットワークは図 6.9 に示されており、これらの2つの強制された例も含まれている。

---

とは対照的に、[x-jakku]の誇張的な用法を表すノードに関する用例は合法的行為であるが、元のノードを例示する表現はテロという違法的な意味を表す。



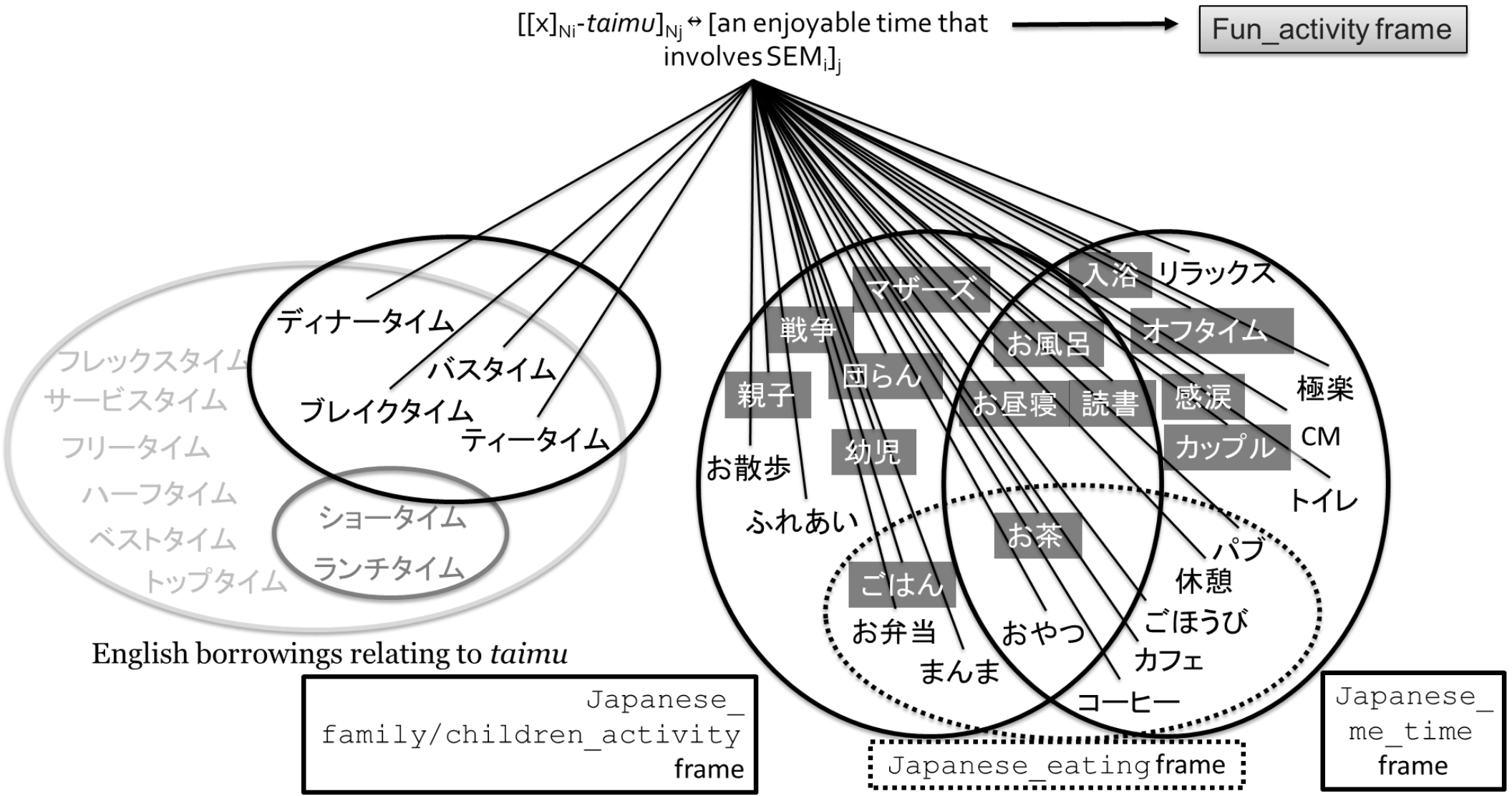


図 6.9 [x-taimu]の構文ネットワーク

図 6.9 の強制された例に加えて、最後のもう 1 つの例「お散歩タイム」を含めた。「お散歩タイム」は、(53) のようにペットの飼い主が犬を散歩に連れて行くことについて話すときによく使われるようである。

(53) 妻は、もっともっとウインドウショッピングを楽しみたそう。そろそろ帰らなきゃー、陸君がお散歩タイムを待っている。日曜日でごったがえす通りをかき分け進む。(2008, BCCWJ)

(53) の興味深い点は、これは確かに「陸君」という名前の犬を指しているが、ここでの「お散歩タイム」の使用では、飼い主が自分の犬を一種の子供、つまり、家族のように取り扱っているという点である（犬を君付けで呼んでいることから）。

さらに、[x-taimu]の用例を見ると、必ず 1 つ以上の文化的フレームを喚起しなければならないという条件があるようである。文化的なフレームはメトニミー的な連想関係を引き起こすため、文化的なフレームの中で言い換えが可能な例が見られることが期待できるであろう。実際、そのような例は観察される。

(54) ママたちのおしゃべりタイム！子育てのことや自分のことなど自由におしゃべりし、リフレッシュしましょう。(2008, BCCWJ)

(他のフレーム要素で置き換えられ、同様の出来事を指示する：おしゃべりタイム ↔ ママたちタイム ↔ リフレッシュタイム)

(55) ようやく気持ちも落ち着いて 2 日ぶりの珈琲タイム。(2008, BCCWJ)

(他のフレーム要素で置き換えられ、同様の出来事を指示する：珈琲タイム  
↔ 落ち着きタイム)

(56) これまた幸せです！リッチなカフェタイムこそ、大事な友人と楽しく穏やかに過ごす貴重なひとときだわあ (2008, BCCWJ)

(他のフレーム要素で置き換えられ、同様の出来事を指示する：カフェタイム  
↔ 幸せタイム ↔ 友達タイム ↔ 穏やかタイム)

(57) これまた、汽車旅ならではの愉悦なのである。二回目のディナーが終わり、21時からのパブタイムに、私は再びダイナーを訪ねた。(2001, BCCWJ)

(他のフレーム要素で置き換えられ、同様の出来事を指示する：パブタイム  
↔ 愉悦タイム ↔ ビールタイム)

(58) 気分が落ち着く 体が温まる

お気に入りのお茶でリラックスタイムをハーブティー、日本茶、中国茶…妊娠中にお茶を楽しむママが増えています。(2005, BCCWJ)

(他のフレーム要素で置き換えられ、同様の出来事を指示する：リラックスタイム  
↔ お茶タイム ↔ 落ち着きタイム ↔ 温まりタイム)

創造的なノードには、文化的知識に根ざした百科事典的な知識が含まれている。これに基づいて、本研究は、文化的フレームが習慣化された創造的な語形の基礎を形成しているということを提案する。先に述べたようにこの文化的フレームはメトニミーと関連しているため、これらの語形のメトニミーが成立して

いる部分を見れば、文化的フレームがどこに存在するかについての洞察が得られる。

以上の観察から、本章の冒頭で提示した仮説 I の妥当性が窺われる。本節の締めくりとして、結論 I で提示したように[x-*taimu*]の構文が 3 つの文化的フレームに関連して生産的であると思われることを主張する。便宜上、以下に仮説 I を結論 I として再度提示する。

- I. [x-*taimu*] 構文は、《日本の家族・子供に関する活動》(《Japanese\_family/children\_activity》) フレーム、《プライベートの時間》(《Japanese\_me\_time》) フレーム、および《日本の食事》(《Japanese\_eating》) フレームの 3 つの文化的フレームに関連して生産的である。

## 6.5 結論

本章では、「ティータイム」、「バスタイム」などの「タイム」を含む英語からの借用複合語の集まりから[x-*taimu*]構文が生じていることを提案した。最も抽象的なレベルでは、《娯楽的活動》フレームで<SEM (何か) を含む楽しい時間>を意味するという構文を提案した。

現代日本語では、「タイム」はこの意味では、拘束形態素としてのみ使用できるようである。当該構文から派生した新しい造語（新語）は、《日本の家族・子供に関する活動》フレーム、《プライベートの時間》フレーム、および《日本の食事》フレームの 3 つの文化的フレームのうち、少なくとも 1 つを喚起するものと考えられる。

## 第7章

### 拘束形態素借用の動機付けに関する認知的考察

本章では、主に第4章～第6章の分析を基に、第1章で説明したリサーチクエスションと仮説について議論する(7.1節)。最後に、3つの認知的理論を提案し、借用語に関する先行研究の観察と関連づけて本研究の知見を論じる(7.2節および7.3節)。

#### 7.1 リサーチクエスションに対する回答

本研究の主なリサーチクエスションは次のとおりであった。

- I. 日本語に借用された拘束形態素はどのような構文ネットワークを示すか。
- II. 文化的フレームは日本語における借用拘束形態素の構文ネットワークの形成にどのように貢献しているのか。

まず、一つ目のリサーチクエスチョンに関連して導かれた結論について議論する。そうすることで、二つ目のリサーチクエスチョンに対する結論も明らかになる。

一つ目のリサーチクエスチョンについては、日本語の借用拘束形態素によって示されるネットワークを記述する。本研究の分析結果に基づき、次の1)～5)のことが言える。

- 1) 借入時に、借用語は元の言語よりも狭義の意味を表している（たとえば、「ハイジャック」は基本的に飛行機<sup>63</sup>にのみ使用されるが、英語の原語 (*hijack*) は飛行機以外の指示対象に対しても使用できる。「ロス」自体は元々複合語「ペットロス」として借用され、1種類の損失のみを指す。つまり、ペットの損失である。[*x-taimu*]も最初は限られた複合語として借用されていたが、現在では《娯楽的活動》や《家族・子供に関する活動》などに関しても用いられている)。

これは、用法基盤モデル (3.1 節) で概説したように、借用の時点で意味が例外なく縮小・特殊化を受けているということを考えると理にかなっている。

- 2) 借用された単語の周囲には多くの類似した語形が形成され、言い換えればこれらの語形は最初の段階ではいわば類推的な関係 (3.2.4 節を参照のこと) にあり、後にスキーマとして一般化される。

---

<sup>63</sup> ただし、次のように新たな意味が生まれる可能性がある：「世論がいとも簡単にハイジャックされた。」2019.10.8 読売新聞 愛知版。

図 7.1 では、各研究事例でも多くの関連語形ができ、日本語母語話者はある時点でこれらの語形の共通点を認識して、スキーマ化しているということが表されている。この観察は Booij (2010) の分析と合致している。

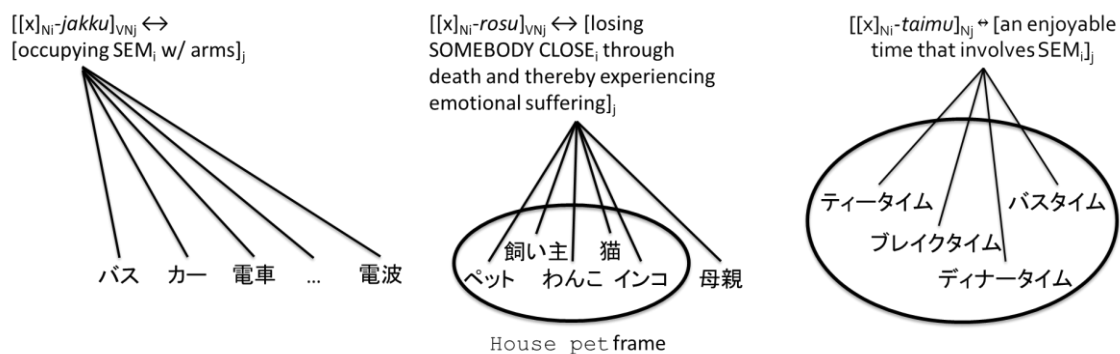


図 7.1 類推に基づいている初期の意味拡張と、十分な例が生じた後のスキーマ化の図示

初期の意味拡張における[x-jakku]構文での「乗っ取られる」可能性のあるものの範囲は比較的広いようであるが（車両、核、電波、など）、[x-rosu]などの他の構文の場合はより限定されているようである（この場合はほとんどがペットのみである）。この違いを表すために、《家庭用ペット》フレームを含めている。[x-taimu]構文などの他の例では、類推の基礎となった最初の具体例を特定するのがより困難であるが、この問題は今後の通時的研究により明らかにされるであろう。

- 3) 借用後の意味拡張は、メタファー的拡張 ([x-jakku])、既存の文化に依存する概念 ([x-taimu])（メトニミー的拡張）、または両方 ([x-rosu]) によって拡張する。

メタファー的拡張は中間フレーム (3.4 節を参照) のレベルで生じるため、Booij (2010) のこの点に関する提案と一致している。さらに、客観的に好ましくない状況を表す意味から、誇張的な意味 ([x-jakku]: 違法な乗っ取り→合法かつ誇張的な乗っ取り、図 7.2)、または非常に私的な感情に関連する意味 ([x-rosu] <死によって親しいヒトを失うことで感情的な苦痛を経験する>→<結婚によって人気俳優を失うこと(つまり、「手に入れられない」という意味で)>図 7.3) のように、しばしばユーモアとも感じられる意味に拡張している。

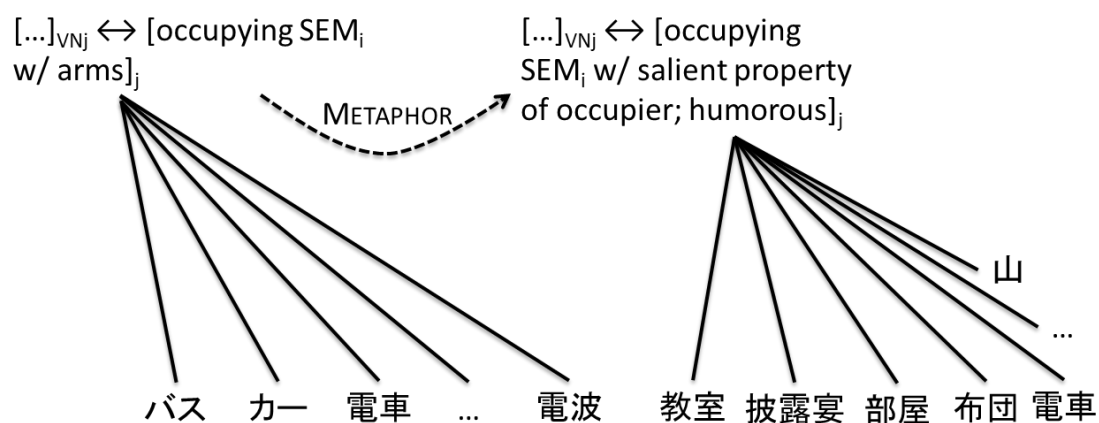


図 7.2 [x-jakku]の誇張的意味拡張

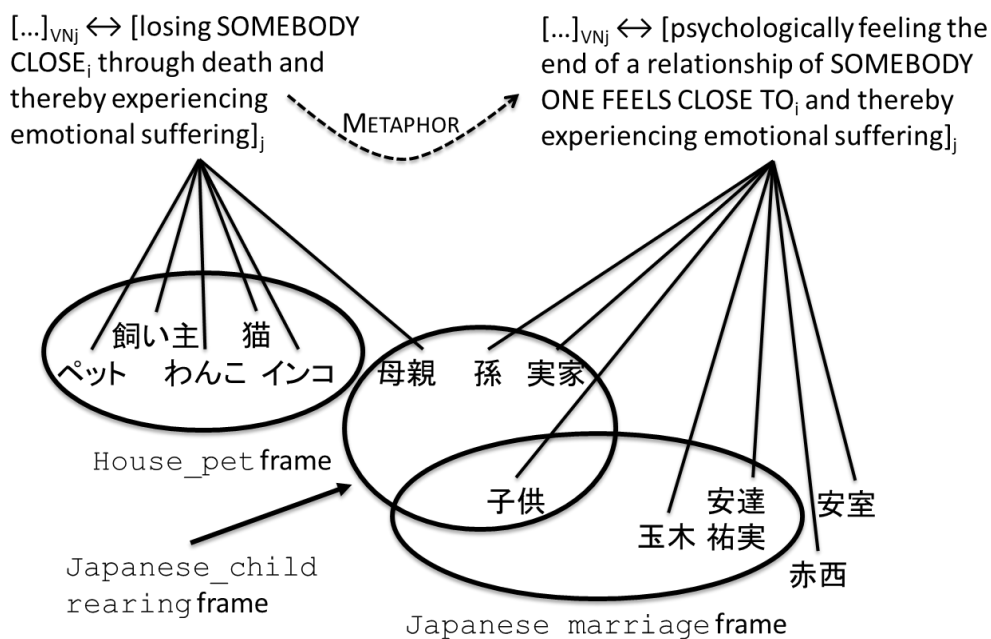


図 7.3 文化的フレーム内の具体例に基づく [x-rosu]のメタファー的拡張



これは、日本語における借用語がユーモアを伴う意味合いを生じさせる現象一般に関連している可能性がある。この語用論的な要素は Tsujimura and Davis (2018) でも言及されており、「カジュアルなスタイル、遊び心のある」(“casual style, playful”; p. 380) という語用論的な意味をもつ新動詞構文(例: 「ググる」、「事故る」) が提案されている(3.3.3 節を参照)。「ハイジャック」も「ペットロス」も、その本来の用法においてはカジュアルなスタイルや遊び心の意味合いはないが、それらのメタファー的拡張例にはカジュアルなスタイルや遊び心の意味合いが存在する。興味深いことに、[x-taimu]にはメタファー的意味拡張はないが、既にこの「遊び心のある、楽しい」という意味合いが含まれている(これは《娯楽的活動》フレームで<SEM (何か) を含む楽しい時間>として提案している)。ここからメタファー的拡張の動機づけが推測できる。すなわち、借用語というのはこのようなカジュアルでユーモアのある意味を表すのがいわゆるその使い時であり、メタファー的拡張は借用語がこのカジュアルでユーモラスな意味をその意味的中心に持つように牽引するものと理解できる。逆に言うと、[x-taimu]にはこの娯楽的な意味が既に含まれているため、メタファー的拡張を受ける必要はなかったということである。

4) 用例の多義性(または同音異義語)のデフォルトの解釈は文化的に決定されている。

例えば、「電車ジャック」は<武器で SEM (何か) を占領する>や<広告スペースを占有する>などの複数のノードに基づく様々な意味を持ちうるが、デフォルトの解釈は電車に関連する広告スペースのものであるという傾向がある。

同様のことが「子供ロス」にも当てはまる。「子供ロス」は子供の死を意味する可能性もあるが、《日本の子育て》および《日本の結婚》の意味的フレームに関連する心理的喪失の文脈でのみコーパスで現れた。すなわち、文化的に重要な解釈は、ある文化である状況が頻繁であることにより生じる。上述のように「電車ジャック」にはさまざまな意味があるが、新たな意味が作られる場合は、文化的に重要な事柄に基づいてなされる。たとえば、jaTenTen11 コーパスでは (1) のように関西地方のサッカー文化に関係する例が多く見つかった。

- (1) 電車ジャックに参加して、長居に到着。コールをみんなですると、アンコールをうける。

サッカーの文脈は文化的に際立っているため、デフォルトの解釈となる。文化的フレームに基づく意味は、ルーティン化された解釈を生みうる。

- 5) メトニミー的意味拡張は、文化固有のフレームによって制約された交替(例: 「広告ジャック」 ↔ 「電車ジャック」、 「子供ロス」 ↔ 「結婚ロス」 (図 7.4))、あるいは創造的なノードによって制約された交替 ( 「部屋ジャック」 ↔ 「ケチャップジャック」 (図 7.5)) を具現化する。

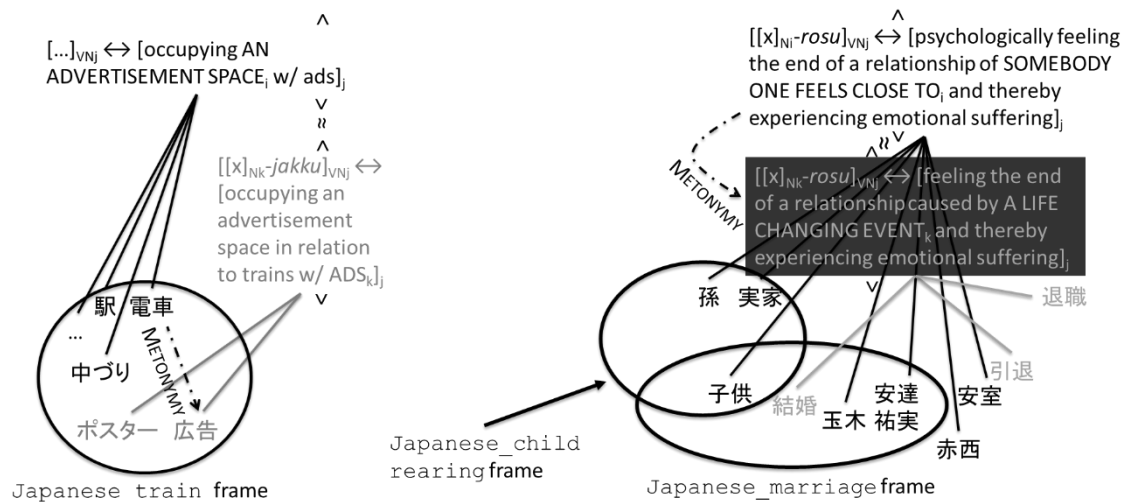


図 7.4 文化固有のフレームに関する[x-jakku]および[x-rosu]構文のメトニミー的拡張

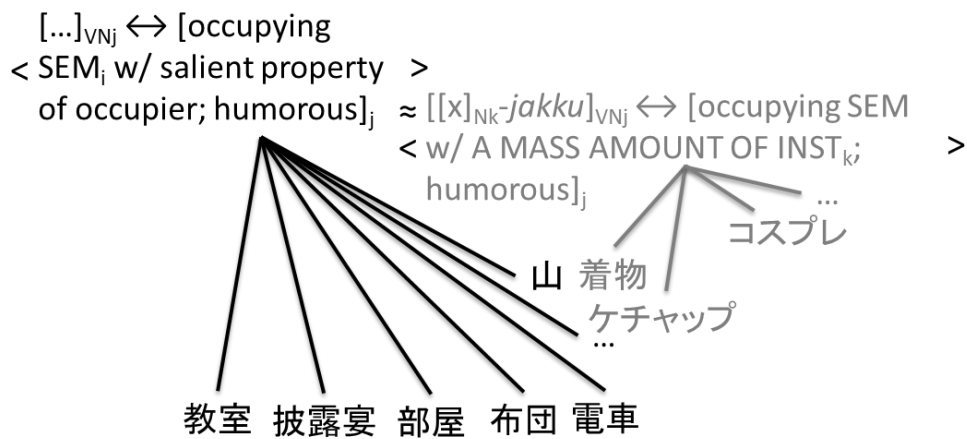


図 7.5 [x-jakku]構文のノードでの創造的なメトニミー的拡張

ここである自然な問いが生じる。それは、本研究で扱っている構文ではなぜメトニミー的拡張が何らかの文化的なフレームまたは創造的な用法に関連しているのか、ということである。

Croft and Cruse (2004) では、メトニミーとは「デフォルトの解釈 A をもつ表現 E を使用し、区別できる解釈 B を喚起する。この場合、B と A の間の結びつきは一般の原則によって推測できる（つまり、個人間で事前に設定された私的なコードではない）」<sup>64</sup>と定義されている (p. 216)。本研究で取り扱っている借用語形態素においてもメトニミーが関与しており、それによって形態素の交替が動機づけられている。このメトニミーは関連する特定の文化的フレームの中で機能している。しかし、ここで提案している文化固有のフレームというのは、ある程度において個人間のプライベートコードでもあり、またある程度において「一般的原則」でもある。

文化的フレームと同様に、創造的な語形は百科事典的知識に依存している。一つの提案としては文化的フレームをより一般化した創造的パターンとみなすことができるであろう。たとえば、「広告ジャック」はユーモラスなニュアンスが薄らいではきているが（少なくとも「ケチャップジャック」などの他の例ほど強くは感じられない）、構文ネットワーク上の他のメトニミー的ノードと共通の意味（「occupying SEM w/ A MASS AMOUNT OF INST」＜大量の「道具」で SEM（どこか）を占有する＞）をもっている。つまり、「広告ジャック」は大量の広告で電車を占有することを意味し、また、それは道具でもある（が、あまり誇張的ではない）。この意味での用法は、この創造的である道具のノードがルーティン化（習慣化）された用法と見なすことができる。文化的フレームはこの用法の形成（慣習化）を構造化すると考えられる。しかし、このことをより確実に言うためには、通時的なデータが必要であろう。

---

<sup>64</sup> “involv[ing] the use of an expression E with a default construal A to evoke a distinct construal B, where the connection between B and A is inferable by general principles (i.e. is not a private prearranged code between individuals)” (Croft & Cruse 2004: 216)

さらに、[x-taimu]については、必ず1つ以上の文化的フレームを喚起しなければならないという条件があると指摘した。上記の文化的なフレームはメトニミー的な連想関係を引き起こすため、文化的なフレームの中で言い換えが可能な例が見られた（例：カフェタイム ↔ 幸せタイム ↔ 友達タイム ↔ 穏やかタイム；6.4節を参照）。

上記で示していることはおそらく、本研究の最も重要な理論的問いにつながっている。つまり、この点で、借用語と既存の日本語の単語に違いはあるか、ということである。本研究を見る限り、根本的には違いはないと思われる。ただし、借用語に関しては、これらの文化的フレームに参加可能であるということにおいて、興味深い。この文化的フレームへの参加可能性はメトニミー的交替・置き換えと関連すると考えられる。3.1節で論じたように、借用語が導入された当初は借用先の言語にその語の既存のネットワーク構造は存在せず、したがって、借用語の主たる役割は語用論的な意味（楽しみや娯楽など）を表すことにある。これらの語彙を日本語の体系に統合するには、日本語母語話者がそれに対し意味を与える必要が生じる。この意味は、話し手の百科事典的知識、つまり経験に基づいた知識に基づいており、これらの経験は必然的に日本の文化に根ざしている。つまり、話し手は自分が知っていること、つまり文化に根付いている概念を介して借用語を解釈するのである。

以上、7.1節で議論した内容は図7.6のようにまとめられる。

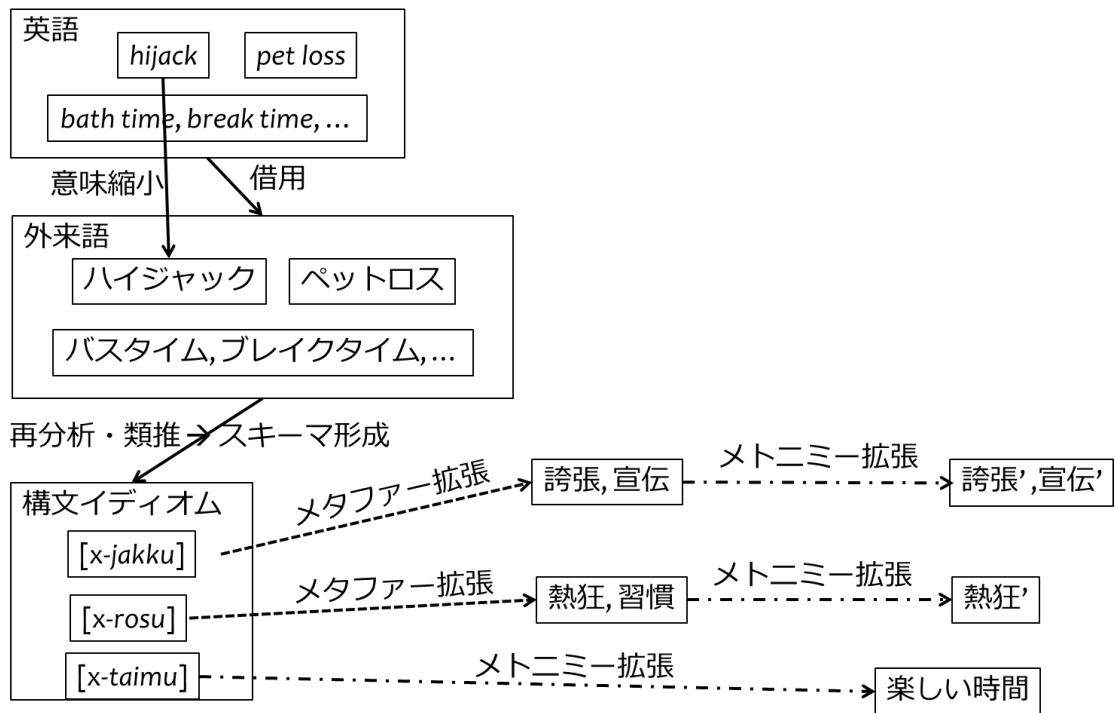


図 7.6 [x-jakku]、[x-rosu]、[x-taimu]の意味拡張の概括

これは意味および意味拡張経路を追究して得られた本研究の知見である (cf. Booi 2010)。例を用いて簡単に説明すると、「～タイム」が借用された時点でそれらの語に肯定的な意味のものが多かったため(たとえば、「バスタイム」)、その意味特徴が[x-taimu]に引き継がれた。スキーマ形成から意味拡張の流れは、語彙的定着 (nativization) のプロセスとも言える。また、語彙的定着が進み、日本語・日本文化に入り込むほど、文化固有フレームに根ざしたメトニミー拡張(・構文交替)が起こりやすい(たとえば、「(広告での) 電車ジャック」と「(電車の) 広告ジャック」)。[x-jakku]と[x-rosu]については、メタファーを通して誇張的な用法がなされ、それに伴いしばしば滑稽なニュアンスが生じた(たとえば、「ヘビの教室ジャック」)。

以降ではこれらのネットワークを生じさせる動機付けとなる心理的なメカニズムについて論じる。

## 7.2 認知的な観点からの説明：「発話のための思考」(thinking for speaking)、 「フォアラー効果」(the Forer effect)、 「自己奉仕バイアス」(self-serving bias)

ここでは、文化的フレームに関する議論を補完する認知プロセスについて議論する。文化的フレーム、およびそれらのメタファー的およびメトニミー的意味拡張の関係については、「これらの構文がどのように意味を得るか」という問いを通して答えた。本研究では、これらの借用された拘束形態素がもつ構文ネットワークのタイプと、文化的フレームがこれらのネットワークにどのように寄与するかを示したが、答えるべきもう一つの問いがある。それは、「なぜこれらの構文ネットワークがそうなっているのか」、ということである。以降では、本研究の結果を解釈するために、心理学の分野からより大きな理論的枠組みを提示する。

### 7.2.1 「発話のための思考」(thinking for speaking)：言語表現の使い分けに関する概念化

Horie and Occhi (2001) は、(2) のように「ゲットする」という英語からの借用動詞の認知言語学的観点からの分析を提示し、「ゲットする」は既存の和語や漢語の獲得動詞(例：得る，入手する)を使用する際に「話し手が獲得の方法を考慮しなければならないという必要性を乗り越え」<sup>65</sup>させ、「獲得のシナリオを記述するための新しい談話的戦略を提供する」<sup>66</sup>という観察を提供している (p. 29)。

---

<sup>65</sup> “override[s] the speaker’s necessity to consider the manner of acquisition” (Horie & Occhi 2001: 29).

<sup>66</sup> “provides a new discursive strategy for describing scenarios for acquisition” (Horie & Occhi 2001: 29)

- (2) (a) 欲しかった CD をついにゲットした。(手に入れた・買った)  
(b) 一生懸命バイトして、一万円ゲットした。(稼いだ・手に入れた)  
(c) 彼氏をゲットする[...] (つくる)

(Horie and Occhi 2001: 25-28)

Slobin (1996) の「発話のための思考」 (“thinking for speaking”) というのは、幼少期に確立され、それによって「成人の第二言語習得における (言語体系の) 再建築を極めてこうむりにくい」<sup>67</sup> (p. 89) ものである。日本語母語話者は「ゲットする」の借用により、「獲得」の手段・方法の選択制限による獲得動詞の選択に煩わされることから解放されたのである。Horie and Occhi (2001) はこのことを「(...)第二言語によって触発された遷移、すなわち「発話のための思考」からの遷移」と述べている<sup>68</sup> (pp. 30-31)。

Horie and Occhi (2001) の洞察に基づくと、[x-jakku]構文の有用性が部分的に説明できる可能性がある。以下の用例に示すように、他の動詞の代わりに[x-jakku]を使用することで、「乗っ取る」ための方法を言語的に表現する際の認知的負荷が軽減できる。具体的には、漢語・和語を用いて同様の乗っ取りの内容を表す際には、「何をどのように乗っ取ったか」ということを説明的に述べる必要があるが、この構文を用いれば、ひとこと「x-ジャック」というだけで必要な情報が表現できてしまう、ということである。

---

<sup>67</sup> “exceptionally resistant to restructuring in adult second language acquisition” (Slobin 1996: 89)

<sup>68</sup> “an L-2 inspired shift away from semantic and grammatical necessity to specify the manner of acquisition, a shift in ‘thinking for speaking’” (Horie & Occhi 2001: 30-31)



- (3) 日本の電波法では、電波ジャック防止のため、外国人による株保有を 22%までと規定されている。(cf. 電波の乗っ取り) (horemitakotoka.com)
- (4) 反日国家を持ち上げまくって電波ジャックしてる時点で政治的意図あるよね。(cf. 報道) (t-ny.net)
- (5) 大野君が電波ジャックするというので、朝 5 時に起き、「やじうまプラス」をつけっぱなしにしていたが、捕獲できたのは 7 時 50 分台のほんの数分。  
(cf. 出る・出演する) (fc2.com)
- (6) 山・・・山は確かに電波ジャックするよ！(cf. 邪魔する・妨げる) (fc2.com)
- (7) 総理交代（組閣人事）による電波ジャックで、短期的に支持率が上昇するポジティブ効果、と民主党が野党時代に批判してきた自民党がつかってきた同様の支持率上昇パラダイムを使ってしまったことで政権の唯一的意義を損ねてしまったことからの支持率の低下という長期的なネガティブ効果がどこでバランスするのか。(cf. 情報操作する) (grats.jp)

これに関連して、この認知的負荷を踏まえれば、金（2010）の事例研究の例も説明が可能である。すなわち、新聞の文脈での「トラブル」と「ケース」といった借用語は、対応する漢語・和語（「トラブル」の類義語：いざこざ・こぜりあい・ごたごた・摩擦・もめごと）（「ケース」の類義語：事例・場合・例）の使い分けに必要な詳細（これらは必ずしも記事の情報として明らかになっているわけでもなく、また必ずしも記事の内容として必要というわけでもない）を迂回

することが可能であり、それゆえそれらの借用語が重宝されるものと考えられる。

しかし以上の議論では[x-rosu]および[x-taimu]の意味拡張を説明できず、しかも多くの借用語（ゲットする、お楽しみタイム、など）が肯定的で楽しいイメージを喚起する一方で、「トラブル」などはそうではないということも説明できない。したがって、これに対処するために、さらに2つの認知的な分析枠組みを援用する。

以下以降では、心理学でよく知られている2つの認知プロセスを紹介して、借用語の意味拡張のプロセスを解釈できるより一般的な認知的な分析の枠組みを提示する。これらは、フォアラー効果（これらの外来語が文化的概念を意味とでもっている理由）および自己奉仕バイアスとして知られているもの（これらの外来語が肯定的、時には否定的な意味をもつ傾向がある理由）である。

### 7.2.2 フォアラー効果 (the Forer effect) : 借用形態素構文 (および借用語) が文化的概念を意味としてどのように獲得するか

借用語の獲得する意味を考察する上で有用な概念が、心理学分野の「フォアラー効果 (the Forer effect)」という概念である (Forer, 1949; Dickson and Kelly, 1985)。Carroll (2015) では「フォアラー効果とは、ある言明の集合について、それらがだれにでも当てはまりうるようなものであっても、それらを自分自身について非常に正確に表わしているものであると評価する傾向があることを指す」<sup>69</sup>とされている (日本語訳: 筆者)。この効果 (バーナム効果とも呼ばれる) はバートラム R. フォアラー (Bertram R. Forer) にちなんで名付けられた。フォアラーは

---

<sup>69</sup> “The Forer effect refers to the tendency of people to rate sets of statements as *highly* accurate for them personally even though the statements could apply to many people.” (Carroll 2015)

1949年に、学生に行った偽の性格テストの結果を示している論文（“The Fallacy of Personal Validation: A Classroom Demonstration of Gullibility”）を発表した。彼は「性格の評価テストは、行動における表示可能性という点では無意味であるような一般的な言葉で表現されうる、あるいは表現されている。あるいは、評価テストには「普遍的な有効性」があり、だれにでも適用される。」と述べている（p. 118）<sup>70</sup>。実際に行われた実験については、最初に、39人の学生がある課題をこなすよう指示された。一週間後、学生には自身の回答に基づく自分の性格のスケッチ（“sketch”）が返されると伝えられ、そしてその週に偽の性格診断が与えられた。それは主にニューススタンド占星術の本から取られた13の文章から成るものであった。これらの文章は（8）のようなものである。

- (8) 1. あなたは、人に好まれてあこがれの的になりたいという欲求があります。  
（You have a need for other people to like and admire you.）
2. ところが、自分自身に対しては批判的です。（You have a tendency to be critical of yourself.）
3. あなたには、使われていない能力がたくさんあり、それはまだ十分に活用されていません。（You have a great deal of unused capacity which you have not turned to your advantage.）
4. 性格に多少弱みはあるものの、たいていそれは埋めあわせることができます。（While you have some personality weaknesses, you are general able to compensate.）
5. あなたの性的嗜好が問題を引き起こしたときもある。（Your sexual

---

<sup>70</sup> “Personality evaluations can be, and often are, couched in such general terms that they are meaningless in terms of denotability in behavior. Or they may have ‘universal validity’ and apply to everyone” (Forer 1949: 118)

adjustment has presented problems for you.)

6. 外面はよく鍛錬され、自分をコントロールできるように見えますが、内面は心配性で自信にかけるきらいがあります。(Disciplined and self-controlled outside, you tend to be worrisome and insecure inside.)

7. 決断が正しかったのかとか、正しいことをしたのかどうかということで、くよくよ思いなやむときもあります。(At times you have serious doubts as to whether you have made the right decision or done the right thing.)

8. ある程度の変化や多様性を好み、規制や制限に縛られると不満がつります。(You prefer a certain amount of change and variety and become dissatisfied when hemmed in by restrictions and limitations.)

9. 何事も自分で考える自律的な人間だという自負もあります。人から何か言われても、十分な証拠がなければ納得しません。(You pride yourself as an independent thinker and do not accept others' statements without satisfactory proof.)

10. しかし自分を人にさらけ出すにしても、あまり率直になりすぎるのは賢明ではない、と気づいています。(You have found it unwise to be too frank in revealing yourself to others.)

11. 外向的で愛想がよく社交的になるときもあれば、内向的で用心深く控えめになるときもあります。(At times you are extroverted, affable, sociable, while at other times you are introverted, wary, reserved.)

12. あなたが抱いている望みのなかにはやや非現実的なきらいのものもあります。(Some of your aspirations tend to be pretty unrealistic.)

13. 安全性はあなたの人生における主要な目標の 1 つです。(Security is one of your major goals in life.)

(Forer 1949: 120; 日本語訳 (1~4 ; 6~12) : 小久保ら 2008: 214; 5, 13 : 筆者)

学生は0（まったく）から5（完全に）までの段階で「性格に関する記述があなたの性格の基本的な特徴を明らかにする程度」<sup>71</sup>に従って各文章を評価した（Forer 1949: 120）。平均スコアは4.26であった（小数点以下第2位まで四捨五入）。さらに、表7.1に示すように、項目の容認を「真」（true）、「偽」（false）、または「不確実」（uncertain）のいずれかに評価するよう指示した。

表 7.1 スケッチの項目のグループ容認

Response (回答)	Item Number (項目番号)												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
True	28	38	23	31	18	35	38	37	34	35	34	12	28
False	4	0	1	0	9	3	0	1	3	2	1	9	7
Uncertain	7	1	15	8	12	1	1	1	2	2	4	1	4

(Group acceptance of sketch items (Forer 1949: 122 (TABLE 3) から引用) )

これらの結果でわかるように、人間は曖昧な文に対して特定の意味を読み込む傾向があることがわかる。Forer (1949) は「普遍的に有効な文章は、個人の心理的データではなく、文化的に規定された集団の記述である」<sup>72</sup>と述べている (p. 118)。フォアラー効果の一般的な説明の1つは、人間が「経験から意味をくみとろうとする傾向」<sup>73</sup> (Carroll 2003: 147 ; 日本語訳 : 小久保ら 2008: 215) であるとされている。さらに興味深いのは、(8) および表 7.1 の項目からわかるよ

<sup>71</sup> “the degree to which the personality description reveals basic characteristics of your personality” (Forer 1949: 120)

<sup>72</sup> “a universally valid statement is a description of a cultural group rather than a personal psychological datum” (Forer 1949: 118)

<sup>73</sup> “to try to make sense out of experience” (Carroll 2003: 147)

うに、肯定的な項目は否定的な項目よりも高い割合で受け入れられる傾向がある。この相関関係は他の研究においても何度も追認されている (Dickson and Kelly 1985: 375; Macdonald and Standing 2002)。このような傾向が生じる理由は、人間は自分自身や自分の経験を肯定的に評価するような言明を受け入れやすいという傾向があるためである。これは通常、占い師が客に肯定的な占いをすることと同様の理由である。つまり、誰もどれほど自分が悪い人間であるかを尋ねるためにお金を払いたがらないからである。

フォアラー効果の認知プロセスと同様の形で、借用語の意味解釈が説明できる。まず、[x-rosu]の表現はあいまいであり、解釈可能な意味がたくさんある。これを理解するために、話者はその表現を自身のもつ経験や知識に照らし合わせる。そしてその中から最もありえそうだと思う解釈をその表現の意味とするのである。つまり、百科事典的知識と文化から成り立つ文脈の中で、人間が曖昧な性格テストに意味を与えることができるのと同様の方法で、恣意的に解釈するということである。

たとえば、ペットを飼ったことのある人は、「ペットロス」を経験したことがあるかもしれない。ただし多くの人は、「ペットロス」の感覚自体は想像することができかもしれないが、実際にそのような経験をしたことはない。このような「x-rosu」という表現を聞いた時、一般的に我々はそれを、自分が知っている物事に関連づけることで(類推的に)理解しようとする。たとえば、安室奈美恵のファンであれば、彼女のパフォーマンスをもう見られないのがどれほど辛いかを理解できるため、「安室ロス」を有意義な表現として用いることができる。つまり、我々は<ペットロス>のような抽象的な概念を自身の[x-rosu]が当てはまるような状況に照らし合わせて理解することで、具体的で有意義な意味を得るわけである。自身の人生において「x-rosu」表現に意味を与えるために、我々は

その表現を自分の知っているもの、より容易に関係付けられるものを指すのに用いるであろう。

### 7.2.3 自己奉仕バイアス (self-serving bias) : 評価性の理由

次に、自己奉仕バイアスという認知プロセスを紹介する。自己奉仕バイアスとは、一般に人間が「肯定的な結果は主に内在的に引き起こされたものと見なし、否定的な結果は主に外在的に引き起こされたものと見なす」<sup>74</sup>という傾向である (Sheppard, Malone, and Sweeny 2008: 895)。一部の研究者は以前、日本人は「自己高揚的」 (self-enhancing) ではなく「自己批判的」 (self-critical) であると主張していたが (Markus and Kitayama 1991 など)、最近の研究により、より厳密な実験条件の下では同様の自己奉仕バイアスが日本でも見られることが明らかになった (Kudo and Numazaki 2003)。Kudo and Numazaki では、日本の学生が偽の社会的感受性テスト (Social Sensitivity Test) を受けた実験について報告している。学生の回答とは無関係に、研究者は一部の参加者に、上位 20%に相当する社会的感受性をもっているということを示すようなスコアを与えた。他の学生は、下位の 20%にランク付けされるようなスコアを与えられた。その後、学生のテストでの出来に関してアンケート調査を行い、この調査に基づいて「能力」 (ability)、「努力」 (effort)、「タスクの難しさ」 (task)、「運の良し悪し」 (luck) の4つの属性を測定した (pp. 514-517)。Kudo and Numazaki では、「努力」と「運」について統計的に有意な結果を報告していない。ただし、「能力」と「タスクの難しさ」については、以下のように報告している。

---

<sup>74</sup> “view their positive outcomes as primarily internally caused, yet view their negative outcomes as primarily externally caused” (Sheppard, Malone, & Sweeny 2008: 895)

能力に関しては、成功条件の参加者は、自分のパフォーマンスが社会的感受性の真の程度をより正確に反映していると報告した。参加者は、能力の次元で自己奉仕的な帰属を行った。さらに、タスクの難易度に関しては、失敗条件の参加者は、成功条件の参加者よりもテストをより困難と評価し、失敗した人々によるより多くの外部的な帰属を示した。

(Kudo and Numazaki 2003: 518) <sup>75</sup>

さらに、上記で触れたことに言及して、Macdonald and Standing (2002) では、自己奉仕バイアスがフォアラー効果より優先され、誰にでも当てはまるような情報が参加者に与えられた際、それらが肯定的な言明であるほど、参加者はそれらを自分のこととして受け入れやすいということを示している (Macdonald and Standing, 2002)。

自己奉仕バイアスを借用語に適用すると、次のような説明がなされる。すなわち、ある出来事について（たとえば「お風呂に入ること」）、自分でそうすると決めた（つまり、内在的に引き起こされた）ものであれば、肯定的な意味合いを含む言葉で言い表し、その際に「お風呂タイム」のような借用語が使用される。一方、スケジュールや時間的期限などで決まったこと（つまり、外在的に引き起こされたもの）であれば、中立的または否定的な意味合いの言葉（たとえば、「お風呂の時間」）の方が使われやすい、ということである。7.3 節では認知言語学の構文形態論とフレーム意味論に加え、上記の心理学的知見を踏まえて借用語の説明を行う。

---

<sup>75</sup> “Regarding ability, the participants in the success condition thought that their performance more accurately reflected the true degree of their social sensitivity. Participants made self-serving attribution on the ability dimension. Furthermore, regarding task difficulty, participants in failure condition rated the test more difficult than did those in the success condition, indicating more external attribution by those who failed.” (Kudo & Numazaki 2003: 518)



### 7.3 総合的考察

以下では、フォアラー効果と自己奉仕バイアスを構文形態論とフレーム意味論の分析と組み合わせることで、日本語における借用語の一般的な理論的枠組みの説明を試みる。

借用語は、最初に借用される時、縮小化された特定の意味をもつ（3.1節の用法基盤モデル）。次に、類推（3.2.4節）に基づいた用例に基づくスキーマ（3.2節）が形成される。これらの新しい用例に既にユーモラスな語用論的意味が含まれている場合（自己奉仕バイアスを介して自分の生活環境に適用される場合）、新しい用例は創造的・文化的フレームのコンテキスト内で不確かなものを自分に関連づけるフォアラー効果により生産され続ける（[x-taimu]、cf. 「スタバる」（Tsujimura and Davis 2018）、 「ゲットする」 （Horie and Occhi 2001）、 など）。この語用論的な効果がない場合、[x-jakku]および[x-rosu]におけるメタファー的な拡張義の用法は、そのような効果の方向に傾かせ、カジュアル、あるいは楽しい感じがする意味に借用語を解釈させる（たとえば、「嵐のテレビジャック」はそのアイドルグループのファンには好ましいものとして理解される）。この段階では、借用語はスキーマ化され狭義の具体的な意味は薄れているが、日本語母語話者が文化的および創造的な意味をメトニミーによって割り当てることにより、借用語がより曖昧性のある意味をもつ。

一方、自己奉仕バイアスの逆の側面から見ると、借用した語彙素は、他人のことに関して用いられると、より否定的な意味合いを獲得する。たとえば、「嵐のテレビジャック」はそのアイドルグループが好きではない人にとっては不快なテレビ番組の長時間放送として理解されるであろう。また実際、これは金（2011）が「トラブル」と「ケース」で報告しているものでもある。これらの語彙素は新

聞で使用されており、他人の行動や条件を指している。金 (2011) は「トラブル」と「ケース」の新聞での使用法をそれぞれ「深刻・決定的な危機的事態に至る可能性を持って顕在化した不正常的な事態」と「(すでに起こった) 良くないコトガラ (=ケース) が〈多い／有る〉」と定義している。したがって、これらの「負の結果」(“negative outcomes”) は「外在的に引き起こされた」(“externally caused”) ものである。さらに、たとえば電車では「マナーを守りましょう」ということについて、またはテレビ番組などで「アカハラ」または「パワハラ」について議論されることがよくあるが、通常、これらの言葉は他人を非難するために用いられるものである。これらの言葉には肯定的な意味合いはないからである。つまり、単語が主に他人の行動を指すために使用される場合、自然に負のニュアンスを意味するのである。

したがって、日本語における借用語では、単語が自分自身 (または自己グループ) に対して使用されるか、他者に対して使用されるかによって、意味拡張には双極性 (正・負) が生じるということである。これらの関係を図 7.6 に示している。

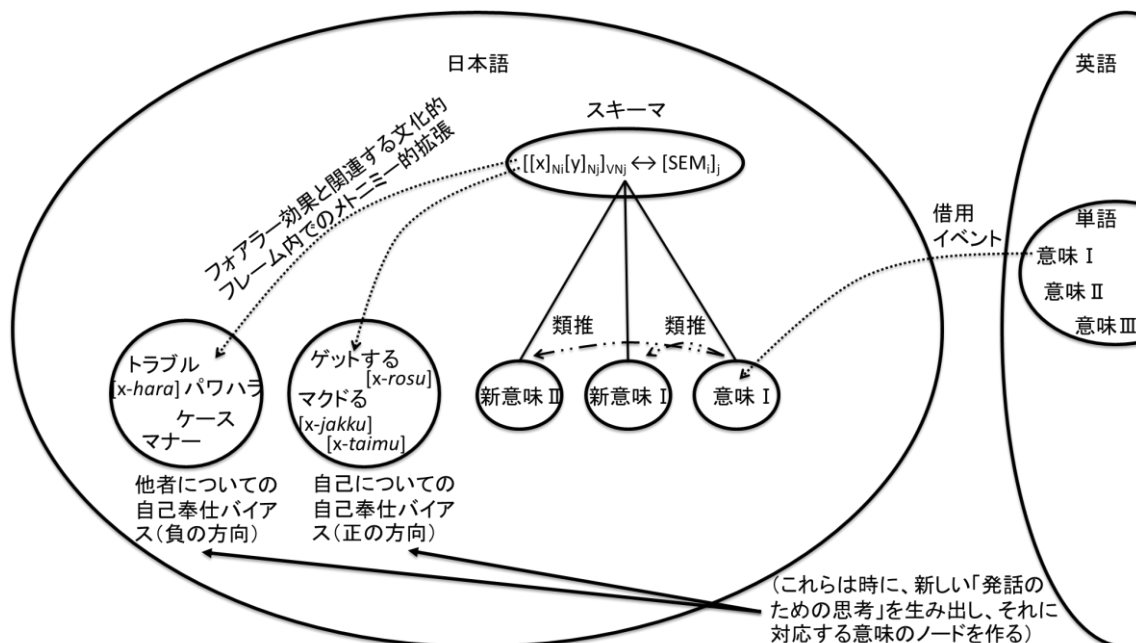


図 7.7 借用語の意味解釈のプロセス

つまり、日本語における借用語は、フォアラール効果の認知プロセスと自己奉仕バイアスを使用して説明できる。

結論として、構文ネットワーク（およびおそらく一般的な借用語）での意味は、1) フォアラール効果（文化を通し、あいまいな単語がいくつかの意味で解釈される）、および2) 自己奉仕バイアス（肯定的なことや成功などは自分自身に起因する（内部要因）が、否定的なことや失敗などは他者に起因する（外部要因））の組み合わせである。これにより、3) 新しい「発話のための思考」ができ、この方法では、（「ゲットした」「x-ジャックした」などの）行為の様態を指定する必要はない。

## 第8章

### 結論および今後の展望

本研究では、構文形態論をフレーム意味論と組み合わせ、借用拘束形態素を構文としてとらえ、その構文ネットワークによって当該現象の多義性とメタファー的およびメトニミー的な意味拡張の分析を示した。これは、Booij (2010) の構文形態論の分析に新しい観点をもたらすものである。特に、以下の2つのリサーチクエストションについて検討した。

- 1) 日本語に借用された拘束形態素はどのような構文ネットワークを示すか。
- 2) 文化的フレームは日本語における借用拘束形態素の構文ネットワークの形成にどのように貢献しているのか。

本研究の対象である[x-jakku]、[x-rosu]、[x-taimu]の3つの構文に関する結論は次のとおりである。

- I. [x-jakku]構文の意味拡張は「電波ジャック」の意味の変更を介して行われ、また《Japanese\_train》(《日本の電車》) フレームに関連したメトニミー的拡張によっても生じた。
  
- II. [x-rosu] 構文は 《Japanese\_childrearing》 (《日本の子育て》) 、《Japanese\_marriage》 (《日本の結婚》) 、および《Japanese\_fan》 (《日本のファン》) という意味フレームに関連するメタファーに基づく2つの意味拡張によって生じた。
  
- III. [x-taimu] 構文は 《日本の家族・子供に関する活動》 (《Japanese\_family/children\_activity》) フレーム、《プライベートの時間》 (《Japanese\_me\_time》) フレーム、および《日本の食事》(《Japanese\_eating》) フレームの3つの文化的フレームに関連して生産的である。

さらに、第7章では、これらのネットワークに意味拡張が生じる過程とそれに伴う理由を詳しく取り上げた。具体的には、文化的フレーム、およびそれらのメタファー的およびメトニミー的意味拡張の関係について、これらの構文がどのように意味を得るかという観点からの問いに答えた。この知見は、構文ネットワークに意味拡張を想定しない Booij (2010) の枠組みでは得られないものである。さらに、なぜこれらの構文ネットワークがその意味を得るのかについて、「発話のための思考 (thinking for speaking) 」および心理学の分野における「フォーラー効果 (the Forer effect) 」・「自己奉仕バイアス (self-serving bias) 」という理論的枠組みを提示した。

これらの借用語とその構文ネットワークには本研究で扱った以外の特徴があるかもしれないが、その解明は今後の研究を待ちたい。また、本研究では英語から借用された3つの借用拘束形態素について詳細に分析したが、将来的には、借用拘束形態素の構文の一般的特性がより明確になることが期待される。

今後の研究が本論文での分析を裏付けるか、それとも矛盾するかは、まだわからないが、いずれにせよ、借用に関する分野での進歩は歓迎される。より一般化された観点から、本研究が借用語の機能および借用された拘束形態素が日本語で果たす特別な役割(そのようなものがもしあるならば)の分析に貢献することを期待する。そのためには、借用形態素と日本語本来の形態素の体系的な比較考察が必要である。

将来の研究としては、構文(または借用語)の意味拡張に関するよりよい理解のために通時的データに基づく研究が必要になってくると考えられるが、この点に関しては本研究の弱点となっている。現時点では、このような通時的な分析を実行するための公に利用可能なコーパスはない。このようなコーパスの開発は歓迎すべきものとなるであろう。

## 参考文献

- 天野 馨 (2018, September 12) データで見る「ニッポンの独身者は誰と暮らしているのか」－「結婚のメリットがわからない」独身者の世帯(居場所)のカタチとは－. [https://www.nli-research.co.jp/files/topics/59601\\_ext\\_18\\_0.pdf?site=nli](https://www.nli-research.co.jp/files/topics/59601_ext_18_0.pdf?site=nli) (最終アクセス日：2020年02月14日)
- Apresjan, J. D. (1974). Regular Polysemy. *Linguistics*, 142, 5–32.
- Arcodia, G. F. (2011). A Construction Morphology account of derivation in Mandarin Chinese. *Morphology*, 21, pp. 89-130. DOI:10.1007/s11525-010-9173-2
- Aronoff, M. (2007). In the beginning was the word. *Language*, 83 (4), 803–830.
- 浅尾仁彦 (2013) 「第2章 認知形態論」山梨正明・吉村公宏・堀江薫・靱山洋介 (編) 『認知日本語学講座』第2巻. くろしお出版. pp. 53-87.
- Barlow, M., & Kemmer, S. (2000). *Usage-Based Models of Language*. Stanford, CA: Center for the Study of Language and Information Publications.
- Barðdal J. (2008) *Productivity: Evidence from case and argument structure in Icelandic*. John Benjamins: Amsterdam.
- Booij, G. (2010) *Construction Morphology*. Oxford, Oxford University Press.
- Booij, G. (2012). *The Grammar of Words: An Introduction to Linguistic Morphology*. New York, NY: Oxford University Press.
- Booij, G. (2013). Morphology in Construction Grammar. In *The Oxford handbook of Construction Grammar*, eds. Th. Hoffmann & G. Trousdale. Oxford: Oxford University Press, 255-273..
- Booij, G. (Ed.) (2018). *The Construction of Words: Advances in Construction Morphology*. Volume 4. Springer.

- 陳奕廷・松本曜 (2018) 『日本語語彙的複合動詞の意味と体系 コンストラクション形態論とフレーム意味論』 ひつじ書房.
- Carroll, R. T. (2003). *The skeptic's dictionary: A collection of strange beliefs, amusing deceptions, and dangerous delusions*. Hoboken, NJ: Wiley.
- Carroll, R. T. (2015, October 27). The Skeptic's Dictionary. Retrieved January 16, 2020, from <http://skepdic.com>.
- Croft, W., & Cruse, D. A. (2004). *Cognitive Linguistics*. Cambridge, England: Cambridge University Press.
- Dickson, D. H., & Kelly, I. W. (1985). The 'Barnum Effect' in Personality Assessment: A Review of the Literature. *Psychological Reports*, 57, 367-382.
- Fillmore, C. J. (1982). Frame Semantics. *Linguistics in the Morning Calm*. The Linguistic Society of Korea (Eds.), 111-137, Seoul, Hanshin.
- Fillmore, C. J. & Baker, C. (2010). A Frames Approach to Semantic Analysis. *The Oxford Handbook of Linguistic Analysis*, ed. by B. Heine & H. Narrog, 313-339, Oxford, Oxford University Press.
- Fillmore, C. J. & Petrucci, M. RL. (2003). Framenet Glossary. *International Journal of Lexicography*, 16(3), 359-361.
- Forer, B. R. (1949). The Fallacy of Personal Validation: A Classroom Demonstration of Gullibility. *Journal of Abnormal Psychology*, 44, 118-121.
- Goldberg, A. E. (2006). *Constructions at Work: The Nature of Generalization in Language*. New York, NY: Oxford University Press, USA.
- Goldberg, A. E. (2019). *Explain Me This: Creativity, Competition, and the Partial Productivity of Constructions*. Princeton, NJ: Princeton University Press.



- Hamlitsch, N. (2014) 『和語・漢語に相当する意味をもつ外来語の機能－コーパスを利用した形態論的アプローチ』．名古屋大学修士論文．
- Hamlitsch, N. & Horie, K. (2015). A usage-based approach to abstract loanwords in Japanese: A case study of *taimu*. *Papers from the 15th National Conference of the Japanese Cognitive Linguistics Association*, 15, 79-89. [ハムリッチ ネイサン・堀江 薫 (2015) 「日本語における抽象的な意味をもつ外来語に関する用法基盤的アプローチ『タイム』を事例に－」, 『日本認知言語学会論文集』, 第 15 卷, 79-89. ]
- Hamlitsch, N. & Horie, K. (2017). Construction Grammar and Frame Semantics Meet Morphological Borrowing: A Case Study of the Borrowed Bound Morpheme – *jaku* in Japanese. *Proceedings of the Forty-First Annual Meeting of Kansai Linguistic Society (KLS)*, 37, 133-144. [ハムリッチ ネイサン・堀江 薫 (2017) 「構文文法とフレーム意味論の視点から見た形態的借用：拘束形態素『－ジャック』を例に」, 『KLS Proceedings』, 第 37 卷, pp 133-144. ]
- Hamlitsch, N. (2020). A constructional approach to borrowed bound morphemes in Japanese: With an emphasis on Cultural Frames. (米倉よう子 ほか 編) 『吉村公宏先生退職記念論文集』 (pp. 219-232) . 開拓社：東京
- 林 四郎 (1982) 「臨時一語の構造」 『国語学』 131、国語学会
- Hoffer, B. (1980). English Loanwords in Japanese: Some Cultural Implications. *Language Sciences*, 12 (1), 1-21.
- Horie, K., & Occhi, D. (2001). Cognitive Linguistics Meets Language Contact: A Case of Getto-suru in Japanese. In K. Horie & S. Sato (Eds.), *Cognitive-Functional Linguistics in an East Asian Context*. Tokyo: Kurosio publishers, 13-33.
- Irwin, M. (2011). *Loanwords in Japanese*. Amsterdam: John Benjamins Pub.

- Iwata, S. (2008). *Locative alternation: A lexical-constructional approach*. Amsterdam: John Benjamins. DOI: 10.1075/cal.6
- Jackendoff, R. (1990). *Semantic Structures*. Cambridge, MA: MIT Press.
- Jackendoff, R. (1997). *The Architecture of the Language Faculty*. Cambridge, MA: MIT Press.
- Jackendoff, R. (2002). *Foundations of Language: Brain, Meaning, Grammar, Evolution*. New York, NY: Oxford University Press, USA.
- Jackendoff, R. (2010). *Meaning and the Lexicon: The Parallel Architecture 1975-2010*. New York, NY: Oxford University Press.
- Kageyama, T. (1982). Word formation in Japanese. *Lingua*, 57, 215-258.
- Kageyama, T. (2009). Isolate: Japanese. In R. Lieber & P. Stekauer (Eds.), *The Oxford Handbook of Compounding* (pp. 512-526). New York, NY: Oxford University Press.
- Kemmer, S., & Barlow, M. (2000). Introduction: A usage-based conception of language. In M. Barlow & S. Kemmer (Eds.), *Usage-based models of language* (pp. vii–xxviii). Stanford, CA: CSLI.
- Kilgarriff, A., Rychlý, P., Smrž, P., & Tugwell, D. (2004). Itri-04-08 the Sketch Engine. In G. Williams & S. Vessier (Eds.), *Proceedings of the 11th EURALEX International Congress*, 105-116.
- Kilgarriff, A., Baisa, V., Bušta, J., Jakubíček, M., Kovvář, V., Michelfeit, J., Rychlý, P., & Suchomel, V. (2014). The Sketch Engine: Ten Years On. *Lexicography*, 1 (1), 7-36.
- 金 愛蘭 (2011) 「20 世紀後半の新聞語彙における外来語の基本語化」『阪大日本語研究』 1-175.

- 児玉一宏・野澤元 (2009) 『言語習得と用法基盤モデル: 認知言語習得論のアプローチ』 (認知言語学のフロンティア 6) 研究社.
- Kudo, E., & Numazaki, M. (2003). Explicit and direct self-serving bias in Japan. Reexamination of self-serving bias for success and failure. *Journal of Cross-Cultural Psychology*, 34(5), 511–521. <https://doi.org/10.1177/0022022103256475>
- Lakoff, G. (1987). *Women, Fire, and Dangerous Things*. Chicago, IL: University of Chicago Press.
- Lakoff, G. (1999). *Philosophy In The Flesh*. New York, NY: Basic Books.
- Lakoff, G., & Johnson, M. (1980). *Metaphors We Live By*. Chicago, IL: University of Chicago Press.
- Langacker, R. W. (1987). *Foundations of cognitive grammar. Vol. 1: Theoretical Prerequisites*. Stanford: Stanford University Press.
- Langacker, R. W. (1988). A usage-based model. In B. Rudzka-Ostyn (Ed.), *Topics in Cognitive Linguistics* (Current Issues in Linguistic Theory 50), pp. 127–61. Amsterdam: Benjamins.
- Langacker, R. W. (1991). *Foundations of Cognitive Grammar. Vol. 2: Descriptive application*. Stanford: Stanford University Press.
- Langacker, R. W. (2000). A dynamic usage-based model. In M. Barlow & S. Kemmer (Eds.), *Usage-Based Models of Language*, pp. 1–63. Stanford, CA: CSLI Publications.
- Lehrer, A. (1978). Structures of the Lexicon and Transfer of Meaning. *Lingua*, 45, 95–123.

- Loveday, L. J. (1996). *Language contact in Japan: A socio-linguistic history*. Oxford: Claredon Press.
- MacDonald, D. J., & Standing, L. G. (2002). Does self-serving bias cancel the Barnum Effect? *Social Behavior and Personality: An International Journal*, 30, 625-630.
- Markus, H. R., & Kitayama, S. (1991). Culture and the self: Implications for cognition, emotion, and motivation. *Psychological Review*, 98, 224-253.
- Michaelis, L. A. (2004). Type shifting in construction grammar: An integrated approach to aspectual coercion. *Cognitive Linguistics*, 15(1), 1-67.
- 村中 淑子 (2012) 「接尾辞「チック」について : 「CD-毎日新聞」 (1991-2005) および BCCWJ を用いて」 『国際文化論集』 (45) :115-144.
- 村中 淑子 (2014) 「外来語接尾辞「ライク」 (橋内武教授退任記念号)」 『国際文化論集』 (49) :67-88.
- 野村雅昭 (1977) 「造語法」 『岩波講座日本語 9 子語彙と意味』 岩波書店 245-284.
- 野村雅昭 (1982) 「新語辞典の外来語」 『言語生活』 筑摩書房 366:42-49.
- Nunberg, G. (1995). Transfers of Meaning. *Journal of Semantics*, 12, 109-132.
- 小久保温・高橋信夫・長澤裕・福岡洋一訳 (2008) ロバート・トッドキャロル. 懐疑論者の事典 (下). 楽江社.
- 大岩 秀紀 (2006) 「Jackendoff の三部門並列言語構造による与格交替の分析」 『長崎外大論叢』, 第 10 号, pp. 61-76.
- Rohde, A., Stefanowitsch, A., & Kemmer, S. (2000). Loanwords in a Usage-Based Model. *LAUD Series B*, No. 296.
- Shepperd, J.A., Malone, W.A., & Sweeny, K. (2008). Exploring causes of the self-serving bias. *Social & Personality Compass*, 2, 895-908.

- Shibatani, M. (1990). *The Languages of Japan*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Shimada, M. (2003). *Functions of western loanwords in Japanese newspaper articles* (Unpublished master's thesis). University of British Columbia, Vancouver.
- Slobin, D. I. (1996). From 'thought and language' to 'thinking for speaking'. In J. Gumperz & S. Levinson (Eds.), *Rethinking linguistic relativity*. Cambridge: Cambridge University Press, 70-96.
- Stanlaw, J. (2004). *Japanese English: Language and culture contact*. Hong Kong: Hong Kong University Press.
- 辻 幸夫 [編] (2003) 『新編 認知言語学キーワード事典』 東京：研究社.
- Tsujimura, N. & Davis, S. (2018). Japanese Word Formation in Construction Grammar. In G. Booij (Ed.), *The Construction of Words. Advances in Construction Morphology*, 373-398. Leiden, Springer.
- Takashi, K. (1990). *A functional analysis of English borrowings in Japanese advertising: Linguistics and sociolinguistic perspectives* (Unpublished doctoral dissertation). Georgetown University, Washington, D.C.
- Warren, B. (1990) The Importance of Combining Forms. In W. U. Dressler, H. C. Luschützky, O. E. Pfeiffer & J. R. Rennison (Eds.), *Trends in Linguistics. Studies and Monographs 49: Contemporary Morphology*, 111-132, Berlin, Mouton de Gruyter.

使用コーパス

朝日菊蔵 II ビジュアルコーパス (database.asahi.com)

中日・東京新聞データベースコーパス (ace.cnc.ne.jp)

Japanese Web 2011 corpus コーパス (Sketch Engine, sketchengine.eu)

筑波大学・国立国語研究所・Lago 言語研究所『NINJAL-LWP for TWC』

(<http://nlt.tsukuba.lagoinst.info>)

国立国語研究所と Lago 言語研究所が開発した『NINJAL-LWP for BCCWJ』

([nlb.ninjal.ac.jp](http://nlb.ninjal.ac.jp))

国立国語研究所『太陽コーパス—雑誌「太陽」日本語データベース』（国立国語

研究所資料集 15）博文館新社 ([http://www.hakubunkan.co.jp/gengo/taiyoC.](http://www.hakubunkan.co.jp/gengo/taiyoC.html)

[html](http://www.hakubunkan.co.jp/gengo/taiyoC.html))

辞書・辞典類

ジャパンナレッジ（2001-2020）『日本大百科全書』（ニッポニカ）（オンライ

ンデータベース）入手先<ジャパンナレッジ、<https://japanknowledge.com/>

[index.html](https://japanknowledge.com/index.html)>

北原 保雄 編（2010）『明鏡国語辞典』第二版、大修館書店

近藤安月子・小森和子編（2012）『日本語教育事典』初版発行、研究社

新村 出著・編集（2008）『広辞苑』第六版、岩波書店

## 付録 1 : BCCWJ コーパスから抽出した [x-jakku] の用例

次の 8 つの文は BCCWJ コーパスで抽出した 8 つの異なり語を示している。コーパスに複数の延べ語が存在する場合でも、1 つの代表的な延べ語のみ取り上げられている。

図 4.1 に示されている構文に準ずる [x-jakku] 構文の事例のタイプ :

- (1) これらの組織は、その後災害事案にとどまらず、バスジャック事件、全日空機ハイジャック事件でも経験を積んできている。(BCCWJ, 2001)
- (2) 日本としてはたとえ可能性はきわめて少いとはいえ、テロ支援国家や国際テロ組織による核ジャックの企てや、海難事故など環境破壊の危険性に備えて、海上自衛隊の平和利用をふくめ海上保安庁の海上警察力の最大限の運用による「マキシマム・セキュリティ」と「セイフティ」措置に万全を期すべきだろう。(BCCWJ, 1992)
- (3) 彼の演じるローガンは、別名アイズ・オンリーというサイバー・ジャーナリストで、電波ジャックをして政府の腐敗と戦う理想主義者。(BCCWJ, 2002)
- (4) 「犯人たちは、今度の列車ジャックを、楽しんでいるんじゃないかと思ったんです」と、早苗はいった。(BCCWJ, 2004)
- (5) 事件の被害者、警官、車の警報装置のセールスマンたち、そしてわが母がわ

たしのカージャックと車泥棒の記事に応えて残していったメッセージが、プリントアウトとなってえんえんと出てきた。(BCCWJ, 1997)

- (6) 一月二十日。父親が死ぬのではないかという心配と怖れから、アンディ・バラチェックが、トラックジャックの一味だとトムに連絡してくる。答弁の取引で罪を軽くしてもらうのが狙い。(BCCWJ, 2002)

図 4.1 に示されている構文に準じない [x-jakku] 構文の事例タイプ：

- (7) 某押されてるグループ、今日、明日と主演のドラマが始まるからほとんどI Vジャック状態だというじゃありませんか！(BCCWJ, 2008)

- (8) とうとう、タケシたちは、ろうかへにげだした。「黒へビの教室ジャックだ」みんなが、青ざめた。(BCCWJ, 2003)



## 付録 2 : NLT コーパスから抽出した [x-jakku] の用例

筑波ウェブコーパスのウェブサイト (<http://nlt.tsukuba.lagoinst.info/>) ではコーパスのデータが 2012 年 1 月に様々なウェブサイトから収集されたと記載されている。NLT のウェブサイトによると、「URL の収集には、Yahoo!ウェブ検索 API を利用しました。1 タプル当たりで収集する URL 数は 10 ページとし、2012 年 1 月初旬から下旬にかけて計 500 万 URL を収集しました。重複した URL を削除した URL 総数は約 3 割減の約 350 万件になりました」、とのことである。このため、BCCWJ からのデータとは異なり、個々の文には独自の年時情報がない。代わりに、各用例の後ろに括弧で出典の見出し情報を太字で含めた。次の 35 の文は NLT コーパスで抽出した 35 の異なり語を示している。コーパスに複数の延べ語が存在する場合でも、1 つの代表の異なり語のみが取り上げられている。

図 4.1 に示されている構文に準ずる [x-jakku] 構文の事例のタイプ :

- (1) 同じ街に、10 日ほどいたため、けっこう現地の人と仲良しになり、楽しく過ごせました。バスジャックにあっても、もう一度行きたいと思っています。帰国後保険会社に請求したのは、現金を除き 13 万ほど。(グアテマラで民間のバスがバスジャックされ、乗っつい - 中南米・カリブ - 教えて! goo)
- (2) ケニアでは、カージャックが多かったです。(素敵な時間を、LEVIN と共に。: 目の前で車上荒しを目撃!)
- (3) ジョン Q は、たまたまその場に居合わせた数名の医師、職員、患者などを「人

質」にとって、病院の一角に「たてこもり」、「病院ジャック」となったわけだ。(映画評論 ジョンQ)

(4) テレビジャック…できればいいんですけどね。でも、なるべくなら合法的にお花畑の連中の目を覚ましたいものです。(そなたが来るのを待っておった大阪反民主党デモ)

(5) 六本木ヒルズをモデルにしたような地上 50 階地下 5 階建ての高層ビル、“ウインドシア六本木”。そこで突然に起きた事件は、何とビルジャック！(読書のおと (福田和代作品のページ))

(6) 現象的には「脳ジャック」という形で、いつもなにか独り言をつぶやいたり、見えない空間に向かって話しかけたり、突然にプツンときて異常な行動に走る、といった状態です。(中矢伸一 真正日本神道)

(7) そして視界ジャックの方法を教えてもらおう。目をつぶって精神を統一すると人の視界を一緒になって見れる能力で、屍人がどこを見て、どこを歩いているかを、確認できるから、それで逃げるのだ。(ストーリーを教えてもらおうスレ 暫定 Wiki - SIREN)

(8) 六本木ヒルズをモデルにしたような地上 50 階地下 5 階建ての高層ビル、“ウインドシア六本木”。そこで突然に起きた事件は、何とビルジャック！(読書のおと (福田和代作品のページ))

- (9) たしかに、方法としては、まるでゲームのようなバーチャル電車ジャックではあるんですが、目的がはっきりしすぎているためか、どうもゲーム感覚というわけにはいかなかったようです。(6月15日放送)
- (10) パソコンを乗っ取る「ブラウザジャック」にご注意ください！(パソコントラブル解決したい！PC 便利機能などの紹介サイト: パソコントラブル基礎の基礎 | Windows の便利機能のシステムツールを使い倒そう！)
- (11) しかし、牟田がSAZから奪った鞆は電車内に取り残され、遺失物として処理されてしまう。日下は鞆を取り戻すため、コントロールセンターの回線に侵入し、偽装列車ジャックを実行する。(古畑任三郎事件ファイル-episode3738/最も危険なゲーム)
- (12) バイオテロや原発ジャックなどによる卑劣なテロリストの要求を断固拒否するためにも、第三次オイルショックや大規模災害に備えるためにも、国を挙げて非常事態に備えた備蓄が急務です。(山村武彦の提言)
- (13) 園児全員招待なんて、子ども以上にママ集団が披露宴ジャックをするので、呼ぶのはやめていただきたいものです。(「幼稚園先生の結婚式に呼ばれなかった娘」のまとめ-分析小町)
- (14) この時に寢室のほうを向いておくとなおさらベスト。見つかったらすぐに寢室へ向かい、押し入れに隠れ、屍人3を視覚ジャック。(春海1)

- (15) こんなことでは実際に銀行ジャックなどの人質事件がおこった場合、市民は警察を頼ることができなくなってしまうことだろう。(映画評論 ジョン Q)

図 4.1 に示されている構文に準じない [x-jakku] 構文の事例のタイプ：

- (16) 映画公開日の前日には、電波ジャックとあって、TBS の全情報番組に映画の出演者の方をゲストで出させていただくのですが、「ハナミズキ」(10) のときには、全情報番組のプロデューサーとの打ち合わせ、出演者のみなさんの楽屋取りやアテンドもふくめ、すべての調整をやらせていただきました。(第 6 回 飛躍するクリエイター 小野原 正大氏 | VILLAGE CAFE | クリーク・アンド・リバー社 ~CREATIVE VILLAGE~)
- (17) 楽しいキャンペーンでした。MC：昨日も一日、一緒にテレビジャックをしましたが、疲れ知らずですね。(東宝 映画トピックス)
- (18) 広告主とシネマ振興会の関連性を明確にします。第 1 弾として、3 月 20 日から、特別協賛をいただいた株式会社サンシャインシティによるシネマジックを実施しています。(池袋シネマ振興会 ホームページ)
- (19) そして「勝利の方程式」とばかりに、ドラマの映画化で主演俳優たちによるメディアジャックを展開、というお決まりのスタイル。(くまちゃん：映画と暮らす日々：政治経済)

- (20) ブログを借りていわせてもらいました。ブログジャックをしてしまいました。藤原さんすみません。(光回線整備計画 | 藤原義正 活動報告)
- (21) 一種の「番組ジャック」「電波の私物化」と言えるかもしれない。
- (22) これらを組み合わせた駅ジャック広告は、非常に訴求性の高い広告です。  
(株式会社 NKB : たくさん人を集めたい)
- (23) 1992 年度と 1995 年度に助成しています。写真は、久留米市庁舎で行われた「市庁舎ジャック」です。(公益財団法人 二又教育文化振興奨学会)
- (24) 『わたし出すわ』がカフェジャック！！ わたし出すわオリジナルメニューも！！ (映画『わたし出すわ』応援団さんの画像一覧/ウェブリブログ)
- (25) 今後、世界の主要大学のキャンパスが中国人留学生によって占拠されるという予測も極めて現実的だ。中国の学生による世界のキャンパスジャックは、「中国、恐るべき」とも言えるが、逆に自国内にそれだけの教育能力がない大国というのも悲しい。(日中共通の悩みは「フライデント (学生流出)」 | ODA ジャーナリストのつぶやき | 見る・読む・楽しむ - JICA)
- (26) 今日は亀有 10 スクリーンジャックということで、MOVIX 亀有にあるすべてのスクリーンでみなさんにあいさつをさせて頂きました！ とっても幸せな気持ちです！

- (27) このポスタージャックを成功させたのが、新聞広告のさまざまな局面での使い方だ。(新聞のメジャー化機能：adv.yomiuri)
- (28) 広報部は、国民への広報手段として“ラジオジャック”、“冊子スマイル”などを手がけています。(静岡県歯科医師会|会長挨拶)
- (29) 『M:I:III』では新幹線の貸切や、お台場ジャックなどで日本を沸かせたが、果たして今回の特別ミッションは一体何なのか！？(トム・クルーズ来日で史上最大の4つのミッションを遂行！『ミッション:インポッシブル/ゴースト・プロトコル』 | HotTrash.com @nifty 映画)
- (30) 余談ですが総武線の10両目は女性専用車両なので、女性をターゲットにした広告ジャックが時々あっておもしろいと思います。(HUAS BLOG -法政広研公式ブログ-：57期)
- (31) そうやって制作元の東映に「ネタを売って、金儲け」したり、メディアを操ることで創価や右翼極道の私物化し、そいつら冥利の番組だらけにしていたのだ。でなくても創価の放送業界ジャックは有名な、しかし報道にされにくい、逸話だった。ヤクザも同じことをやっていた。んで東映は右翼系極道系の企業だ。きょうの青梅市内の線量計測も、キリスト教信者が妨害してきたし…きょうは、政府がカルト宗教を動員して追い込みをかけてきた日と言うことか。(国家的組織的追い込み被害 2011 無線通信技術での集団洗脳...人格改造と人体操縦)

- (32) 飲食店の多い道なので、ぐるなびが看板ジャック。(写真 62 枚) 仙台市の  
歓楽街 国分町通り・虎屋横丁・稻荷小路の様子)
- (33) そして、日曜は着物ジャックの日。(Surya さんのかんざし。あと、着物の  
快適な着方が知りたい今日この頃。の巻。 : かんざし檸檬の檸檬日誌)
- (34) 3つの記事を私だけで担当し、紙面の7割を1人で埋め尽くしました。  
いわば(森ゾー)による紙面ジャックです!(2011年最後の「ALL  
ABOUT」はロンブー淳! AKB48私服サプライズは、元気っ子ゴル  
ファー、山内鈴蘭! : popstyle ブログ : エンタメ : YOMIURI ONLINE (読  
売新聞))
- (35) 映画『けいおん!』副都心ジャックも開催!(映画けいおん!  
GO!GO!FUKUTOSHIN ジャック~池袋・新宿・渋谷~)

付録3：朝日菊蔵Ⅱビジュアルコーパス、中日・東京新聞データベースコーパスから抽出した [x-jakku] の用例

電車ジャック：

(1) “迷犬ラッシュ” JR相模線 電車ジャック

十一日午前七時半ごろ、神奈川県海老名市のJR相模線海老名駅で、橋本発茅ヶ崎行き上り普通電車（四両編成）二号車に体長一メートルの犬が乗り込んできた。乗務員が降ろそうと近づいたところ、興奮してほえたため約三十人の乗客が別の車両に退避。（中日、1996）

(2) モデルたちが電車ジャック？ 東京と大阪に拠点を置くデザイナー養成学校が十二日午後、JR山手線の車両を借り切り、ファッションショーを開いた（朝日、2000）

(3) 電車内の広告スペースを丸ごと埋める「電車ジャック」への反応に近い。表紙全体を「オフィス」のテーマカラーにしたり、「オフィス」のロゴを入れたり。（朝日、2006）

トレインジャック：

(4) 首都圏の地下鉄で見られる広告の手法“トレインジャック”を取り入れた、いわば“バスジャック”。（中日、1999）

(5) 駅から徒歩7分の同大は、TX20駅に広告を出すことや、電車の中づり広告を全部を買い取る「トレインジャック」も検討している。（朝日、2004）



- (6) 広告貸し切り電車（トレインジャック）は昨年春から山手線で始めたが、県内の宿泊客数の減少傾向が続いていることから、今回初めて地下鉄にも「戦線拡大」した。（朝日、1997）
- (7) 県を含む北東地域5県（福島、茨城、宮城、山形）は来月、地下鉄丸ノ内線の電車1編成（6両）の中刷りなどすべての広告スペースを栃木・福島地域の宣伝で埋め尽くす「トレインジャック」と呼ばれる広告の手法でPRする。（朝日、2002）
- (8) また、観光立県推進事業のうち、首都圏の列車に観光広告を出す「トレインジャック」の予算は四千万円。（朝日、1996）

広告ジャック：

- (9) 全日本空輸（ANA）は、名古屋鉄道の新名古屋駅と金山駅構内を十一日から約五十日間、自社広告で埋め尽くす“広告ジャック”を展開する。（中日、2005）
- (10) 広告事業は、プラズマディスプレイ、テーブル、ベンチといったあらゆるSAの設備を使って展開。SA内の広告すべてをスポンサー一社が独占する「広告ジャック」も検討している。（中日、2006）
- (11) 駅舎に「大同」の文字がずらりー。名鉄常滑線大同町駅（名古屋市南区大同町）で、大同特殊鋼とグループ九社、支援関係にある近くの大同工業大

学と大同高校が構内を広告で埋め尽くす“広告ジャック”を展開している。

(中日、2006)

(12) これまでの地下鉄広告の最長は、東京メトロ新宿駅の八十メートルで、面積も記録を更新する。一社が独占する“広告ジャック”も可能という。(中日、2006)

(13) ポスターとコピーの最優秀作品は東京都が J R 中央線や都営新宿線を広告ジャックした中づくり広告としても使用。(朝日、2006)

(14) 都が実施する J R 中央線の広告ジャックなど、交通広告にそれぞれ使用される。(朝日、2006)

(15) 協会は東京と埼玉を結ぶ J R 埼京線の広告ジャックで浜名湖観光を P R。(朝日、2005)

(16) 浜松市の若手観光業者でつくる「環浜名湖の観光振興を考える会」(稲葉大輔会長)が初めて企画した「広告ジャック」が2日、東京と埼玉を結ぶ J R 埼京線の電車でスタートした。(朝日、2005)